

平成19年度 青年海外協力隊 現職教員特別研修 報告書

平成19年4月2日 JICA 国際協力総合研修所（国際会議場）

平成19年4月3日 筑波大学大塚キャンパス



筑波大学教育開発国際協力研究センター（CRICED）

文部科学省国際協力イニシアティブ教育協力拠点形成事業
青年海外協力隊派遣現職教員の支援

はじめに

筑波大学教育開発国際協力研究センター（CRICED）は、現職教員特別参加制度を利用して青年海外協力隊に参加する教員（派遣現職教員）の海外・国内での活動を、平成15年度から文部科学省拠点システム構築事業の下で支援してきました。平成18年度から拠点システム構築事業は第二フェーズに入り、派遣現職教員へのサポートは拠点システム構築事業各課題が協力して実施する体制となり、筑波大学教育開発国際協力研究センターはその調整機能も果たすことになりました。青年海外協力隊現職教員特別研修（派遣前研修）はこうしたセンター業務の一環として行われるものです。

平成19年度青年海外協力隊現職教員特別研修は、文部科学省・筑波大学教育開発国際協力研究センター主催、国際協力機構青年海外協力隊事務局共催で2007年4月2日、3日に実施されました。研修は、国際教育協力に関する講義、国際教育・開発教育に関する講義、任務を終え帰国した派遣現職教員の講義、拠点システム構築事業各課題代表者による講義、ICT活用実習で構成されています。本報告書には、これらの講義や実習の資料を収めています。

今回も国際協力機構のご協力により、昨年に引き続き派遣現職教員が一堂に会する研修が実現しました。研修プログラムは、過去4回の成果と課題を踏まえつつ、任国での活動を支援するためのICT研修、拠点システム構築事業各課題の活動成果を踏まえた成果報告も実施しました。また派遣前研修については実務的な技能習得や情報収集の他に、学校という共通する職場環境から様々な不安や希望を抱えて海外へ赴く派遣現職教員同士が初めて出会い知己を得るという意味で非常に重要な場所になったという声を聞きました。今回の研修が皆さんの活動を支えていく人と人とのネットワークの形成に活用されることを期待します。この2日間の派遣前研修は、私ども関係者にとりましても派遣現職教員の先生方と親交を深め、今後のサポート活動の足場を築く貴重な機会になりました。

本年度の研修実現には、教育委員会・文部科学省・国際協力機構からの派遣現職教員への手厚いご配慮があったものと承知しています。本研修の実施にあたってご尽力いただきました関係の皆様にあらためてお礼申し上げますとともに、今後のご支援・ご協力をお願いいたします。

2007年10月

筑波大学教育開発国際協力研究センター（CRICED）

センター長 中田 英雄

教授 佐藤 眞理子（平成19年度派遣現職教員のサポート担当）

助教授 磯田 正美

研究員 鎌田 亮一（平成19年度派遣現職教員のサポート実務担当）

目次

プログラム.....	1
文部科学省の教育協力について.....	3
白川 浩（文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室国際協力調査官）	
JICA の教育協力について.....	9
原 智佐（JICA 人間開発部第一グループ基礎教育第一チーム長）	
帰国後の社会還元について.....	21
JICA 地球ひろば	
白井 宏明・松元 隆	
（JICA 地球ひろば企画グループ社会還元・ボランティアチーム）	
青年海外協力協会（JOCA）	
長谷川 雅之	
派遣現職教員のサポート.....	31
磯田 正美（筑波大学教育開発国際協力研究センター）	
青年海外協力隊現職教員特別研修活動報告.....	37
金森 万美江（神奈川県立横浜青陵総合高等学校教諭）	
（平成 16 年度 1 次隊、ジャマイカ、青少年活動）	
青年海外協力隊ーフィジーで過ごした 1 年 9 ヶ月とその後ー.....	47
小林 あゆみ（埼玉県朝霞市立朝霞第一小学校教諭）	
（平成 16 年度 1 次隊、フィジー、小学校教諭）	
活動報告.....	51
中川 由生（静岡県立新居高等学校教諭）	
（平成 16 年度 1 次隊、インドネシア、理数科教師）	
筑波大学附属小学校を拠点とした派遣現職教員支援システムの構築.....	55
田中 統治（筑波大学）	

幼児教育－幼児教育分野における派遣隊員支援と幼児教育協力の質的向上－	61
浜野 隆（お茶の水女子大学）	
障害児教育分野における青年海外協力隊派遣現職教員のサポート事業のご紹介	69
前川 久男（筑波大学）	
瀬戸口 裕二	
家政分野における派遣現職教員の活動支援教材および指導法の開発	73
佐々井 啓（日本女子大学）	
「国際協カイニシアチブ」青年海外協力隊派遣現職教員＜体育＞サポート	81
平成 18 年度実施報告	
渡邊 祐輔（JOCA）	
川口 純	
青年海外協力隊派遣現職教員 環境教育分野のサポート	87
村松 隆（宮城教育大学）	
指導手順書の作成	91
村松 隆（宮城教育大学）	
ICT 研修	95
茅野 公穂	
矢原 弘樹	

平成 19 年度 青年海外協力隊 現職教員特別研修

第 1 日 4 月 2 日(月) 会場：JICA 国際協力総合研修所（新宿区市谷本村町 10-5）

12:30～13:00	受付（司会：佐藤真理子）
13:00～13:10	開会挨拶 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長 盛本 功爾郎 JICA 青年海外協力隊事務局国内グループ長 橋口 道代
13:10～13:20	各種連絡 JICA 側連絡、配布資料の確認、ICT 研修の選択希望
13:20～13:30	文部科学省の教育協力について 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室国際協力調査官 白川 浩
13:30～14:00	JICA の教育協力について JICA 人間開発部第一グループ基礎教育第一チーム長 原 智佐
14:00～14:10	休憩
14:10～15:30	帰国後の社会還元について JICA 地球ひろば（30分） JICA 地球ひろば 企画グループ社会還元・ボランティアチーム 白井宏明・松元 隆 青年海外協力協会（50分） 青年海外協力協会（JOCA）事業部事業二課 地球体験学習プロジェクトチーム 長谷川 雅之
15:30～15:45	休憩 ICT 研修のブログ作成/DV 編集の選択希望締め切り
15:45～16:15	派遣現職教員のサポート 筑波大学教育開発国際協力研究センター 礪田正美
16:15～16:25	休憩
16:25～17:55	帰国隊員による報告（各30分） 金森 万美江 神奈川県立横浜清陵総合高等学校教諭 平成 16 年度 1 次隊 ジャマイカ 青少年活動 小林 あゆみ 埼玉県朝霞市立朝霞第一小学校教諭 平成 16 年度 1 次隊 フィジー 小学校教諭 中川 由生 静岡県立新居高等学校教諭 平成 16 年度 1 次隊 インドネシア 理数科教師
17:55～18:00	閉会挨拶 筑波大学教育開発国際協力研究センター長 中田 英雄
18:00～18:20	連絡 2 日目研修班分け・写真撮影
18:30～20:30	懇親会 2F ロビー（会費無料）（司会：礪田正美）

第2日 4月3日(火) 会場：筑波大学大塚キャンパス（文京区大塚3-29-1）

A 班

B 班

8:30～受付	拠点システム構築事業代表者発表 (G501 教室)	ICT 研修 (B1 班: E157 室, B2 班: E158 室)	
9:00～9:25	小学校 筑波大 田中 統治	ICT 活用の意義 (含 JICA ネット) PC のネットワーク接続確認 ・ Skype ・ ネットミーティング ・ アーカイブスへのアクセス ・ ブログ作成 (B1 班) ・ DV 編集 (B2 班) ※ ブログ作成と DV 編集は選択	
9:25～9:50	幼児教育 お茶大 浜野 隆		
9:50～10:15	障害児教育 筑波大 前川 久男		
10:15～10:35	休 憩		
10:35～11:00	家政 日女大 佐々井 啓		
11:00～11:25	体育 JOCA 渡邊 祐輔		
11:25～11:50	環境教育 宮教大 村松 隆		
11:50～12:15	指導手順書の作成 宮教大 村松 隆		
昼食 12:15～13:40	ICT 研修 (A1 班: E157 室, A2 班: E158 室)		拠点システム構築事業代表者発表 (G501 教室)
13:40～14:05	ICT 活用の意義 (含 JICA ネット)		小学校 筑波大 田中 統治
14:05～14:30	PC のネットワーク接続確認	幼児教育 お茶大 浜野 隆	
14:30～14:55	・ Skype	障害児教育 筑波大 前川 久男	
14:55～15:15	・ ネットミーティング	休 憩	
15:15～15:40	・ アーカイブスへのアクセス	体育 JOCA 渡邊 祐輔	
15:40～16:05	・ ブログ作成 (A1 班) ・ DV 編集 (A2 班)	環境教育 宮教大 村松 隆	
16:05～16:30	※ ブログ作成と DV 編集は選択	指導手順書の作成 宮教大 村松 隆	
16:30～16:55		家政 日女大 佐々井 啓	
17:00～	移動		
17:05～	登録情報・アンケート等記入		
17:20～	終了挨拶 筑波大学教育開発国際協力研究センター長 中田 英雄		
17:25	研修終了		

国際教育協力における拠点システム構築事業
青年海外協力隊派遣現職教員のサポート 課題代表者

- 筑波大学 田中 統治
筑波大学附属小学校を拠点とした派遣現職教員支援システムの構築
- お茶の水女子大学 浜野 隆
幼児教育分野における派遣隊員支援と幼児教育協力の質的向上
- 筑波大学 前川 久男
障害児教育分野における青年海外協力隊派遣現職教員サポート体制の構築□
-現職教員研修事業とテレサポートシステムの活用-
- 青年海外協力協会(JOCA) 渡邊 祐輔
体育分野における青年海外協力隊派遣現職教員サポートと国際教育協力の質的向上
- 宮城教育大学 村松 隆
海外教育協力者に対する環境教育実践指導と教育マテリアルの支援
- 日本女子大学 佐々井 啓
家政分野における派遣現職教員の活動支援教材および指導法の開発

文部科学省の教育協力について

白川 浩

(文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室国際協力調査官)

文部科学省で行っております国際協力について説明いたします。教育協力というのは教育分野の国際協力です。

文部科学省による政府開発援助ODA（の規模）は外務省、財務省に続いて第三番目です。三番目といっても400億円強の予算の97%は留学生交流に使われており、残ったところでいろいろな活動をしています。これらの予算による活動以外にも国際協力機構JICAさんとか国際協力銀行（JBICさん）などと協力した活動を実施しています。（連携活動に関する）実際については後ほどJICAさんが説明されると思いますので、（ここでは）特に文部科学省の国際課（国際協力政策室）の方でやっていることを中心に説明します。大きく2つありまして、「現職教員の特別参加制度（の運用）」と「国際協力イニシアティブ（の実施）」です。後者の方はわが国の教育関係者の方々が海外で活動するにあたってそれを支援することを中心に行っています。協力隊関係のことでいいますと、先生方が派遣前、派遣中、そして帰国後にいろいろなことをされる際にお手伝いするというようなことをやっています。今のように、派遣前に研修を行うということも我々の方でやっていることの一つです。

国際協力イニシアティブの教育協力拠点構築事業に関する個別具体的な話、特に皆様方と関係が深い青年海外協力隊派遣現職教員の支援に関する話の方は、明日事業を委託している先生方から（直接）説明していただくこととなります。この領域では、昨年度7件の課題に取り組んでいただきました。課題毎に、どんな取組をしていたのか、どんなことをサポートしようとしているのか等について説明していただくことになっています。

我々としては、帰国後に皆さんが、例えば、国際理解教育や環境教育の中で、（皆さんの）経験を日本の教育にフィードバックしていただきたい期待しているということもありまして、（皆さんのこうした取組を）ご支援することを考えています。皆さんの（派遣）職種としては、「小学校教諭」、「理数科教師」、「養護」、「体育」が多く、この中の95%ぐらいに相当すると思います。そういう方を中心に、現地での活動のサポートを今年度も引き続きやりたいと思っていますし、今年度は、特に、帰国された方がいろんな活動をされるにあたっての支援を強化していきたいと考えています。

それで橋口さんの方からもいわれていましたが、協力隊（事務局）の方で帰国現職教員の方にアンケート調査を行っていただきました。その結果を見ますと、「派遣中に現地から日本に向けていろんな活動を行った」という方が全体の7割ちょっといらっしゃいます。

皆さん現職と言う事もありますし、日本の学校と強い関係をお持ちなのだと思います、（派遣中も）それを生かされようとするだろうと思いますので、そうしたことをされる際にお手伝い、ご支援等ができればと思います。時間の許す限りこうした活動をおやりいただければと思います。

それから、帰ってきてからの様子をアンケートの中で聞いたところ、「本当はいろんな経験のフィードバックしたいのだけれど、現実としては多忙な（日々の生活）中でなかなか（そうした活動が）できない」という人が多いようです。しかし、そういう中でも、帰っ

てきた後に教育経験を活かす活動をされている方もおられまして、そういったことを皆さんにも期待したいと思います。

この現職教員の特別派遣制度というのは、もともと外務省・文科省・JICA・教育委員会等で一緒に作った制度ですけれども、本来の期待としては皆さんの経験が増えること、帰ってきた後にそういった経験のフィードバックをしていただくということがあり、(延いては)日本の教育が少しでもよくなるということが期待されております。そういった意味でも、帰ってこられてからそれらの経験をフィードバックしていただければと考えます。特に、小学校の教員の方は総合的な学習の時間等があると思いますので、こういったところでうまく経験をフィードバックしていただければと思います。

それからもう一つ、アンケートの結果によりますと、この事業に参加したことに満足して帰ってこられた方が多いです。現実的には皆さん、「非常によかった」と「まあよかった」を合わせると100%の方が満足しておられています。そういった意味では、これから二年近くを海外で過ごされるわけですが、帰ってこられた時に「行ってよかったな」と思われるような活動を(できるだけ多く)していただければと思います。

こういった現職の制度ができる前は、(教職を)辞めて行かれたり、(多少無理をして)派遣法によって行くしかなかったのですが、こういった制度ができて皆様現職のまま行けるようになっております。是非とも現職であることの強み、または経験を活かして活動され、さらに帰ってこられてからはそれを日本に戻すということをやっていただければと思います。そのことを我々もまた支援させていただきたいと思っています。行かれています間もいろいろこちらから連絡させていただくこともあると思いますが、皆様方の方から連絡いただいて、こういったことをもっとやったらいいのではないかとということがあれば教えていただきたいと思います。

2年近く、長いようで短いと思います。元気に活動していただき、帰ってきた後もそれを日本の教育にフィードバックしていただければと考えます。

どうもありがとうございます。

「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業

開発途上国における開発協力のため、大学・NGO等、我が国の教育関係者等が有する教育研究上の知識や経験を整理・蓄積するとともに、我が国の知見を踏まえた開発協力モデルの構築などを行うことにより、国内外の援助関係者が開発協力の現場で容易に活用可能かつ活用効果の早期発現が期待できる成果群を形成することを目的とする。

教育研究に関する 我が国の経験の活用

基礎教育および高等教育を対象とする。

- ・教育研究に係る我が国の知識や経験の整理・蓄積、理論化やモデル化、実証を通じた開発協力モデルの構築
- ・援助リソース(高度人材育成機能や研究成果等)の把握とNGO等を含む援助機関との連携体制の構築

【活動例：基礎教育や高等教育の対象分野】

- ◆教育行財政
- ◆食農環境教育
- ◆教育改善 等
- ◆教員研修
- ◆女子教育
- ◆学校保健教育
- ◆ライフスキル教育

青年海外協力隊 派遣現職教員の支援

小学校教諭、理科科教師、養護、体育の4職種で派遣される教師の活動支援を主な対象とする。

- ・派遣現職教員の派遣前や派遣中の活動を対象とした教育的観点からの支援
- ・帰国現職教員が実施する総合的な学習(国際理解教育や環境教育等)ほか教育関連の活動を対象にした支援

【活動例：派遣現職教員が現地で担当する主な活動分野】

- ◆理科実験
- ◆図工
- ◆保健衛生
- ◆音楽
- ◆体育
- ◆学校行事・特別活動 等

成果品関連アーカイブスの管理

事業全体に係る成果品の収集と管理、関連資料の収集と管理、広報等の実施を担当する。

JICA の教育協力について

原 智佐

(JICA 人間開発部第一グループ基礎教育第一チーム長)



皆さん、こんにちは。資料は JICA の基礎教育分野の協力という資料が、お手元にありませんでしょうか。皆さんは現職派遣ということでこれから研修を受けられてそれぞれ活躍されるわけですが、その国で協力隊の活動以外の場、教育分野の技術協力が同じ国で実施されているかもしれません。あるいは皆さんは隊員として活動されるわけですが、JICA の教育協力の全体像がどうなっているかと思われるかもしれません。そんな時に今日話したことを思い出していただければと思います。今日お話しすることですが、JICA の基礎教育分野の協力の重点課題と教育事例ということ、これを最初にお話しして、最後に協力隊と技術協力プロジェクトの連携事例というのを話したいと思います。

最初に基礎教育協力の重点課題ということですが、JICA では基礎教育とか高等教育とか感染症対策であるとか課題ごとの取り組みの考え方、そしてその内容の詳細の検討を行ってきています。基礎教育については平成 17 年に基礎教育の課題別指針というものを作っており、この中で 5 つの重点課題というのを定めております。まず第一が就学率の向上、二番目が教育の質の向上、三番目が教育マネージメントの改善、四番目がジェンダー格差の是正、そして五番目がノンフォーマル教育の拡充です。これからこの五つについて、それぞれの考え方とどのような教育が行われているかということをお話したいと思います。

まず就学率の向上です。2015 年までに全ての子どもが初等教育を受けられるようになるという国際的な公約がありますがおそらく 2015 年までには達成されないと見られています。これは Education for all の中に定められているのですが、この就学率向上ということのためにはハードとソフトの両面の取り組みが必要と考えられています。ハードというのはもちろん適切な学校が適切な距離にある、例えば 2 時間歩かなければ学校へ行けないということでは小学校 1 年生の子にはなかなか行けないといったハード面。それから日本では今の時代あまりないと思うのですが、途上国などの場合、家庭や地域と学校の距離が非常に遠い、物理的な距離ではなくて心理的距離ですね、非常に遠いということがしばしばあります。特に多様な民族がいる国では、学校教育は行政を担う支配的な民族が行っている、少数民族の場合、支配的な民族といわば利害関係・対立関係にあり、支配的な民族のものである学校にはなかなか近い感情を持ってない、子どもをやりたくないといったようなことがあります。学校と地域の社会的な距離を近づけるといっても就学率の改善のためには重要です。

ハード面については 1990 年代半ばから無償資金協力によりまして小中学校の建設、新規の建設もありますし教室の増設というものもありますが、こうした取り組みを行っています。また学校を必要としている子どもの住んでいる分布状況に応じて効率的な学校建設計画を作るというスクールマッピングということも行われています。

ソフト面については学校に行っても適切な教育が受けられない、例えば子どもがたくさんいて教室がすし詰め状態で、先生の日も行き届かず、勉強する状況にないとか、教科書が 3 人、4 人、5 人に一冊で学校に行ってもまともに勉強できないといったこともしばしばあるわけで、こうしたことに対応する教員の養成や教材の整備ということも就学率の向上

には重要なこととなってきます。

また先ほどお話しした学校とコミュニティの心理的、社会的距離の改善ということについてですが、行政や学校からコミュニティへの働きかけも重要です。日本であれば6歳になれば自動的に学校に行くという行政からの働きかけもあるわけですし親も当然そう考えます。けれども、国によっては子どもが学齢に達しても行政からアナウンスもないし親も学校にやろうと思わない、そのまま学校に行かないで入学の時期が過ぎてしまうということも少なくありません。こうした行政や学校からのコミュニティへの働きかけということも重要になってきます。

それからまた後でお話しますが、途上国の場合、いわゆる学校教育ですね、1年生から6年生・中学校という、いわゆる学校教育だけで全ての学生にいい教育を受けさせるということは難しくノンフォーマル教育という学校とは違う教育が提供されている場合があります。こうしたノンフォーマル教育も就学率の向上には非常に重要です。

次に教育の質の向上ということについてお話ししたいと思います。この背景としては教師中心から児童中心へ、あるいは暗記中心から考える授業へとといった考え方があります。教師中心から児童中心へということは世界的な潮流で、これにそったカリキュラムの改定が多く国で行われているのですが、でも実際に子どもにどうやって考える力をつけていくのか、というところまできちっと教員が力をつけているという国はそう多くはありません。これから皆さんが任国に行かれて学校に配属されて同僚の先生方の授業をご覧になると思いますが、教師が一方向的にしゃべり続ける授業ですとか、あるいは暗記したことを教師が質問して、条件反射のように暗記したことを答える授業ですとか、国によっては教師が非常に権限を持っていて教師に逆らえないどころか質問もできず、鞭を持っているとかですね、まれなことではないです。そういった教師中心、暗記中心という授業をご覧になると思いますが、これに対してJICAは理数科教育を中心とした教授法の改善、教材や指導書の開発、あまり多くないですが教科書やカリキュラムの改善、現職教員研修あるいは教員養成、それから最近そういった活動の中で日本の授業研究というのが国際的にも注目されていて授業研究を取り入れるプロジェクトというのも多くなっています。

教育の質の向上に関して、特に日本の教育協力の特徴として理数科教育ありますのでこの点についてふれます。なぜ日本の教育協力の中で理数科教育が重視されたかということなのですが、ここにありますように日本の理数科教育の水準が最近下がってきているという話もありますけれども、まだまだ高い水準にあるということで日本の理数科教育に対する評価があります（スライド6）。それから例えば日本が他の途上国に行って社会科を教えるという価値の問題もあり難しいと思いますが、基本的に価値中立であるということ。それからことばの壁が厚くない、その国のことばを教えるということになるとなかなか難しいこともありますが、ことばの壁が低いということ。先ほど「考える授業」といいましたが、科学的、論理的な思考力を養うという意味で重要な授業であること。それから特に理科における実験観察等ということで授業方法改善という目に見える授業方法改

善ということが行われる授業であること。さらには途上国の期待としては日本が理数科を中心とした教育を基礎に経済発展をしてきたのだからということ、経済発展の基礎としての位置づけとしても途上国からは期待されているようです。

現在、理数科教育プロジェクトというのはここにありますような26のプロジェクトを実施しています(スライド7)。もともとは1994年に、フィリピンで理数科プロジェクトが始まっているのですが、最近では理数科に限らず指導法改善ということ協力が行なわれています。もちろん教科の内容についてはその国の人が参加するという形で、社会科ですとかその国のことばを教える場合の指導法改善を行っている場合もありますが、必ずしも理数科に限らない指導法改善のプロジェクトというのも実施されています。

ここでちょっと技術協力プロジェクトということばが出てきたので、それを簡単にご説明しておきたいと思います。皆さんは青年海外協力隊のボランティアという形で途上国に派遣されるわけです。それとは別に技術協力プロジェクトという技術協力の仕組みがあります。一般にはこれは国レベルの教育の強化、それから規模的には比較的大きな規模、例えば一つのプロジェクトに3人から5人の人が専門家として入って、3年から5年程度、長いものではフェイズを繰り返して、それ以上続くものもありますけれども、長期にわたって協力を行います。これはボランティアということではなく、業務として対価が支払われる形で行われます。いくつか事例を紹介したいと思います。まず理数科協力プロジェクトの事例ということでケニアの中等理数科教育強化計画プロジェクトというものがあります。現在これを中心として周辺国とも協力する形でマラウィ・モザンビーク・ザンビア・ナイジェリア・ニジェール・ウガンダで理数科教育の協力プロジェクトが行われています。このケニアのプロジェクトは現職教員研修を通じた中等レベルの理数科教育の強化ということを行っていき、協力内容としてはまず学校現場の調査に基づいて研修内容を策定して第一段階としてディストリクト・トレーナーを全国で千人養成するんですね。この養成された千人のディストリクト・トレーナーが全国でまた教員に対して研修を行うというカスケード方式の上から下に流れていく形の研修を行っています。このプロジェクトを通じてイン・サービス・エジュケーション・トレーニング、現職教員研修のシステムが構築されたということ、それから授業法を中心に理数科教育の質の向上がなされたことという成果が上がっております。また先ほど周辺国にも広がっていますとお話をしたのですが、周辺国でケニアと同じような理数科教育の課題を抱えているということが確認されて、こうした周辺国への協力も開始しています。

次に三番目の課題の教育行政・学校運営に関するマネジメントについて説明したいと思います。この背景として多くの皆さんの行かれる国でも経験することだと思っておりますけれども教育の地方分権化ということが進んでいます。従来中央集権的な形で、チョーク一本まで中央が配るといった形が行われていたのですが、それに対して現在スクールベースのマネジメントということが言われています。それから最初の方でお話した学校と住民の距離が遠いということも関係がありますけれども教育への住民参加の重要性というこ

と、こういったことを背景に教育行政や学校運営に関するマネジメントへの支援ということを行っております。具体的な取り組みとしては提案型の小規模教育改善事業、これはある学校があるとして、そこに関係する先生や親や地域の人たちがこの学校をよくしていくにはどういうことをやったらいいんだろうか、教材を整備することが必要なのか、先生の指導力を高めることが必要なのか、あるいは学校の施設をよくすることが必要なのか、それ以外にやるべきことはないのか、そういった学校をよくするためには何が必要かということを経験者が考える、それに対して事業費をつけて学校改善を行っていくというものです。これのために従来ですと校長先生が決定し、予算を取って、例えば教師の数を増すとか、図書を入れますとかということがなされていたわけです。けれども、住民参加が重要だと、関係者の参加が重要だということで現在学校運営委員会、これも学校関係者ということで校長・教師、それから親、コミュニティの人も入っている場合が多いですけれども、そういった地域参加型で学校改善を行っていくということを行っています。それから学校管理者の能力強化、クールマッピング、教育プランニングといったことを教育行政・学校運営に関しては行っています。次に教育行政・学校運営の事例ですけれども、こういった取り組みは最初にインドネシアで始まっていて、それについて簡単に紹介したいと思います。この背景としては'97年の経済危機で就学率の低下が発生したこと、地方分権化の中で教育行政の地方の郡とか県とかのレベルでの教育行政の強化が必要になったことが背景としてあります。取り組みとしては先ほどもお話したような住民参加によるボトムアップ・アプローチによる教育開発のためのプロポーザルの作成と事業実施、住民参加によって学校を良くするためには何をすべきかということを考えて、それについて計画書とかプロポーザルを作るんですね。これを作るためにここにいますような校長・教員代表、保護者代表、政府代表、地域住民代表による学校委員会というものを設立しています。これで具体的にどういう事業がなされるかということですが、教員研修であるとか、授業研究であるとか、それから教材の開発や購入、学校や教室の改善といったことが行われています。こうした学校改善の取り組みを通じてどのような成果が生まれているかということですが、就学者数の増加であるとか、ドロップアウトの低下、あるいは欠席率の低下、それから教員研修等を行うことによる教育の質の向上ということが成果として出ているわけです。これがどういう仕組みで成果が生まれるかということですが、直接的には改善事業によって教師の能力が向上したり、教育環境を改善するということがあります。もう一つ重要なことは間接的な効果ですが、パイロット事業をやることによって、教育に関心がなかった親や地域が学校に関心を持つようになった、学校に行かない子どもがいたら学校に行かなくちゃいけないよと考えるようになった、それからコミュニティと学校の関係が近くなったこと、これらを通じて今まではコミュニティとのコミュニケーションがなかった学校がコミュニケーションを持つことになり、このことを通じて地域の関心も高まるし、それから先生たちも地域に目をむけるようになる、あるいは地域のことを考えた学校運営をしていくようになる、あるいは親の期待の中で先生た

ちのやる気も高まってくるといったモチベーションの向上ということも、就学数の増加には貢献しているというふうに考えられています。

次に四番目の重点課題であるジェンダー格差の是正ですけれども、これについては女子の就学を阻害する要因を調査しそれを改善していくこと、これは学校側の要因もあります。例えば特にアラブ・イスラム圏で顕著ですけれども、女性教員が少ないために親は子どもを学校にやりたくないといったことがあります。女性教員を増やすとか、あるいはトイレがきちんと整備されていないために女の子が学校に行きたがらないということで施設を整備するという学校側の要因を改善するということもあります。一方これもやはり中近東・イスラム圏に多いのですけれども、例えばアフガニスタンではタリバンの時代には女の子に教育を受けさせていなかったわけです。地域や親が女の子を学校にやろうという意識が低い中で、こういった地域で啓発活動を行っていくということもジェンダー格差の是正のためには重要なことです。事例としてイエメンの女子教育向上計画というものがあります。イエメンは世界で最も教育に関する男女格差が大きい国といわれていまして、学校に行けない子どもが男子 100 人に対して女子 185 人という非常に女子の教育への参加状況の悪い国の一つです、ここではもちろん学校の条件を改善することも必要ですけれどもコミュニティや親の意識を改善していくことが重要ということで双方に働きかける参加型の学校改善の事例というものを行っています。

最後に五番目の課題として、ノンフォーマル教育支援ですけれども、先ほどもお話ししたように、途上国の場合、学校教育・フォーマル教育だけで全ての子どもに教育を提供するというのは難しい状況にあります。多くの国でノンフォーマル教育というのが行われていますけれども、こういう形がノンフォーマル教育ですというのはちょっと説明しにくくてその内容は非常に多様なものになっています。一応定義としては、ある目的を持って組織される学校教育システム外の教育活動ということになっていますけれども、内容としては識字教育、これは子どもも受けますし、子どもの時に学校に行けなかった大人も含みます。それから近所に学校がないあるいは経済的な理由で学校に行けない子どもの代替手段としてのノンフォーマル教育というものがあります。それからこれは日本でもありますけれども、職業教育とか生涯教育もノンフォーマル教育の中に位置づけられています。これにつきましても JICA ではノンフォーマル教育の指針というのを整備していますので、あとで資料コーナーにおいておきたいと思います。先ほどの女子教育もですけれども、ノンフォーマル教育もまだそれほど、事業が展開しているわけではない、JICA としてはまだ始まったばかりの事業ですけれども、アフガニスタンでは識字教育強化というものを行っています。これは先ほどタリバンの時代に女の子を中心に教育が受けられなかったとお話ししましたが、非識字者が非常に多い、700 万人以上といわれていますけれども、こうした人々への識字教育を強化するという事でこのプロジェクトは一人を対象に識字教室を展開するものです。

最後に協力隊と技術協力プロジェクトの連携ということについてお話ししたいと思います。

皆さんの行かれる国で隊員が派遣されて、かつ、技術協力プロジェクトが動いている国と動いていない国があります。技術協力プロジェクトがある場合に協力隊と技術協力プロジェクトの関係がどうなっているかということですが、これはケースバイケースで両者が個別に活動しているケース、それから協力隊と技術協力プロジェクトが独立して活動しているけれども補完的な関係にあるケース、それから両者がしっかり共通の枠組みの中で活動しているケース、3つぐらいに分かれると思います。これは一概にどれがよくてどれが悪いというのではなくて、協力の成り立ちや協力の考え方にもよるわけですが、どれもいずれのケースにおいても国レベルの取り組みと現場に入っている協力隊の情報共有を行うというのが非常に重要だと思います。技術協力プロジェクトといいますと、途上国の教育省をカウンターパートとして事業を展開していくわけですが、そこは中央レベルなのでなかなか現場レベルの情報が入ってこない、皆さんは現場レベルに派遣されるので双方の情報を共有するということがより効果的な事業というのが展開されるのではないかと思います。それぞれの国で技術協力プロジェクトと隊員活動がどういうふうな協力関係になっていくかといったことはこれから派遣前研修の中で話を聞かれることもあるでしょうし、あるいは派遣されて JICA の事務所で話を聞かれることもあると思いますので、個別の事例についてはふれませんが、ぜひ情報共有ということのを頭の隅に置いていただくといいと思います。

以上で私のプレゼンテーションを終わります。

教育の質の向上

—理数科教育がなぜ重視されたか—

- 日本の理数科教育に対する評価
- 価値中立的
- ことばの壁が低い
- 科学的、論理的思考力の向上の重要性
- 教授法改善を行いやすい教科(特に理科における実験観察)
- 経済発展の基礎

6

JICAの基礎教育分野の協力

重点課題、プロジェクト、協力隊との連携

2007年度青年海外協力隊現職教員特別研修
2007.4.2

独立行政法人国際協力機構
人間開発部基礎教育1チーム
原智佐

1

理数科教育協力プロジェクトの事例
ケニア中等理数科教育強化計画プロジェクト1, 2

成果

- INSETのシステム構築
- 理数科教育の質的向上(特に授業法の改善)
- アフリカ諸国が理数科教育において共通の問題を抱えていることを確認し、周辺国との協力を開始した。

9

理数科教育協力プロジェクトの事例
ケニア中等理数科教育強化計画プロジェクト2
(2003-2008)
(フェーズ II における広域協力の展開)

- ケニアにおける第三国研修の実施
- アフリカ6カ国でSMASSEと連携したプロジェクトが開始される。
マラウイ、ウガンダ、ナイジェリア、ザンビア、モザンビーク、ニジェール
- 域内会合の開催
情報の共有化、情報ネットワークの構築

10

教育行政、学校運営に関するマネジメント
ー背景と取組みー

背景

- 教育の地方分権化
- School-based management
- 教育への住民参加

取組み

- 提案型小規模教育改善事業
- 学校運営委員会
- 地方教育行政官、学校管理者のキャパシティデベロップメント
- スクールマッピング、マイクロプランニング

11

教育行政、学校運営に関するマネジメントの事例
インドネシア
地域教育開発支援調査(1999~2005)
地方教育行政改善計画(2004~2008)

背景

- 1997年の経済危機による就学率低下
- 地方分権化の中での教育行政のキャパシティデベロップメント

取組み

- 住民参加によるボトムアップアプローチによる教育開発のためのプロポーザルの作成と事業実施
- 住民参加:校長、教員代表、保護者代表、生徒代表、地域住民代表による学校委員会の設立
- 事業内容:現職教員研修、授業研究、教材開発・購入、学校・教室の環境改善(黒板、机、椅子、教室の修理、トイレ等)等

12

教育行政、学校運営に関するマネジメントー成果ー
インドネシア
地域教育開発支援調査(1999~2005)
地方教育行政改善計画(2004~2008)

成果

- 就学者数の増加
- ドロップアウトの低下、欠席率の低下
- 教育の質の向上
- ↑
- パイロット事業による教師の能力向上、教育環境の改善
- パイロット事業実施を通じた親や地域の教育に対する関心、主体者意識の高まり
- コミュニティと学校の関係強化
- これらを通じた校長、教師のモチベーションの向上

13

ジェンダー格差是正
ーアプローチー

アプローチ

- 女子の就学を阻害する要因の調査と改善(教科書等におけるジェンダーバイアスの除去、女性教員の増員、女子に配慮した学校施設)
- 地域社会、家庭の女子教育阻害要因の調査と改善(啓発活動、学校と保護者のコミュニケーション強化)
- 女性のロールモデルの創造
- 成人女性への識字教育

課題別指針「基礎教育」

14

ジェンダー格差是正の事例 イエメンタイズ州女子教育向上計画 (2005～08)

目的

地方行政、学校、コミュニティが参画する基礎教育改善事業
↓
学校、コミュニティ主体の女子教育促進の地方教育行政モデルの開発

取組み

- 学校、親、コミュニティ参加による女子教育向上のためのプロポーザル作成と事業実施
- 事業内容: 女子教員の雇用、教室の建設改修、女子トイレ、水タンク、母親向け識字教室、裁縫教室(母親、女子児童)、
- 啓発活動(セミナー、ラジオCM、女性・母親の参加促進)

15

ノンフォーマル教育支援 —多様性—

内容

- 識字教育(子ども、成人)
- 学校教育の代替としてのノンフォーマル教育
- 職業教育、生涯教育

課題別指針「ノンフォーマル教育」04年9月

<http://www.jica.go.jp/km/FSsubject0101.nsf/50e70e491615c34a492571c7002a982d/5c8ec3146876415e49256fb2000dc9ab?OpenDocument>

「ノンフォーマル教育の拡充に向けて」05年5月

http://www.jica.go.jp/branch/ff/c/jigyv/report/field/200505_01.html

16

ノンフォーマル教育—事例— アフガニスタン識字教育強化

目的

- 700万人以上の非識字者への識字教室の実施と持続的な識字教室実施のための識字局の能力強化

内容

- 識字局の能力強化(データ管理、教材作成・配布、識字スーパーバイザーの能力強化、NGO等との連携)
- 識字教室の面的展開(1万人対象、識字局が計画策定、モニタリングを行い、実際の識字教室はNGO委託により実施)

17

協力隊と技術協力プロジェクトの 連携事例

ベトナム

技プロ: 現職教員研修モデルの開発

協力隊: 小学校での活動

バングラデシュ

技プロ: 教員養成校・モデル校の教員件数モデル、教材開発の開発

協力隊: 開発されたモデルのパイロット校での試行

ケニア中等理数科教育強化を中心とした広域協力

技プロ: 現職教員研修制度の確立

協力隊: 情報、方向性を共有

ホンジュラス算数指導力向上プロジェクトを中心とした広域協力

技プロ: 理数科教材開発、普及

協力隊: 小学校での活動に際し、教材を共有

18

協力隊と技術協力プロジェクトの 連携類型

- 両者が個別に活動しているケース
- 両者は独立して活動しているが、補完的な活動をしているケース
- 協力隊が技術協力プロジェクトの中に位置づけられているケース

19

帰国後の社会還元

白井 宏明・松元 隆

(JICA 地球ひろば 企画グループ 社会還元・ボランティアチーム)

長谷川 雅之

(青年海外協力協会 (JOCA) 事業部事業二課 地球生活体験学習プロジェクトチーム)



帰国後の社会還元ということですが。皆さんこれから青年海外協力隊の訓練生を経て協力隊員になれるということなんですけれども、この制度は二つの目的がありまして、皆様の現職教員としての知見を途上国の教育現場に還元していただくこと、これが一つの目的、その後の目的というのが実は長くかつ大事なことなのですが、今度は途上国で得た経験を日本の学校に還元していただくこと、この二つの目的がこの制度にはあるんじゃないかと思っております。今はこれから行く国のことで頭がいっぱいじゃないかと思うんですけれどもその後24ヵ月後、2年後の4月、平成21年、2009年の4月には再び日本のそれぞれの地域の学校に戻られるということになってその2年後にどんなことをしたらいいのかということイメージを持ってもらうためにこれからの講座を行います。今日の講座のねらいということで申し上げたことは目的の二番目のところに当たります。帰国後の日本の学校での活動は世界の学校に居る時からすでに始まっているということを理解する、理解していただくことですね、これが大事なことです。もう一つ、一番目、JICAの定義する開発教育、開発教育について後で説明しますが、開発教育について理解していただきたいということこれが今日の講座の一番目の目的です。三番目で、開発教育で導入されている参加型ワークショップ手法ということについて実際に体験し理解いただくということを目的とする、今日はこの三つの目的をこれから進めていこうと思えます。【白井宏明】

皆さん、こんにちは青年海外協力協会、通称JOCAの長谷川といいます。このJOCAというのはOB・OGのみで組織されている団体なんですけれどももしかする今後ちよくちよくお会いするかもしれません。皆さんももしかすると名前を聞くことがあるかもしれません。またその時はよろしく願います。早速なんですけれどもアイスブレイクとして今から10分くらいでお話したいんですが、現職参加の皆様の手元には4つ切りの紙で教師になる前と今の自分という紙が一枚有るとおもいます。ちょっと聞いてみましょうか。教師になって5年未満の方はどれくらいいらっしゃいますか。3分の1、4分の1くらいですね。では10年以上の方はいらっしゃいますか。3分の1くらいいらっしゃいますね。皆さんが教員になったばかりのころを思い出していただきたいんですけれども、教員になる前の自分と今の自分、考え方・習慣・態度、変わったことってありませんか。2分くらい時間を取りたいと思います。ちょっと昔の自分と今の自分、思い出しながら、比べながら、書き出してみてください。・・・はい、よろしいでしょうか。書かれているところまで一度聞いてみたいんですが、誰か・・・紹介してもらえますか。(私は教員になる前は人前で話をする時のポイントが分かっていなくて、時間を効率的に使っていませんでした。歌があまり上手じゃなかったんですが、今は人前で話す時にことばに気をつけるようになった。時間が上手に使えるようになった。歌を歌うのが楽しくなってきたということがありました。以上です。)ありがとうございます。皆様から拍手が来るのもありがたいですね。歌がうまくなるっていいですね。おそらく子どもたちと一緒にいろんな歌を歌っているんでしょうね。つぎはですね、せっかくなので、自己紹介を兼ねてもらってかまいません。皆様の両隣、あるいは

は前後にいらっしゃる同じ現職の先生の変わったこと、あるいは自分の変わったことというのをちょっと時間を取って共有したいと思います。ざっくばらんでかまいませんので、お近くをお探しいただいて 4 分くらい時間を取りたいと思います。共有してください。……はい、ありがとうございます。どうですか、いろんな驚きがありませんでしたか。えっと思うこととか、なるほど私もそうかもしれないと思うこと、場所が変わったり時間軸が変わったりすると人って変わっていきますよね。おそらくこれから皆さんが任国に行って帰ってくる 2 年後というのを想像してもおそらく皆さん変わっていると思います。考え方もかもしれません、行動かもしれません、態度かもしれない、学んだことをもしかすると現場の子どもたちに伝えたいと思うものがあるかもしれません。これはちょっと変わったという話はそう思った時に役に立つ情報、あるいは使えるものというのを今日今から時間にして 1 時間くらいの中で話していきたいなと思っています。【長谷川雅之】

(今から白井が話します) 今から開発教育ということばと国際理解教育という言葉について確認をしたいと思います。開発教育ということばをこの講座に来るまで聞いたことがなかった人、……、15 人くらいでしょうか。国際理解教育ということばを聞いたことがない人、……、さすがにいらっしゃらないですね。ではもう一つ質問します。3 月までに国際理解教育を担当したことがある人、……、12~3 人というところでしょうか。開発教育と国際理解教育の同じところと違うところを確認しておきたいと思います。JICA が独自に定義した開発教育はありませんが、ODA 政府機関で使われているものを我々は準用させてもらっています。「開発教育とは貧困・飢餓・環境破壊など国際社会・地域社会の現状を知り、開発・環境・人権・平和をはじめ様々な問題の理解を深め、国際協力・開発援助の重要性の認識を深めるための教育、また開発途上国と先進国との関係を含め国際社会の問題の解決に向け、何らかの形で参加する態度や能力を養うことを目的とした教育」、こちらは「21 世紀に向けて ODA 開発懇談会報告書」に出ています。ということでフォーマルな定義も持っているということをおさえておいてもらいたいと思います。ではなぜ JICA が開発教育ということばを使うようになってきているかということをおし上げたいと思います。このことばはもともと援助、途上国の開発の現場から生まれたことばなんですね。草の根や NGO の活動の中から生まれた概念で、いろんな NGO とか欧米を中心に途上国援助を長くしている間にいろんなキャンペーンをしないとチャリティでお金を支援してくれる市民に伝わらないということから広報・キャンペーンが始まったんですね。その後単なるキャンペーンだけじゃなく、先進国と途上国といわれる地域の関係性とかそういったところへの理解が先進国の市民の中で深まっていき、開発教育、開発に関する教育ということで概念が生まれてきたということでございます。一方国際理解教育、皆さんが日常の業務用語としてお使いになる国際理解教育なんですけれども、英語で International Understanding Education、これは二つの名前があるんじゃないかと私考えています。一つはユネスコ、1974 年の勧告ということで「国際理解、国際協力、および国際平和のための教育ならびに人権および基本的自

由についての教育に関する勧告」を見ると、取り扱うべき人類の主要課題として、民族・平和・軍縮・人権・人種差別・開発・人口・環境などの問題を提起しています。一方日本で実際に教育現場にいらっ尺皆さんがどういうふうな国際理解教育についてどう定義しているかということについて微妙な感覚としてわからないところもあるんですが、知識として知っている限りではここに書いているような中教審の答申、「国際社会に生きる日本人の育成を軸とし、主として日本の伝統文化への理解と尊重、異文化理解、外国語のコミュニケーション能力の育成を目指すというようなことがあるのかなと思います。結論めいていうと、全ての概念が必ずしも重なっているとは思わない。ただし似た領域があり、開発教育にしても、国際理解教育にしても、途上国と日本との関係そういったところで世界の問題について私たち、大人と子どもがどういった態度をとったらいいかということの学習ではないか。ということで JICA としては、開発教育と国際理解教育の二つは重なる領域が非常に多いということで、援助の現場に近いために、開発教育と使っているんですが、同時に日本の学校現場では国際理解教育ということばが使われているということも承知していますので、二つの用語を併用しながら実際の業務にあたっています。これから皆さんが途上国へ行かれると開発教育ということばをよく聞かれるんじゃないかと思います。それで日本に戻ると国際理解教育ということばしか普段聞かないのであれっと思うかもしれませんが、重なっている部分が多いということで理解していただければと思います。

私たちは皆さんの 24 ヶ月後を考えていただくために講座を行います。ここで強調したいのが現地にいる間から帰国後にどのようなことができるか、その準備とか心構えをしていただければなあということをお話したいと思います。現地で帰国後のことを意識しながら活動するという人もいらっしやることを紹介したいと思います。いくつかの在外事務所では試験的に開発教育を業務の中に取り入れているところもあります。ニジェール、マレーシアなどです。これから行くニジェールの子もたちに何を教えるかなどというときに日本の事例を応用することもあると思いますが、同時に帰国後にはニジェール、マレーシアで得た資料をどうやって活用するかということイメージしてもらえればと思います。そのための参考のビデオを後ほど見てもらいます。【白井宏明】

皆さんこんにちは、松本と申します。私は JICA の開発部教育事業部を担当しているんですが、もう少し詳しいことを紹介します。まず JICA のスタンスについて、開発教育の担い手は直接的には JICA が全てやっているということではなく、日本の先生方が基本的なメンバー、それから開発教育を活動目的としている NGO・市民団体など様々有り、その活動も多様です。こうした開発教育の担い手の中で JICA としても学校等の継続的な教育現場を持っていないということもあり、JICA のスタンスとしては開発教育を側面から支援する事業ということに重点を持っています。皆様方をはじめとする先生方が主役ではないかということで支援しているというスタンスです。基本的な考え方として、開発途上国と日本の市民との架け橋としての JICA の責務、社会的な責務ということですが、JICA というのは途上

国に対する技術協力を実施する機関でその活動の中で関係する人々の経験や知見を蓄積しているそういったことを日本の社会の方にも還元していく必要があるのではないかと、それで社会還元という用語を使っていますが、私どもの部署の名前も JICA 社会還元ボランティア支援といいます。JICA による日本社会への還元ですね、こういったものが近年より重要になっているという認識があります。JICA がやっている社会還元事業ですが、主に 2 つのポイントで行っています。日本社会への開発途上国の知見の還元、市民が実質的に何ができるかを考える機会を提供するという 2 点で進めています。具体的なプログラムは知見の還元で主なものを上げますと、まず国際協力出前講座があります。これは右上の写真、主に青年海外協力隊の経験者の方を主に学校で、学校以外に公民等でもあるんですが、ほとんどの場合学校に協力隊の経験者を派遣して途上国の話をしたり、自分たちの経験について語っていただいたりして、日本の子どもたちに途上国の話しをしてもらう、それから日本と途上国との関わりについて考えてもらうそういったことをやってもらうプログラムになります。これは皆様方にも関わってくることなんですけれども、年間に全国で 2 千件ほど 20 万人ぐらい受けていただいて、非常に大規模な教育プランなんですけど、こういった分野で御活躍いただくことがあるかと思います。JICA としても期待しているということです。これについて関連のビデオ CD がございますのでちょっとごらんいただきたいと思います。出てくる方は皆様方と同じように現職の教員で協力隊に参加されてモンゴルに行かれて帰ってきて、それでこの国際協力出前講座を実施していただいたということになりますので、ちょっとイメージを持っていただけるかなと思います。

(ビデオの視聴)

いかがだったでしょうか。今の方のように皆様方もそれぞれの任地に行って貴重な経験をなさるとしますので、ぜひその貴重な経験を 2 年後に日本の子どもたちに対して伝えていただきたいなと思います。

続いていきたいと思いますが、他のプログラムとしては施設訪問の受け入れ、例えば私が所属しております JICA 地球ひろば、渋谷区広尾にあります、2・3 の写真ですが日本の市民の皆様にも途上国のことをいろいろ紹介していくことをしています。それから 3 番として開発教育の内容を教材として作成しております。JICA のほうでも若干教材を作っているものがありまして、下の方の写真ですね、アニメーションで JICA のホームページ上で見れますけれどもぼくら地球調査隊というアニメーションも作っております。1 番は学校の壁新聞なんですけどこれまでいろんな問題、砂漠化の問題とか JICA の方で作成して学校に派遣というのがございます。左下の写真、といいまして開発途上国のいろんな景色を情景を写した写真を貸し出してあります。こういったものを使って授業等を行っていただくということですね。期間勉強することなんですけど、中学校・高校でエッセイコンテストを行っています。前回 2006 年度、全国で中高あわせて 4 万 4 千人以上の方が参加してくれたんですけども、皆様方また学校に戻ったら学校の方で参加していただくとか、御検討いただければと思います。国際協力実体験プログラムというものですが、これは JICA の国内機関 18

箇所です。生徒さんを対象に行っています。それから教師海外研修というものがあまして、百聞は一見にしかずということで約10日間先生方に途上国の状況を体験していただいてそれを日本に帰ってきて、授業に生かしていただく、事業の成果はJICAのホームページを通じてシェアしていただくということをやっています。皆さんは参加できませんが同僚の先生方に紹介してほしいと思います。最後に開発教育指導者研修というものがあまして、これは途上国へ行くということではないんですが、開発教育についてのセミナーをNGO・教育委員会と連携して行うということをやっております。この後参加型ワークショップの体験となります。最後に確認として皆様をお願いしたいんですが、2年後の帰国後、御自分の学校に帰って先ほどのビデオの先生のように経験を生かして地域・学校の開発教育・国際理解教育の中心的な人材として率先して実践をお願いしたいと考えています。協力隊の皆様には一般論として帰国後も御活躍いただきたいというのはあるのですが、その中でも特に現職の教員の皆様については学校の現場に帰っていかれるということですので、特にJICAとしてもぜひ御活躍していただきたいというふうに考えています。私たちの課題として皆様方が帰国される2年後までに、メーリングリストなどJICAとして皆様方が活躍されるための情報整理とかサポート体制の更なる整備とか進めていきたいと考えています。それから帰国後同僚の先生に“現職教員特別参加制度”というのがあるよということ、ぜひ途上国へ行っていい活動をしていただいいていい意味での語り部という形でまたこの取組を広げていってくださればと思います。【松元 隆】

再び長谷川です。開発教育や国際理解教育のキーワードとして“参加型”という言葉があります。なぜ参加型かといいますと一人じゃ思いつかない考え方やアイデアをみんなと共有することによって新しい考え方やアイデアが生み出されるあるいは自発的にみずから学んで進もうとすることでそれぞれの生きる力というものを高めるといった利点があります。そういった意味でもこういう教育の現場では参加型というものがよく使われます。いくつもある参加型の手法の中で今日はトータルランゲージといったものを皆さんと一緒に体験していただきたいと思います。紹介させていただくのは青年海外協力協会で制作しております“地球生活体験学習教材”というものです。“ウムヨム村のブタの一生”というワークシートを使っていきたいと思います。グループワークをしていきたいと思いますので、机に座っている皆様は全部で10列あるんですが、奇数列の方は後ろを振り返っていただいて4人一組、机がない皆さんは移動して構いませんので4人、あるいは5～6人一組のグループを作ってください。一般の方も是非ご参加ください。

皆さんこんにちは私は青年海外協力隊でタイの北の方のウムヨム村で活動してきた入間田と申します。私はこの写真のような光景を村でよく見ました。火の中にいるのは何だと思いませんか？豚ですね。皆さんはこの写真を見た瞬間どんな気持ちになりましたか。ワークシートの一番目の問いかけ、当てはまるものにチェックを入れてその理由を書いてみてください。……。

うれしいと思われた方、手を上げてください。一人、ありがとうございます。かわいそうと思われた、若干多いですね、半分よりは少ないですね。こわい、少ないですね、ありがとうございます。その他、多いですね。そのあたりの気持ち、気になるところなんですが、せっかくなので先ほどグループになっていただいたメンバーで、ちょっと共有してみてください。自分の気持ちとなぜそう思ったのか。……。

せっかく盛り上がってきたところで心苦しいんですけども、協力隊に行かない人の話しかもちょっと小耳に挟みましたね。丸焼きはジューシー、香ばしそう、もうまるで協力隊だなんて。ちょっと聞いてみたいんですけども、自分の気持ちとその理由をお聞かせしていただければと思います。よろしいですか。

私はその他につけました。すごいと感じたんですけども、日本では豚を焼くとか殺すという行程を人任せにして、私も豚肉は大好きですけども、その行程を人任せにしてしまうんですが、ウムヨム村ではそれを自分たちの手で行っているということがすごいと感じました。自分にはまだそんな技術もないし、できないし、それから周りで見ている方々はその豚がどんどん息絶えて食べ物になっていくのを見ているわけですから、これからそれをいただく時に命をいただくというか、いただきますという気持ちを持つんじゃないかなあ、すごいことだなと思いました。以上です。ありがとうございます。すごいなあって気持ちだったことでしたね。他の皆さんですごいなと思った方はどれくらいいますか。若干少なめですね。はい、ありがとうございます。写真には続きがあります。

2枚目の写真からは豚からのメッセージです。皆さんこんにちは僕がさっき火の中にいた豚です。これから僕が生きていたころの話をするね。僕はウムヨム村のナグマ婆さんの家に生まれたんだ。ナグマ婆さんはラフ族なんだ。僕は生まれて一ヶ月ぐらいまではたくさんの兄弟たちとお母さんのおっぱいを飲んでいたよ。おっぱいを卒業すると大人と同じ食べ物を食べられるようになったんだよ。みんなはどうだったのかな。皆さんはどうでした。この豚さんと一緒ですか。今日もナグマ婆さんが僕の食事を作ってくれているんだ。何を刻んでいるか分かる。大根のように見えるやつですね。大根ではありません、皆さんがよく知っている果物。どなたか分かりますか。はい、バナナの木の茎なんですね。これに綿花、トウモロコシ、人間の残飯を加えてくれるからとてもおいしいんだ。野菜くずなどの生ゴミは全部僕が食べるんだよ。僕はこんなふうに食べるんだ。食べ始めると夢中になるね。ところで僕の後ろにダルマ婆さんがいるんだけど、何をしているんだと思う。何をしているんでしょうか。食べる様子を下からのぞく、私もしっかり食べているかどうか見てる。よその家の豚がおいしそうなおいに誘われて盗み食いに来たら、この棒で叩いて追い払ってくれるんだ。実は僕もよその家で叩かれたことがある。ウムヨム村の人たちはこの豚はどこの家の豚って見分けることができるんだよ。

キーワードというものがあります。この二つのキーワードで物語を作ってほしいんですけども。ここから左側 3 列の皆さんには豚の恋というキーワードで、先ほどのグループでお話をつくってください。こちら側 2 列と後ろ側に座っているグループの皆さんは豚の

喧嘩というキーワードでグループで1つお話をつくってください。時間は3分くらい。

はい、ありがとうございます。豚の恋から発表したいという人いますか。あの一こうシヤイだと任国行ってから困りますよ。じゃあ、名指ししちゃいますよ、こちらから。先ほど盛り上がっていた男性グループから行きましょう。・・・で恋はないんじゃないかと悲しい結論になりました。

豚の喧嘩のグループでどなたか発表してくださいませんか。すばらしい、お願いします。3匹居ますので、(ここにエサがあります)、兄さんそんなに食べないでよ。そろそろ僕にも食べさせてよ。うるせえ、俺が食べ終わってから。が一と取り合いになります。あの映像を。兄さん、でも末っ子にも食べさせてやらないと、兄さんなんだろう。兄さんもうあっち行ってよ。そんなに喧嘩するんじゃないよ。終わりです。拍手。わずか3分の間にここまで話しを作る、素晴らしいですね。ありがとうございました。本当は時間があれば、各グループの話を聞いてみたいんですが、先に進ませていただきます。

そんなふう暮らしていたある日、他の家の男の人たちが僕のほうをちらちら見ながら、何か相談しているんだよ。僕はなんかいやな予感がした。男たちが僕の足に縄をかけた。フギャーフギャー、とにかく叫んだ。でも足や体を押さえられて身動きできないようにされた。それから男たちは僕の喉元から心臓にかけて大きなナイフを突き刺した。気が付くと僕は高いところにおいて、魂の抜けた自分と俺を取り囲む男たちを見ていたんだ。あつ、僕は死んだんだ。肉を切り分けるのが男の人たちの役目で、女の人たちは料理をする。これから儀式が始まるらしい。念仏を唱え始めると、山の神がやってきて、僕の肉を食べ始める。あれっ、ナグマ婆さんの魂も戻ってきた。その時僕は分かった。この儀式は婆さんの病気を治すためのものだったんだって。僕のおいしい肉に誘われて、神様が婆さんの魂を連れ戻してくれたんだ。もう直ぐ病気も治る。儀式が終わった後、村のみんなが僕の料理を食べたんだ。すごい勢いで食べていた。僕はあつという間にみんなの胃袋の中だ。僕の尻尾をしゃぶっている子もいたよ。僕をつま先まで食べるんだ。僕はナグマ婆さんのために生まれたんだな。そうそう、ところで僕の頭はどうなったと思う。どうなったと思います、頭は。ナグマ婆さんの家に飾ってあるんだよ。僕やこの儀式のことをずっと忘れないためにね。それと今自分が生きていることへの感謝の印なんだって。僕はこうやってウムヨム村の中で行き続けるんだな。みんなは僕の話聞いてどんなことを感じたかな。

1枚目の写真、最初に見た写真なんですけれども、最初に見た感じと今2回目に見た気持ち、一緒ですか。一緒です、違います、同じですという方いると思います。違いますという方いらっしゃる。ちょっと、どういう気持ちからどういう気持ちになったか、聞いてみたいんですけれども。

先ほどは、自分がこの豚を育てるとしたら、絶対情が移らないように、この子はいずれ食べ物になると愛情をかけずに育てなくっちゃと思っていましたが、先ほどの最後の、頭を飾っているという話を聞いて、そうなったらじゃあやはり愛情をかけて、その子とともにずっと生きていくという覚悟で育てるといふのもありだなと思いました。

ありがとうございました。最後の写真なのですが、入間田さんからのメッセージがあります。あたしは最初この光景を見た時、豚の叫び声を聞いて目をそらしてしまいました。でも村の人たちと豚のつながりを目にするうちに少しずつ気持ちが変わっていきました。大切に育てた豚の最後をしっかりと見ようと思いました。そして地も肉も全部残さず食べようと思うようになりました。おかげで私は 2 年間、病気もせずに、元気に過ごすことができました。いろいろな生と死の大きな流れの中で今自分が生きているんだなと感じています。というメッセージで教材の方は終わるんですが、ワークシートの 2 つ目の問いかけ、メッセージを聞いて皆さんは命についてどんな感じを持っていますか。何を感じていますかということで、本来であればここで時間をとって、ワークシートにきちんと書いていただいて、また共有という形になるんですけども、今日はあいにく時間がありませんので、この後の話はおそらく訓練中にいくつか講座が組まれているんですが、我々とはお目にかかることがあると思いますので、その時にお話の続きやまた違う教材を紹介させていただければと思います。この教材を含めてチラシの方には 6 教材あるんですが、全て青年海外協力隊の OB・OG の体験を基に作成しているものです。学校現場で使えるものとして 45 分という時間で作っています。もしかすると皆さんの体験そのものが一つの教材となる可能性もありますので、その時に使えるような写真の撮り方とか、具体物の見せ方について訓練所の講座の中で少しずつお話していければなと思います。ではこれで終わりたいと思います。【長谷川雅之】

青年海外協力隊派遣現職教員のサポート

礒田 正美

(筑波大学教育開発国際協力研究センター)



文部科学省 拠点システム構築事業「国際教育協力イニシアティブ」
<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/>

ならでは **皆さんのため** お問い合わせ **他の人のため**

青年海外協力隊派遣現職教員のサポート

中田英雄 佐藤真理子 磯田正美
 鎌田亮一

筑波大学教育開発国際協力研究センター(CRICED)

国際教育協力における拠点システム構築事業 Cooperation Bases System by MEXT

HOME 拠点システムとは 活動紹介 過去のイベント 進捗表

アーカイブス検索 [検索]

Events
 平成19年度 青年海外協力隊 現職教員 最終研修会
 期日:平成19年4月2日(月)
 場所:国際協力総合研修所



文部科学省では、国際社会が進めている「万人のための教育」を実現するために、途上国に対する初等中等教育分野等の協力強化を目的とし、教育協力を体系的に取り組むための「拠点システム」構築事業を実施しています。 [詳しくはこちら](#)

背景・目的	具体的な概念
国際教育協力拠点システムとは、国際教育協力に実績のある広島大学と筑波大学を中核に、国公私立大学及びNGO、民間企業等からなるネットワークです。 詳しくはこちら	我が国の主力となる教育協力分野を強化するための「協力経験の共有化」をひきもとして、 詳しくはこちら

<http://kyoten.criced.tsukuba.ac.jp/> © 2007 Cooperation Bases System by MEXT

文部科学省下の大学教育委員会などと国際協力機関のネットワーク応援部隊

応援に役立つ情報

青年海外協力隊派遣現職教員のサポート 平成18年度：7課題代表者

- 数学・理科：広島大学(代表：池田秀雄)
- 体育：青年海外協力協会(代表：渡邊祐輔)
- 家庭科：日本女子大学(代表：佐々井 啓)
- 環境教育：宮城教育大学(代表：村松 隆)
- 幼児教育：お茶の水女子大学(代表：浜野 隆)
- 小学校：筑波大学(代表：田中統治)
- 障害児教育：筑波大学(代表：前川久男)

● 全体調整：
筑波大学教育開発国際協力研究センター

国際教育協力イニシアティブ
 我が国の国際教育協力の質の向上を目的とした活動
 青年海外協力隊派遣現職教員のサポート

本活動内容：
 JICA青年海外協力隊の「現職教員特別参加制度」により途上国に派遣される教員に対し、教育上の観点からのサポートする。
 現職教員の派遣実績が多い職種を対象に、教育制度面や現地での指導法に関する情報提供等のサポートする。

隊員派遣前：隊員の活動に役立つ教材、指導書等の教育モデル、その他資料等の作成・上記教材等の紹介・隊員の活動準備に対する教育上の助言等・隊員との連絡体制の構築する。

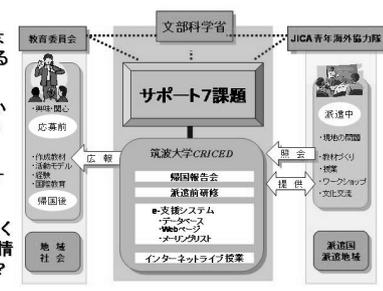
隊員派遣中：隊員の現地での活動に対する教育上の助言等・各実施者が作成した教材等の有効性の確認・改善する。

帰国後：帰国隊員が行う国際理解教育へのサポートする。
 (指導案の作成や教材準備等)

筑波大学教育開発国際協力研究センターが全体調整する。

目的
 派遣前、派遣中、帰国後における派遣現職教員の活動への継続的な支援体制を築くとともに、支援に関わるリソースならびにモデル事例の開発を行う。加えて、各採択課題による支援の実施を調整する。

■派遣現職教員ならではの活動をいかに支援するか？
 ■その活躍の意義をいかに伝え、広め、活かす場作りを応援するか？
 ■各課題といかに連携するか？
 ■現職教員に限らず、広く国際教育協力で役立つ情報をいかに提供するか？



派遣前研修

- 期日：平成19年4月2、3日
- 会場：国際協力機構国際総合研修所・筑波大学東京キャンパス
- 内容：国際理解教育研修
 開発教育研修
 拠点システム成果共有研修
 帰国隊員による報告会
 ICT活用研修など

みなさんに派遣現職教員ならではの活動や役割を知ってもらうこと！



e-支援システム <http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/>

ウェブページ

データベース (拠点システムアーカイブ)

メーリングリスト

拠点システム 派遣現職教員支援事業

Support Project for Japanese Teacher Working Overseas

CRICED University of Tsukuba

派遣現職教員によるホームページ

開業途上国での教育協力に携わった現職、派遣現職中から派遣現職に支援することを目的としています。

登録ご希望の方は pcw@criced.ts

- TOMORROW - トモロウ 平成16年度第1次派遣現職として、随時更新されています。
- ケニアの片隅で 平成18年度第1次派遣現職として、随時更新されています。
- Haha! from Nicaragua 平成17年度第1次派遣現職として、随時更新されています。
- ストナム遺跡(地球に秘蔵) 平成17年度第1次派遣現職として、随時更新されています。
- Camp On! 平成17年度第1次派遣現職として、随時更新されています。
- コールラダ 平成17年度第1次派遣現職として、随時更新されています。
- Exploring Mind 平成17年度第1次派遣現職として、随時更新されています。

ケニアの片隅で
タンザニアに国外旅行記

国際教育協力 拠点システムアーカイブ

検索結果

ヒット件数: 23 件

検索キーワード: 最新データ

検索結果一覧

国際教育協力 派遣現職教員 派遣先: 日本(新潟) 職名: 国際教育協力 派遣先: 日本(新潟) 職名: 国際教育協力	派遣先: 日本(新潟) 職名: 国際教育協力 派遣先: 日本(新潟) 職名: 国際教育協力	派遣先: 日本(新潟) 職名: 国際教育協力 派遣先: 日本(新潟) 職名: 国際教育協力
--	--	--

Current List: 21 - 23 Page: [1] [2] [3]

第4回文部科学省国際教育協力拠点(学校保健分野)ワークショップ
タイの新学習指導要領について

新潟大学 笠井

タイ政府による、第7次国家経済社会開発計画(1992~97年)、第7次国家教育開発計画(1992~97年)以降の、教育の民営化及び地方分権化推進。1999年8月には新国家教育法が制定。新国家教育法による5つの教育方針 2002年より段階的に実施

1. 「自然環境と調和した科学・技術の知識技能の発展」
2. 「宗教・文化・知恵の重視」
3. 「民間による教育管理・運営の促進」
4. 「地方における教育地区の設立」
5. 「12年の基礎教育制度の規定」

2001年の新カリキュラム制定では、「学習者が自主的・継続的に学ぶ学習者中心教育」および「ナショナルイズム・グローバルイズム・ローカリズムの調和」が図られている。

参考図書: 学習実行計画 基礎科目保健体育学習重要点第1 (小学校1年生) 保健体育 1 小学校1-3年生 仏歴 2544年 (2001年) 基礎レベル学習指導要領 著者: Brchai Sirimhashakhon, Samtri Shiphamang, Whattcha Kwangthong 出版: アクゾーンチャルーンタット社

教育省により、仏歴 2544 (2001年) 年度から、基礎レベル学習指導要領が、以下の期間条件をもって通達された。

2002年 バイロット校及び教育省系統学校への導入
導入学年

2003年 全学校 小学校1年生 4年生 中学1年生 高校1年生
2004年 全学校 小学校1年生 4年生 中学1年生 高校1年生

国際教育協力 拠点システムアーカイブ

検索結果

ヒット件数: 187 件

検索キーワード: 最新データ

検索結果一覧

CHUYÊN BONG

1. Tên bài học: Chuyên bóng.
2. Chuẩn bị: Bóng.
3. Mục đích:
- Học các động tác.
- Trẻ có thể ném bóng.
4. Về bài học:
- Thành lập đội chơi.
- Khi bắt đầu thì đi.
- Khi đã trao bóng hàng giữa 2 chân.
- Đội nào chuyển đi.
Khi đã quen: Chơi.

1. 教材名: ボール遊び
2. 準備する物: ボール
3. 目標:
○ 全員で協力してボールを運ぶ楽しさを感じる
○ 相手を受け取りやすいボールの渡し方を見つける
4. 教材について:
ボールを早く、なおかつ相手を受け取りやすいようにパスをしていーやバスケットなどのボールを使った運動のように、協力して楽しむのが良かったり、ボールの数が少なくてもできる運動である。
5. ルール:
○ 10人~15人のチームをつくり、綱の上でボールを受け渡す
○ 競技が始まったら足を動かしてはいけない。
○ 一番後ろまでボールが渡ったら、こんどは後ろから足の間を通して
○ 一番速くボールを前に渡したチームが勝ち。
慣れてきたら・・・
○ 片手だけ、足だけ、でボールを渡す。

Standard 1/2 Objective: Make their body stronger. Show new track plan.

Time	Activity/Organization	Figure/Question	Equipment
1 min	1 greeting		
1	2 explain today's plan 3 make your body stronger		
3	3 warming up (1) take a teacher (2) spread out with arms distance (3) stretching & bending (4) stretching arms (5) stretching legs		
6	4 couple activities (1) ring balance (2) ring traps (3) change (4) balance game (5) ring ring	①-④ in the same as before	① find a partner, not walking, horse, and the other jumps over to use hands
12	5 pick-a-back relay ① find a partner as close as you ② make Sprague ③ give hold the other on one's back ④ touch the mark and switch parts		
3	6 discussion about 1		
1	7 cool down (1) shake hands (2) shake feet (3) stretching arms (4) stretching legs	When you do pick-a-back relay, which parts of muscle's work	① arms - need to touch the parts (legs) - need to train the parts ② shake, stretch, shake, stretch, shake, stretch ③ shake, stretch, shake, stretch, shake, stretch

金子由里 2004 ペリーズ ①

青年海外協力隊現職教員特別研修

活動報告

金森 万美江（神奈川県立横浜青陵総合高等学校教諭）

（平成 16 年度 1 次隊、ジャマイカ、青少年活動）





ジャマイカの歴史

- 1494年 コロンブス上陸
- 1509年 スペインの統治
- 1655年 イギリスの植民地となる(1670年のマドリッド条約により正式に)

奴隷貿易の活発化

- 1803年 奴隷貿易廃止
- 1838年 奴隷制度廃止
- 1962年 ジャマイカ独立

通貨: ジャマイカドル (1JD ≒ 2円)



ジャマイカの教育システム

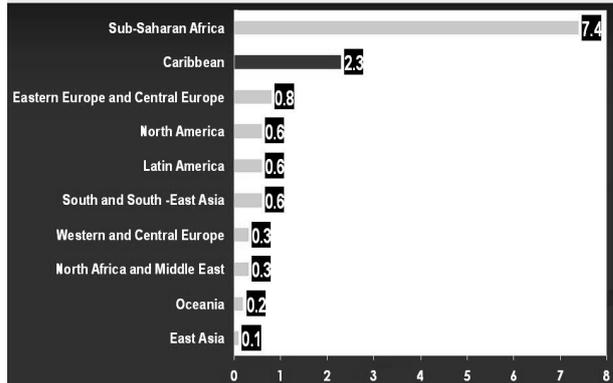
幼稚園 (Early Childhood Edu.)
 小学校 (Primary) 1～6年生
 小中学校 (Primary&Junior High) 1～9年生
 田舎の小中学校 (All Age) 1～9年生
 6年生統一テスト (GSAT)
 高校 (High) 7～11年生
 カリブ統一試験 (CXC)
 大学 (単科・総合)

要請内容

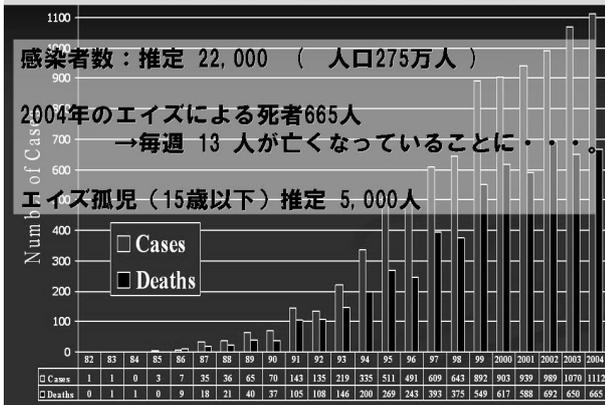
要請理由(目的)

- 2002年ジャマイカ保健省はジャマイカHIV/AIDS国家戦略計画を策定し、保健省以外も含めた包括的な取り組みが必要と述べ、特に感染者の多い10代に対しては学校教育を対策の基本とすることを掲げた。そのため、学校教育を統括するジャマイカ教育青年文化省はUNESCOの支援により配置する健康教育担当官が学校においてHIV/AIDS予防教育を普及できるようにJICAに協力を要請。

Adult (aged15-49) HIV Prevalence rate in 2004



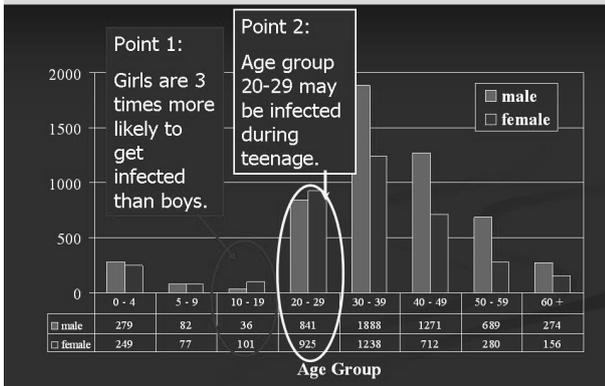
ジャマイカ エイズ患者数 & 死亡者数



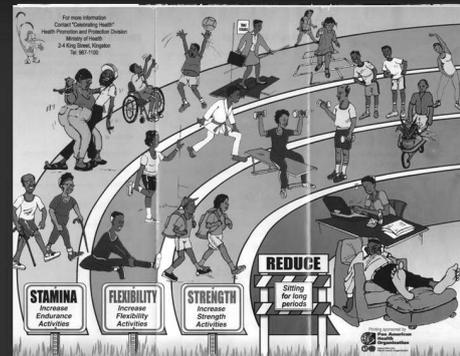
ジャマイカでHIV/AIDS感染率を高めている要因

- ◇ 貧困
- ◇ 知識不足
- ◇ 差別
- ◇ 偏見
- ◇ 移住
- ◇ 迷信
- ◇ 性行動
- ◇ 売春
- ◇ 同性愛者
- ◇ 薬物使用
- ◇ 性感染症
- ◇ 性観光業

ジャマイカ性別・年代別エイズ患者者数 1982 - 2004



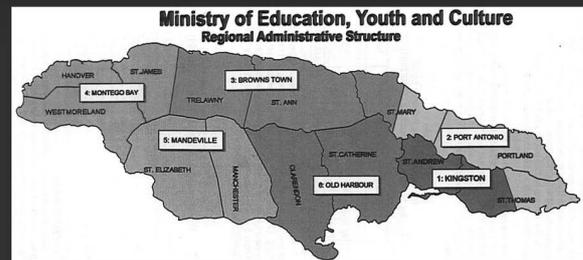
性に関して開放的なジャマイカ



要請業務内容

- 学校におけるHIV/AIDS予防教育により生徒が適切にHIV/AIDS予防の知識を得ることができるようになることを目標に、JICAの専門家・シニア隊員・他の協力隊員等と連携して、現場調査、各地方事務局の健康教育担当が行う学校関係者(場合によっては児童・生徒・保護者含む)への研修の計画・実施・モニタリング評価やカリキュラム・関連教材の作成・配布の支援、大学や地域の関係機関との連絡調整を行う。

教育青年文化省



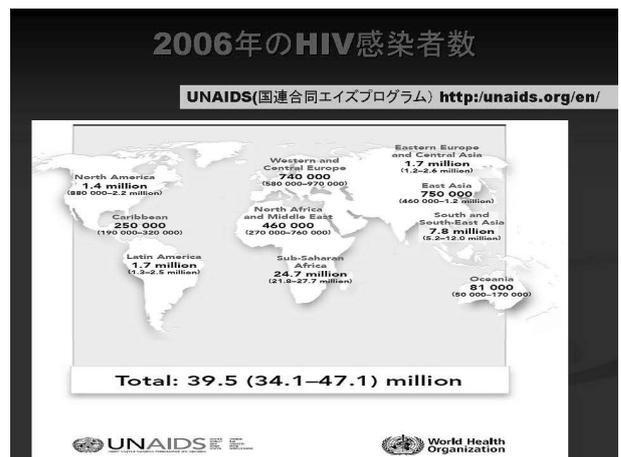
エイズ対策チームの7人



教育省エイズ対策チーム







体液はどれもがHIVウィルスを感染するのか？

感染する可能性のある体液 & 感染する可能性のない体液

感染する可能性のある体液	感染する可能性のない体液
<ul style="list-style-type: none"> • 血液 • 精液 • 膣分泌液 • 母乳 	<ul style="list-style-type: none"> • 唾液 • 汗 • 涙 • 排泄物

You cannot get HIV/AIDS from:

- Riding a bus or taxi with someone with HIV/AIDS.
- Mosquitoes
- Food prepared by one someone with HIV/AIDS
- Cups, dishes, utensils used by someone with HIV/AIDS.
- Being sneezed or coughed
- Shaking hands or hugging
- Living, going to school or playing with someone with HIV/AIDS
- A toilet seat
- Kissing

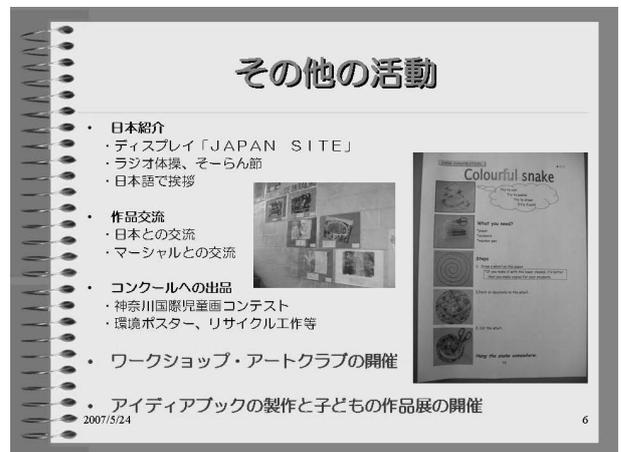
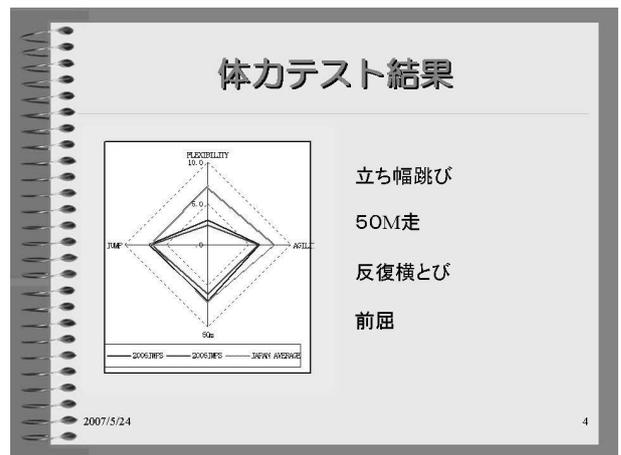
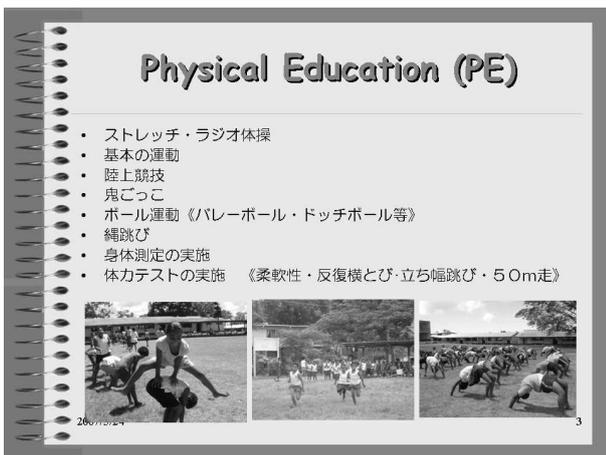
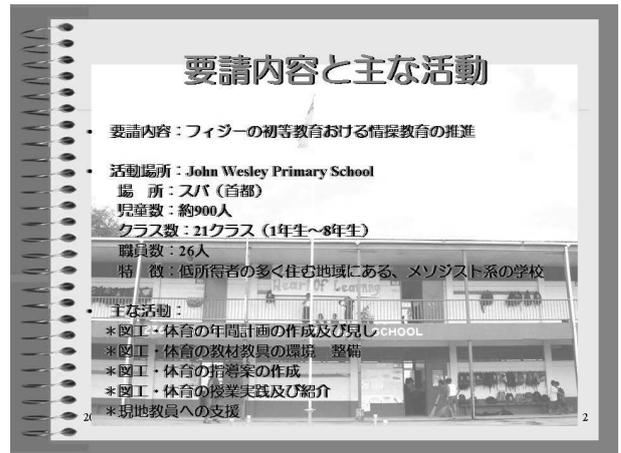
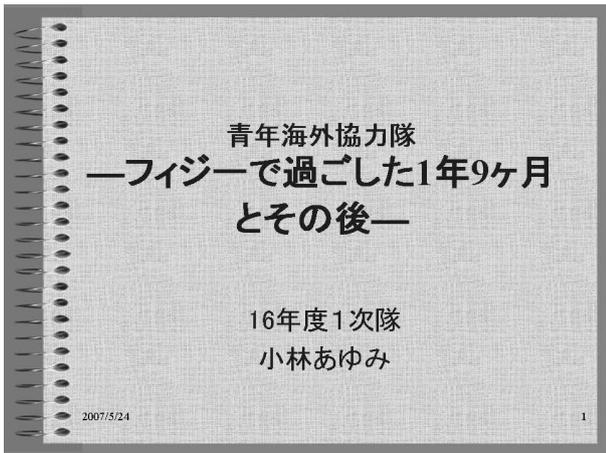
青年海外協力隊

ーフィジーで過ごした1年9ヶ月とその後ー

小林 あゆみ（埼玉県朝霞市立朝霞第一小学校教諭）

（平成16年度1次隊、フィジー、小学校教諭）







活動報告

中川 由生（静岡県立新居高等学校教諭）

（平成 16 年度 1 次隊、インドネシア、理数科教師）



活動報告

青年海外協力隊
平成16年度1次隊
理数科教師
中川 由生

静岡県立新居高等学校所属

1

任地

インドネシア共和国東ジャワ州マラン市

- ・インドネシア第二の都市スラバヤより、車で南へ2時間
- ・人口約71万人の地方都市
- ・観光地として有名なヨロセ山があり、古くからの避暑地（標高約450m）

2

配属先

SMA Negri 1 Malang（マラン公立第一高校）

1学年7クラス 生徒数約900人、教職員数約80人の普通科進学校
2年次に、理数科(IPA)、社会系(IPS)、語学系(BAHASA)に分かれる。
第2外国語として、日本語の選択が可能

3

要請内容

理科授業に、実験実習の導入を行う。

これまでは一斉授業

4

最初の印象

- 1 予想よりも、実験が行われていた。
- 2 定性実験がほとんどで定量実験が少ない。
- 3 あまり、授業の準備をしている様子がない。
- 4 安全に対する配慮がほとんどない。

5

最初の印象とその対策

- 1 予想よりも、実験が行われていた。

↓

ただし、細かな点での間違いがみられた。

↓

実験を行う際に、参加して少しずつ修正していく。

6

最初の印象とその対策

4 安全に対する配慮がほとんどない。

↓

安全管理は生徒自身が行うものといった様子。

↓

一緒に授業を行う中で、安全に気を配っているところを見せる。

9

具体的活動内容

- 1 授業の参観及び教科書を読む。
- 2 紹介できる実験があれば、空き時間に行い見てもらう。
- 3 同僚教師と話し合い、授業に導入できそうであるなら、実験プリント(LKS)や器具の準備を行う。

教師向けのものもつくり、他の先生にも配る。

- 4 授業の中で実施する。

10

筑波大学附属小学校を拠点とした派遣現職教員支援システム の構築

田中 統治

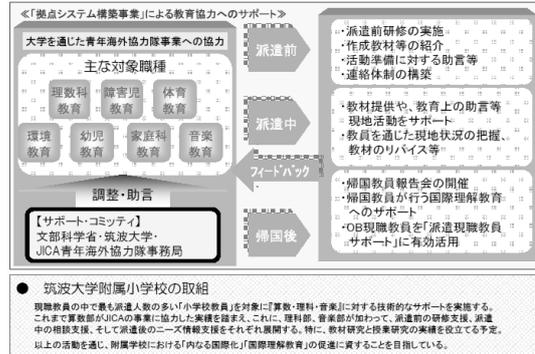
(筑波大学附属小学校校長)



筑波大学附属小学校を拠点とした 派遣現職教員支援システムの構築

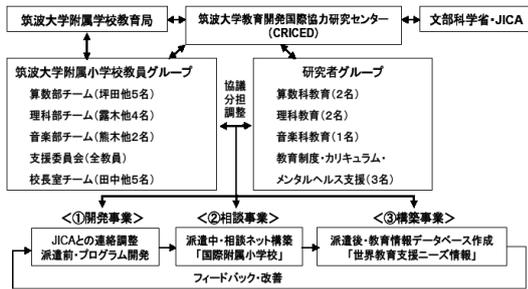
田中 統治(筑波大学附属小学校長)

1. 文部科学省による青年海外協力隊事業への支援



2. 筑波大学附属小学校を拠点とした派遣現職教員支援システムの構築

目的: 小学校派遣現職教員を対象にした、算数、理科、及び音楽科に関する派遣前・派遣中・帰国後の支援システムの構築



3. 事業内容

- (1) 小学校の派遣現職教員が抱える支援ニーズの把握
- (2) 派遣前・研修プログラムの骨格を構成
- (3) 国際教育協力の質的な充実を図るための資料分析
- (4) 算数部、理科部、音楽部チームと研究者グループとの協議・分担・調整

4-1. 具体的な調査・活動内容(1)

派遣現職教員が抱える支援ニーズの特徴と課題の明確化

- 先行研究の検討
 - ・ 海外派遣の際に障害や問題となる項目(渡辺ほか, 1999)
 - ① 現地に関する不安・情報不足
 - ② 適格性に関する不安
 - ③ 職務上の問題
 - ・ 教育活動上必要となった支援(礪田ほか, 2004)
 - ① 教具・教材の提供
 - ② 現地情報の提供
 - ③ 経験・教訓などの提示

- ➡ ○ 派遣後のどの時期にどのような支援が必要となるのか、その実態を把握する必要性
- 具体的な支援内容を明確化する必要性

4-2. 派遣隊員報告書の概要

- ・ 派遣期間中(2年間)に5回の報告書作成が義務
 - 第1号 赴任3ヶ月
 - 第2号 赴任6ヶ月
 - 第3号 赴任12ヶ月
 - 第4号 赴任18ヶ月
 - 第5号 赴任24ヶ月
- どの時期にどのような支援が必要となるかが把握可能

- ・ 報告内容: 隊員自らが生活及び業務状況を記述

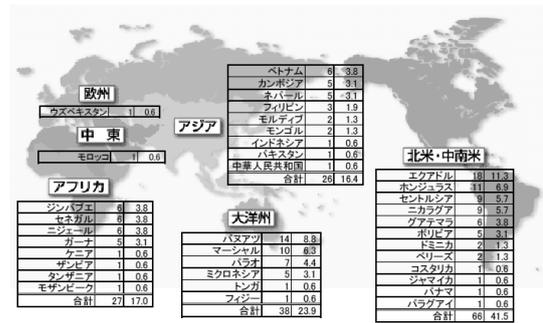
➡ より实际的かつ具体的な現地の状況や援助の課題が把握可能

4-3. 分析の概要

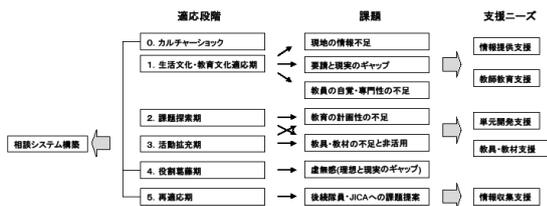
- 分析対象: JOCV159名分の報告書
(内、身分措置「有」69名・「無」90名)
- 派遣次: 平成15年1次隊～平成17年2次隊
- 分析教科: 算数科、理科、音楽科を中心
※ただし、理科に関しては報告書が極めて少ないため、参考程度にとどめた。
- 分析方法: 隊員による課題の記述を探索的に抽出し、共通項でくれるものを分類した。
- 備考: 「帰国隊員報告会」での発言等も参考

JOCV: Japan Overseas Cooperation Volunteers, 青年海外協力隊

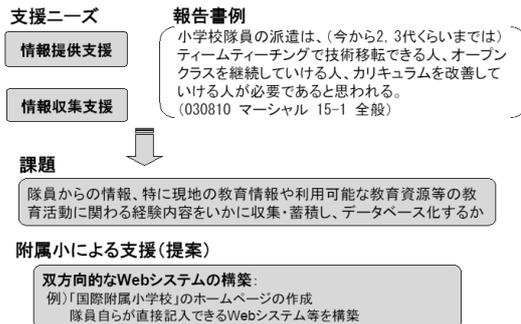
4-4. 分析対象(派遣国一覧)



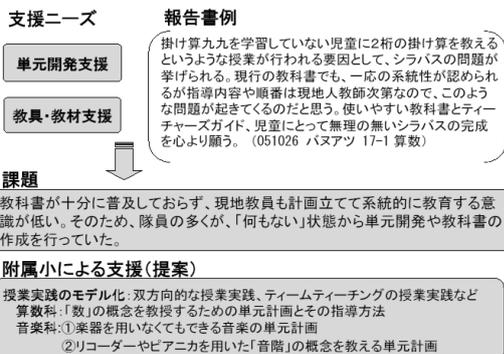
4-5. 適応段階及び課題と支援ニーズ



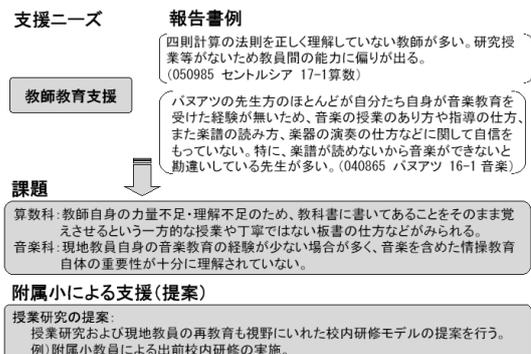
4-6. 支援ニーズと附属による支援



4-7. 支援ニーズと附属による支援



4-8. 支援ニーズと附属による支援



4-9. 分析の成果

成果:

- ・全体として低学年レベルの学習内容に対して支援が必要
 - ①算数科:「数の概念」
 - ②音楽科:「音階」
- ・現地で利用可能な教具・教材開発および単元開発支援
- ・教師教育支援の必要性(現地教員の再教育, 職能開発)
- ・様々な「Good Practices」の存在

8. 今後に向けて

- ・筑波大学附属小学校から派遣隊員に「日本型教育実践」に関する情報と資料を提供できるように図る。特に、理科部と音楽部による支援を充実させる。
 - ①調査対象国を焦点化することによって、現地で日本の教育経験を応用する際の問題点や困難さの把握。
 - ②現地で利用可能な教具・教材開発および単元開発支援
 - 実際に現地で行われた「Good Practices」の収集
 - 現地で利用可能な資源を用いた教具・教材の事例集を作成
- ・全国の附属小学校のネットワークを活かした後方支援の実現 & 現地の日本人学校の利用可能性についての検討

5-1. 具体的な調査・活動内容(2)

インドネシアでの現地調査

- ・日本の教育に関する情報提供と質疑
 - 教員研修ワークショップへの支援
- ・現地日本人学校の訪問調査
 - 教材・教具のベースキャンピングの可能性
- ・インドネシア教育大学学長および教員との協議
 - 現地教員養成大学との連携



5-2. インドネシア調査(学校の様子)



6. 具体的な調査・活動内容(3)

派遣前研修のための授業ビデオの試作と派遣国の教科書等を一部翻訳



7. 具体的な調査・活動内容(4)

派遣中の相談システムの構築

- ・メーリングリストによる相談活動の開始
- ・国際的な教育協力のための教員支援を目的としたWebサイトの試作:「国際附属小学校」(仮称)
(<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/affil-int/>)



参考文献

- ・磯田正美(事業代表者)他「派遣現職隊員の教育活動上のニーズ調査報告」(文部科学省 教育協力のための拠点システム「派遣される現職教員への支援と青年海外協力隊の専門性の向上のための事業」, 2004, 1-19頁)
- ・門脇厚司, 渡辺恵「国際協力活動要因の資質能力に関する実践的検討」, 『筑波大学教育学系論集』第23巻第2号, 1999, 1-21頁
- ・徳山道子「青年海外協力隊員が海外で直面した活動上の障害要因の分類」, 『国際開発研究』第8巻第1号, 1999, 65-79頁
- ・渡辺良(研究代表者), 「国際教育協力の人材の発掘・確保と人材活用の進め方に関する研究」平成10年度科学研究補助金基盤研究(A)(1), 1999

幼児教育

－ 幼児教育分野における派遣隊員支援と幼児教育協力の
質的向上－

浜野 隆

(お茶の水女子大学)



幼児教育

—幼児教育分野における派遣隊員支援と
幼児教育協力の質的向上—

浜野 隆
(お茶の水女子大学)

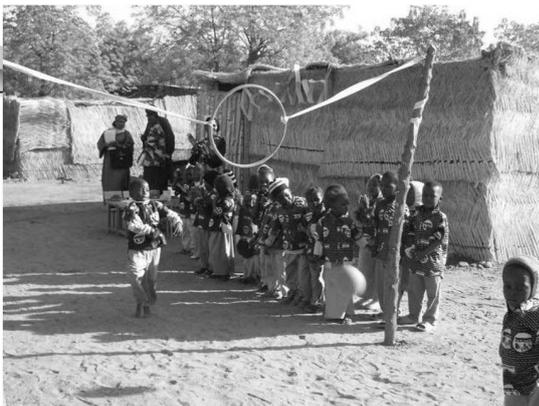
発表の流れ

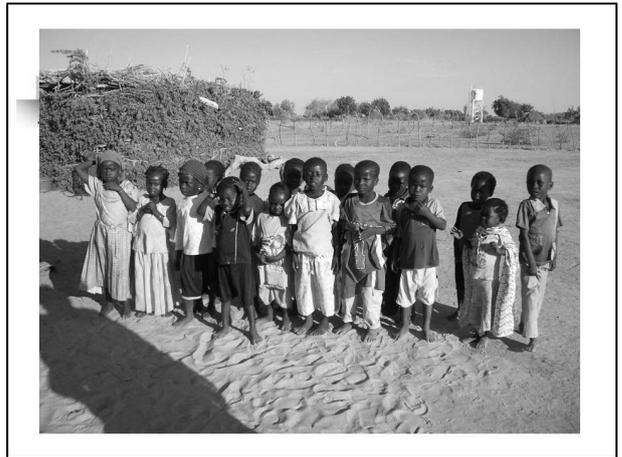
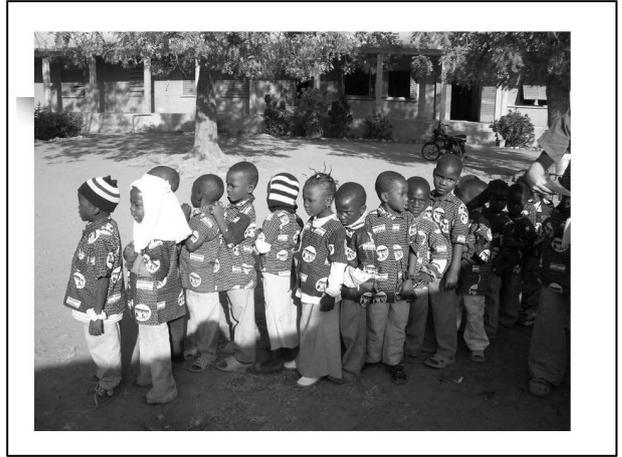
- 1. 幼児教育分野の青年海外協力隊
- 2. 本拠点事業の概要
- 3. 隊員の悩みとニーズ(派遣前)
 - —二本松訓練所での調査から—
- 4. 隊員の悩みとニーズ(派遣中)
 - —中西部アフリカJOCV調査から—

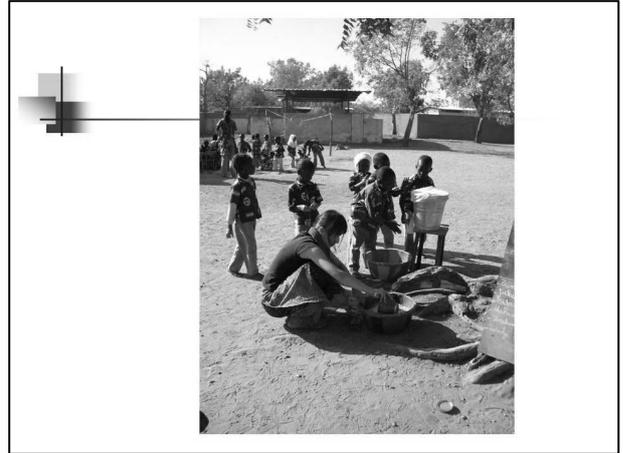
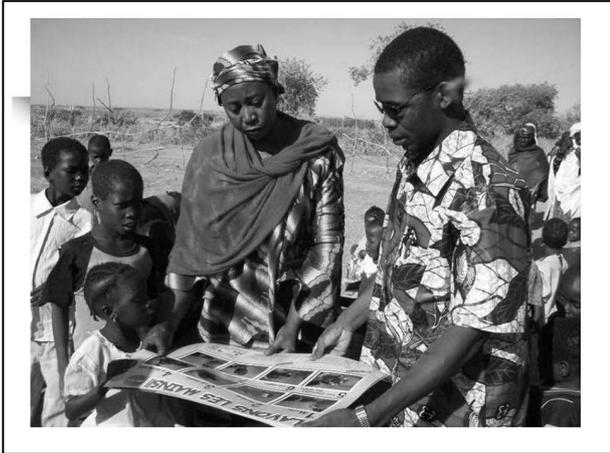
1. 幼児教育分野の青年海外協力隊

- 要請は多いが、派遣が追いつかない分野
- 現職派遣はさらに困難
- その理由
 - ①公立幼稚園が少ない(幼稚園は6割が私立)。
 - ②公立幼稚園教員の年齢(平均年齢42.2歳)
 - ③幼稚園の財政(国庫負担のある義務教育とは違い、どこもぎりぎりで行っている)
 - ④人員の配置: 臨時職員が多く、常勤職員がJOCVとして出にくい。学級担任(1学級に1人の先生)
 - ⑤帰国後、開発教育という形で社会還元しにくい(隊員経験が評価される場面が少ない): 「重要性はわかるんですが…現場は目先のことで手一杯なんです」

ニジェールの幼稚園で活動する隊員



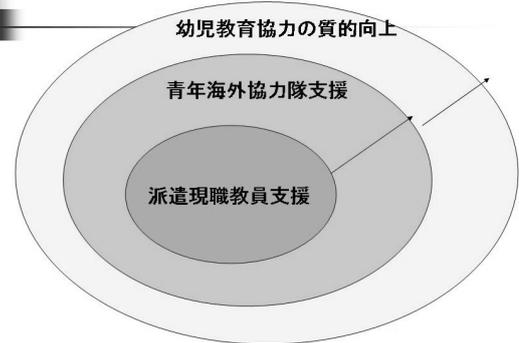




2. 本拠点事業の概要

- 1. 協力隊活動広報・調査
- 2. お悩み相談:派遣前、派遣中、帰国後
(メールでの相談、Q&A集の作成)
- 3. 教材・資料の作成・配布
(ハンドブック、ビデオ、国際動向パンフ、活動評価ツール)

活動テーマ:「幼児教育分野における派遣隊員支援と幼児教育協力の質的向上」



3. 派遣前候補生がかかえる悩み —二本松訓練所での調査より—

- ①語学と②生活の不安、③現地情報のなさ(教育現場の実際など)(例:ルワンダ)
- 「日本の幼児教育は国際的に見て本当に優れているといえるのか」
- 「相手は日本の幼児教育の優秀さを知らないと思うが、どうしたらそれを伝えられるか？」
- 「相手も自分たちの幼児教育には自信を持っているかもしれない。そうだとしたら自分に何が出来るか?。『何しに来た?』とかいわれそう。」

派遣前候補生がかかえる悩み(続き)

- 「カウンターパートには日本の幼児教育を理解してもらえるかもしれないが、子どもたちの親に理解してもらえるかどうか不安。現地では受験競争が厳しく、親が幼稚園に求めているものは学校のための早期教育。このような国においてどのような一石を投じることができるか？」
- 「大学で授業(保育者養成)をするなんて初めてだけど、何をしたいかわからない」「大学で授業をした先輩隊員がいないので資料もなく、不安」 →これらの質問への回答はQ&A集で

1. 任国の教育事情

- 教員不足
- 園の人手が足りない
- CAPED(公開保育)が機能していない
- 現地と視学官をつなげている現地の人がない。

2. 文化の違い

- 環境、文化、国民性の相違。
- 部下や上司の許可なしに仕事ができず、自主的な仕事が考えられない組織文化。
- 他人の意見に耳を傾けない。
- 配属先に幼稚園に対する平等な感覚がない(トップクラスの幼稚園にだけ力を注ぐ)。
- 互いの考え方が違う。
- 指導主事が絶対的な権威をもっている(間違っても間違っているといえない)

3. 要請に関する問題

- 要請と現場のニーズが結びつかない。
- 需要がわからない。
- 対象範囲(規模)が大きすぎるので広く浅い活動になってしまうのではないかと不安を感じる。自分ひとりに対してエリアの範囲が多すぎる。
- ⇨個に対してアプローチしている状況なので、広がり欠ける。
- 活動先の問題(要請との関連で):巡回先が多く各園との深いかかわりがなかなか難しい。
- 各園のレベルがちがうので、どこにアプローチするか、決めにくい。

4. JOCVに対する理解が乏しい

- 配属先の自分に対する理解が乏しく活動しにくい。
- いまだに自分の配属先で私の位置づけをきちんと決められていない。
- 任国の人が受身である。もしくは共に活動できない。なかなか指導主事自身で物事を企画したり提案しても、私にやらせようというフシがみられる。
- 配属先と活動先との連携が乏しく、JOCVに対する理解がない。
- 物質的要求をされる:露骨に物をくれと要求される。学校にどろぼう事件が相次ぎ、それにより物の要求を直接言われる

5. CP(カウンターパート)との関係

- 直接的なCPがない。特定のCPがない。本来のCPという自分と一緒にずっと動く人がいない(CPがない)。
- CPとの人間関係。
- CPが忙しく話し合えない。

4. 派遣中隊員がかかえる悩み — 中西部アフリカ広域研修より —

- 1. 任国の教育事情
- 2. 文化の違い
- 3. 要請に関する問題
- 4. JOCVに対する理解が乏しい
- 5. CP(カウンターパート)との関係
- 6. 活動の内容・方向性について
- 7. 語学・コミュニケーションの問題

6. 活動の内容・方向性について

- この国式の保育にどこまで手を入れていいかわからない。
- 自分の活動の方向性を相談できる現地人がいない。
- 任国の教育に対してどこまで日本的な考えが良いのか、必要なかわからない。
- 講習会の内容が浸透しにくい。
- 幼稚園がお休みのバカンス中、どんな活動をしていいかわからない。

7. 語学力・コミュニケーションの問題

- コミュニケーションがうまく取れない。
- 言葉の問題があり、自分の伝えたいことがなかなか相手に伝わらない。
- コミュニケーションが難しい。
- 信頼関係を気づくのが難しい。
- コミュニケーション不足、言葉の不足(うまく話せない、ニュアンスが伝わらない)。
- CPや指導主事が忙しく、時間が合わないため十分な準備の時間が取れない。

問題分析ワークショップ

- 詳細はビデオと配布資料
- 中心的な問題
- 1. ニーズを把握する(Aグループ)
- 2. 提案した技術を浸透させる(Bグループ)
- 浜野(オブザーバー参加)よりコメント
- 「なぜ」を考える。2つの問題は密接に関連している。

派遣中隊員がかかえる悩み(まとめ)

- ニーズがわからない
- 自分のやったことの効果が見えない(これまで何代も入って、何が変わったのか。実感が持てない)。
- 協力の効果をどう確認したらいいのか。
- 相手国の教育にどこまで介入していいのかわからない。
- 体罰やスパルタ式教育に疑問を感じるが、どうすべきか

派遣中隊員ニーズ(まとめと対応)

- ①活動の方向性に関して第三者の立場、専門的な立場からのコメントがほしい
- →拠点での対応:(Q&A集やワークショップに参加してのコメント)
- ②派遣先のニーズを把握したり、活動の効果を確認したりするための調査手法
- →拠点での対応:(Q&A集や評価ツール作成)
- ③資料や教材が現地語になっていると良い
- →幼児教育ハンドブックの多言語翻訳

連絡先

- ご質問・お悩みはこちらまで
- hamano.takashi@ocha.ac.jp
- お茶の水女子大学・教材配布URL
- <http://www.kodomo.ocha.ac.jp/~eccd/reports.html>
- ベトナム初等教育
- <http://www.ushiogi.com/viet-kaken.pdf>

障害児教育分野における青年海外協力隊派遣現職教員の
サポート事業の御紹介

前川 久男

(筑波大学特別支援教育研究センター長)

瀬戸口 裕二



青年海外協力隊 現職教員特別研修

障害児教育分野における青年海外協力隊派遣 現職教員のサポート事業のご紹介

筑波大学特別支援教育研究センター
センター長 前川 久男

事業の概要

- 筑波大学にある心身障害科学研究、附属障害教育5校と特別支援教育研究センターにおける専門性と実践的研究等を基盤とした高度な職業人養成機能の活用
- 研修プログラムと人材の活用
- 様々な教育的リソースの活用
- 大学間連携や機関連携で活用してきた独自の情報ネットワークの活用



- 派遣隊員のサポートニーズ調査
- 派遣前研修の更なる改善と発展
- 派遣隊員の課題に対する的確な対応(即応性・適切性・多様性)
- 障害に関わる各種リソースの集積と提供(教材・人材・指導法等)
- 派遣隊員のスキルアップのフォロー
- 任国における人材育成への協力
- 巡回サポートの展開
- 帰国隊員とのネットワーク構築

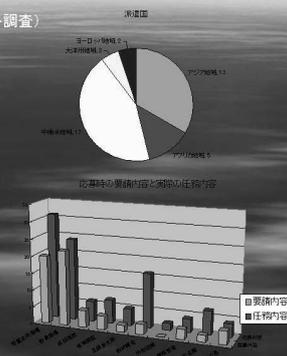
ニーズ調査の実施

派遣中の養護隊員を対象(選択式アンケート調査)

59人中39人 :回収率66.1%

質問項目

- ・派遣国及び活動内容
- ・勤務経験と基礎資格等
- ・応募動機と展開したい活動等
- ・派遣前研修のニーズ
- ・派遣中のサポートニーズ
- ・通信環境及びインターネットスキル



ニーズ調査から

- 国内での経験年数に関しては10年未満の隊員が半数を超える
- 派遣国では、担当者のいない領域を担う実際の担い手としての期待が多い
- 研修ニーズとしては、指導法、障害理解の内容が多い
- 派遣国に必要なサポートとしては、「指導法」と「人材養成」をあげている
- サポートの形態として、「専門家の派遣」「隊員の増員」が多い
- 帰国隊員との情報共有及びアドバイスを求めている傾向が高い

現地調査から(ジャマイカ・マレーシア)

- 隊員個々のスキルに対する期待が大きい
- 授業における具体的な成果を望んでいる
- 教科・領域に基づいた指導を中心とした授業スタイルはほぼ確立されている
- 障害の理解や障害特性に基づいた指導の見通しは不十分(特に重度児、自閉症)
- ブックレット作成など教員のスキルアップに資する成果への評価が高い
- 現地スタッフの人材養成への期待が大きい

隊員の作ったブックレット



現地調査及び巡回相談の様子



ジャマイカ、ランタロ特別教育学校



JAMIR(ジャマイカ知的障害協会) 総会
ブックレット贈呈式における隊員のプレゼンテーション



マレーシア、グラコー小学校



今年度の成果

- ニーズ調査を行い、隊員の課題及び継続的サポートの視点が得られた
- CRICEDのメーリングリストを活用して、派遣現職教員の課題に関する支援が展開できた(5カ国のべ14件)
- 派遣隊員のネットワーク環境及びスキルに関して把握することができた
- 派遣隊員と帰国隊員及び筑波大学間の情報交換専用ブログを立ち上げた
- 2カ国(ジャマイカ・マレーシア)をモデル地域として拠点構築の見通しをもった
- 附属障害教育5校を対象とし、講師派遣実績調査を行い、人材バンク(サポートパートナー)の基礎資料を得た

今後の活動予定

- 今年度派遣現職教員の専用ブログ会員登録
- 派遣前研修中の相談窓口開設(特別支援教育研究センター及び附属障害教育5校からの情報等)
- 指導法・障害理解・基礎理論テキスト配布(希望者)
- 拠点モデル構築(ジャマイカ・マレーシア)

* 本日中に登録用紙に必要事項をご記入の上、回収ボックスにお入れください。
後日、メールで詳細のご連絡を致します。

特別支援教育研究センターホームページ
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/~sserc/>

国際教育協力ネットワーク(専用ブログ)
<http://initiative.justblog.jp/blog/>

家政分野における派遣現職教員の活動支援教材および
指導法の開発

佐々井 啓

(日本女子大学)



家政分野における派遣現職教員の活動支援教材および指導法の開発



日本女子大学

活動概要



1. 派遣隊員報告の調査—隊員報告書より
2. 帰国隊員(家政)によるフォーラムの開催
3. 派遣隊員用携帯ハンドブックの作成
4. 家庭科教材開発
5. 現地視察(サモア)

ハンドブック



途上国教育協力ハンドブック(家政)—生活編

内容—生活の基礎となる家政分野

方針—家政分野の隊員のみでなく、生活に関わる指導を必要とするすべての隊員に共通する内容を盛り込む

身近な生活を通して、科学的な目を養う
簡単な技術の指導などに役立ててほしい

目次



家族と家庭生活

- 1 自分の成長をふり返ってみよう
- 2 私の生活時間
- 3 家庭の仕事と分担の工夫
- 4 私の将来の生活

食生活

- 1 健康と栄養
- 2 食事の果たす役割
- 3 調理器具の適切な管理
- 4 食品の選択・保存
- 5 食中毒の予防

衣生活

- 1 衣服のはたらき
- 2 衣服の保健衛生上の機能
- 3 衣服の洗濯と仕上げ
- 4 手縫いで作る
- 5 刺繍・組紐衛生

環境

- 1 手の洗い方
- 2 虫歯予防
- 3 消化・吸収のしくみ

- 1 すまいの手入れ
- 2 家から出るゴミ
- 3 世界の人たちが考えていること

家族と家庭生活



家族と家庭生活	私の生活時間
1. 1日24時間の生活時間について考えてみましょう。自分の生活時間と家族の生活時間とを比べてみましょう。	2. 1日の生活を、生活時間表を作って振り返る
2. 家族の生活について考えてみましょう。家族にも共通するものはありますか。家族に特有の生活時間がありますか。家族の生活について考えてみましょう。	3. 家族の生活についても考える
3. 表の縦軸(時間)について、自分の生活時間と家族の生活時間とを比べてみましょう。	4. 生活時間の考え方を他の教科へ応用してほしい

※本ハンドブックは、生活時間表を添削させていただきます。お問い合わせ先は、http://www.nw.ac.jp/~nwschool/academic/edu_0006/210.pdf

※お問い合わせ先: http://www.nw.ac.jp/~nwschool/academic/edu_0006/210.pdf

食生活



食生活	1日24時間の生活時間
1. 健康と栄養 (1) 栄養素と食品	2. 家族の生活時間
2. 食事の果たす役割	3. 家族の生活について考える
3. 調理器具の適切な管理	4. 生活時間の考え方を他の教科へ応用してほしい

※本ハンドブックは、生活時間表を添削させていただきます。お問い合わせ先は、http://www.nw.ac.jp/~nwschool/academic/edu_0006/210.pdf

※お問い合わせ先: http://www.nw.ac.jp/~nwschool/academic/edu_0006/210.pdf

青年海外協力隊派遣現職教員の 現況および家庭科教育支援に関する サモア現地調査

2007年4月3日

日本女子大学 家政学部
内野紀子 (児童学科)
飯田文子 (食物学科)
平田京子 (住居学科)

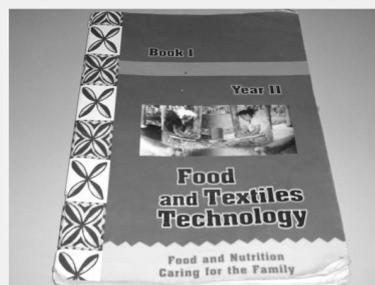
サモアでの訪問先



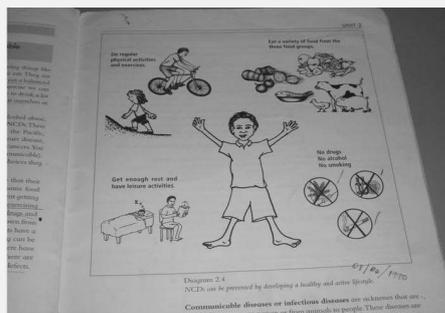
サモアにおける家庭科教育

- 初等教育(1~8年生)、中等教育(9~13年生)という学校教育の体系 ~JICAのサモアにおける基本設計概要表より
- 2000年から選択科目として家庭科が教育課程に組み込まれた
- 家庭科は中等教育で行われ、授業は家庭科室で行われている。教科書は共同のもの
- 授業は50分で、教室移動も含めた時間であるため実質はもっと少ない。週或いは年間の時間数は決まっていない
- 授業は黒板と、模造紙に書いた資料を活用することが多く、視聴覚的な教材はなく、その設備もないのが現状である。ワークシートなどを使うことも少ない

教科書(year 11)



教科書



Itu-Asau College





Collegeの家庭科実習教室の設備



授業での隊員指導の様子

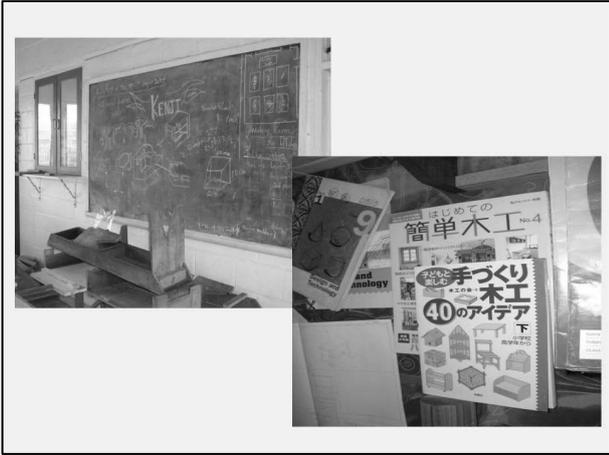


授業での実習



授業での染色実習





時間割

MR. TARKASWALI - ASSISTANT TEACHER YEAR 11						
PERIOD	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	
1	11		12	Ag. Sci	8	
2	AG SCI		AG SCI	Ag. Sci	AG SCI	
3		8	9	9	11	
4	AG SCI	AG SCI	P.E.	AG SCI	AG SCI	
5	AG SCI	AG SCI	AG SCI	AG SCI	AG SCI	
6	AG SCI	AG SCI	AG SCI	AG SCI	AG SCI	
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
46						
47						
48						
49						
50						
51						
52						
53						
54						
55						
56						
57						
58						
59						
60						
61						
62						
63						
64						
65						
66						
67						
68						
69						
70						
71						
72						
73						
74						
75						
76						
77						
78						
79						
80						
81						
82						
83						
84						
85						
86						
87						
88						
89						
90						
91						
92						
93						
94						
95						
96						
97						
98						
99						
100						

「国際協カイニシアティブ」青年海外協力隊派遣現職教員
＜体育＞サポート平成 18 年度実施報告

川口 純 ((社) 青年海外協力協会)

渡邊 祐輔



「国際協カイニシアチブ」
 青年海外協力隊派遣現職教員＜体育＞
 サポート平成18年度実施報告

(社)青年海外協力協会
 川口 純

1

平成18年度課題実施課題・内容

課題一協力隊派遣現職教員(体育)のサポート

↓
 国際教育協力の質の向上

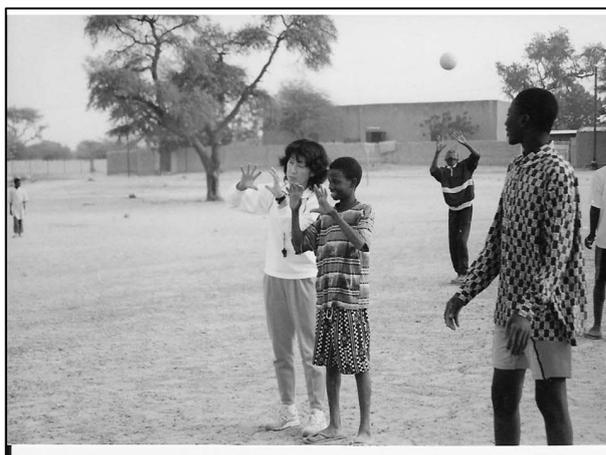
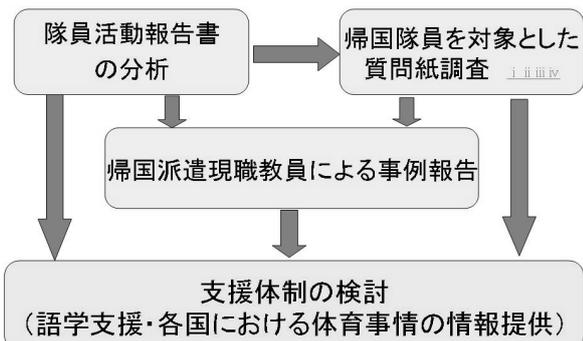
実施内容

- ニーズ調査
- 支援体制の構築
- 現地調査(ザンビア・マラウイ)

2



支援体制構築までのプロセス

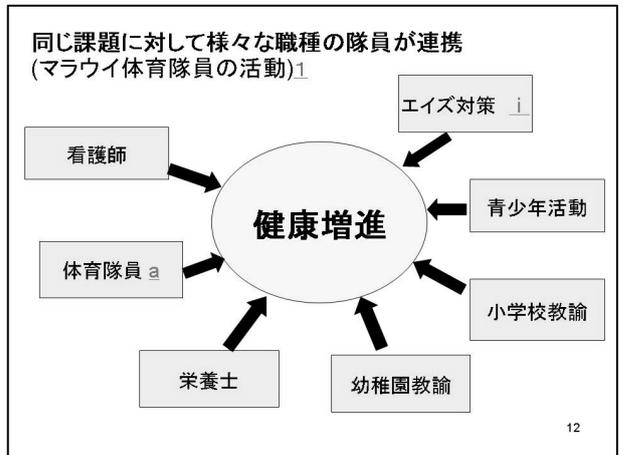
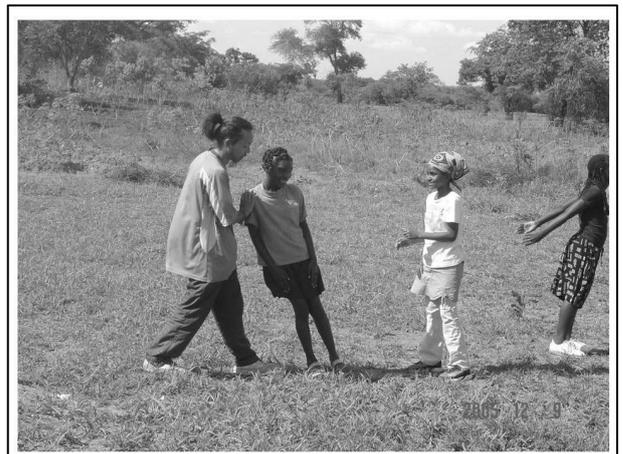


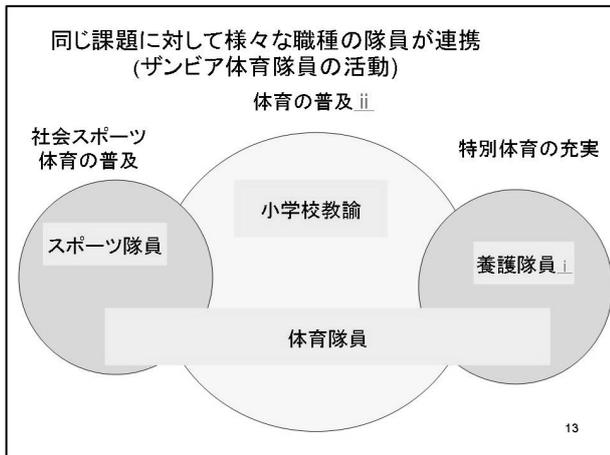


現地調査(ザンビア・マラウイ)

- 体育概要調査
- 体育関係者とのネットワーク構築
- 活動風景撮影

9



活動中の隊員に対するサポート

- メールにて対応
- 「世界の笑顔のために」活用

14

平成19年度の支援計画

- <派遣前>
 - ・応募相談 ¹
 - ・任国の体育事情調査
 - ・オリエンテーションの実施
- <派遣中>
 - ・支援要請に対応
 - ・現地調査
 - ・資料収集
- <帰国後>
 - ・オリエンテーションの実施
 - ・国際理解教育に対するサポート

15

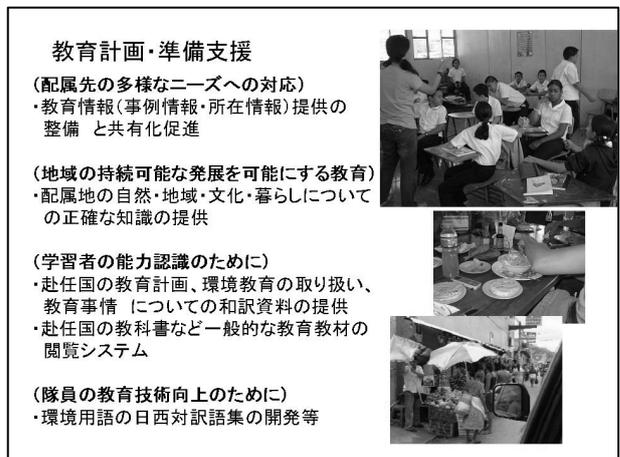
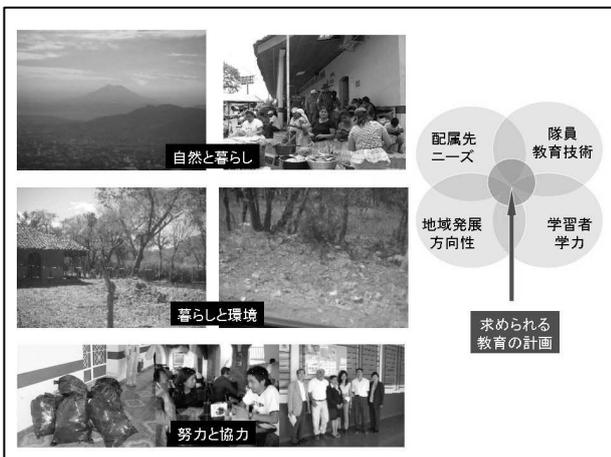
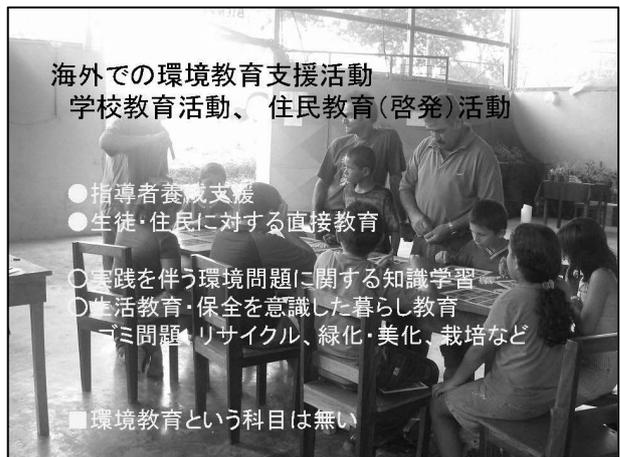
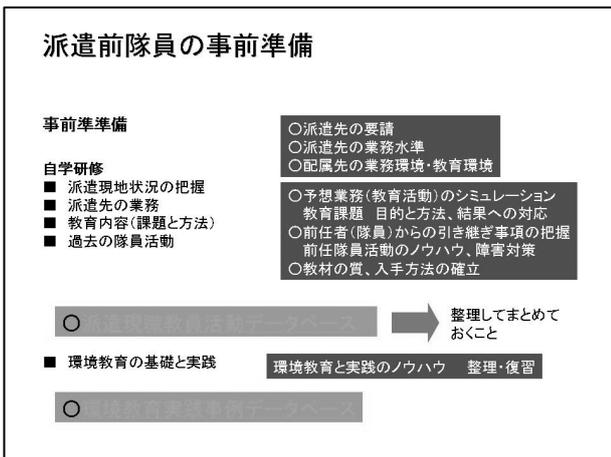
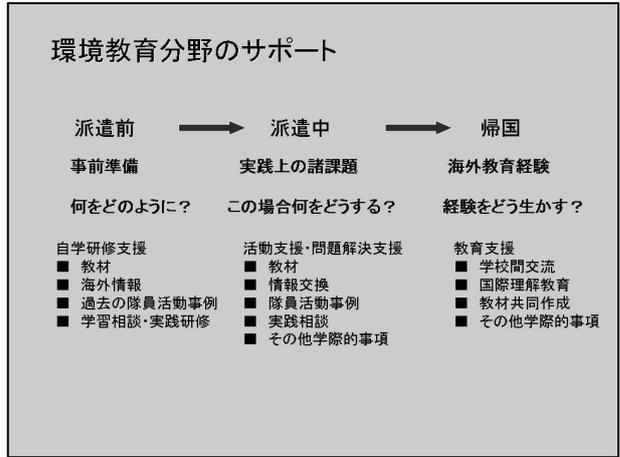
青年海外協力隊派遣現職教員

環境教育分野のサポート

村松 隆

(宮城教育大学環境教育実践研究センター)

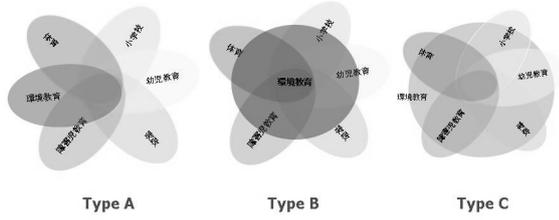




日本人海外教育協力者の環境教育の立場

あなたは、どれを選びますか？

こたえは …… Type B と Type C を選ぶべきです



青年海外協力隊派遣現職教員

環境教育分野のサポート

村松 隆

(宮城教育大学環境教育実践研究センター)



環境教育実践事例データベースの活用

■環境教育の教材作成・学習プログラムの作成

■環境教育以外の教育プロセスへの環境教育素材の導入

- 小学校教育 ○理科教育分野 ○社会科教育分野
- 保健・衛生分野 ○幼児教育分野 ○その他の分野

- 暮らしに関する素材を使った学習
- 地域自然に関する素材を使った学習
- 教科横断的・総合的学習への環境教育素材の導入
- 学校における課題学習、啓発活動への環境教育素材の導入

暮らしの教育 → 素材としての選択

- ゴミ問題・リサイクル・資源活用
- 緑化・美化
- 栽培・食物
- 等々

選択した素材をデータベースで検索
課題に関する指導方法、学習法を参照

環境教育素材を活用した教科指導・教科学習
プログラムが作成できる。

指導手順書の作成法

ゴミ問題に関する指導プログラムの作成を例として

データベースから、教育・学習素材を抜き出して、簡単な指導プログラムを作成してみる。

①何のための指導なのか？：目標設定

例として、環境教育の基本的な考え方を整理してみる。これには、データベースの事例から、自分がいちばん思うものを導く。

ここでは [環境教育の基本的考え方・環境学習の進め方 No68](#)

②どんな指導計画を立てる？：指導案・指導計画書

例として、ゴミ問題の学習計画(教育方法)をデータベースに登録してある「ゴミ問題」の事例から選ぶ。(実際の指導案を参照するとよい)。

例「ゴミ問題」の学習目標の設定、指導計画・活動内容と指導上の留意点、評価の観点と方法などが書かれているものを選ぶ。

ここでは [個別課題に関する環境教育情報 ゴミ問題 No338](#)

③どんな学習をさせる？：活動方法、成果の上げ方の構成

ゴミ問題の具体的な活動方法について、必要と思われる素材を事例の中から探し出す。

例「学習目標設定 予想とそのまとめ、調査方法とその指導などが書かれているものを選ぶ。

ここでは [個別課題に関する環境教育情報 ゴミ問題 No405](#)

1

No68 「わたしたちが目指す環境学習」からの抜粋

環境教育とは

■環境学習のねらい(は何か)

- ① 環境学習のねらい(は何か)
 - 環境学習のねらいとは、環境学習の目的や目標、学習の方向性、学習の成果などを示すことである。学習のねらいは、学習の目的や目標、学習の方向性、学習の成果などを示すことである。学習のねらいは、学習の目的や目標、学習の方向性、学習の成果などを示すことである。
- ② 環境学習のねらい(は何か)
 - 環境学習のねらいとは、環境学習の目的や目標、学習の方向性、学習の成果などを示すことである。学習のねらいは、学習の目的や目標、学習の方向性、学習の成果などを示すことである。学習のねらいは、学習の目的や目標、学習の方向性、学習の成果などを示すことである。
- ③ 環境学習のねらい(は何か)
 - 環境学習のねらいとは、環境学習の目的や目標、学習の方向性、学習の成果などを示すことである。学習のねらいは、学習の目的や目標、学習の方向性、学習の成果などを示すことである。学習のねらいは、学習の目的や目標、学習の方向性、学習の成果などを示すことである。

■環境学習のプロセスに含まれる“学び”

- ① 環境学習のプロセスに含まれる“学び”
 - 環境学習のプロセスとは、学習の過程や手順を示すことである。学習のプロセスは、学習の過程や手順を示すことである。学習のプロセスは、学習の過程や手順を示すことである。
- ② 環境学習のプロセスに含まれる“学び”
 - 環境学習のプロセスとは、学習の過程や手順を示すことである。学習のプロセスは、学習の過程や手順を示すことである。学習のプロセスは、学習の過程や手順を示すことである。
- ③ 環境学習のプロセスに含まれる“学び”
 - 環境学習のプロセスとは、学習の過程や手順を示すことである。学習のプロセスは、学習の過程や手順を示すことである。学習のプロセスは、学習の過程や手順を示すことである。

■環境学習で養うもの(環境学習の目標)

- ① 環境学習で養うもの(環境学習の目標)
 - 環境学習の目標とは、学習の目的や目標を示すことである。学習の目標は、学習の目的や目標を示すことである。学習の目標は、学習の目的や目標を示すことである。
- ② 環境学習で養うもの(環境学習の目標)
 - 環境学習の目標とは、学習の目的や目標を示すことである。学習の目標は、学習の目的や目標を示すことである。学習の目標は、学習の目的や目標を示すことである。
- ③ 環境学習で養うもの(環境学習の目標)
 - 環境学習の目標とは、学習の目的や目標を示すことである。学習の目標は、学習の目的や目標を示すことである。学習の目標は、学習の目的や目標を示すことである。

No338 「健康な暮らしのためにからの抜粋

■No405 「環境にかかわる総合的な学習-総合的な学習-学習支援資料集」より抜粋

教育計画・学習計画 :指導過程・指導上の留意点・ 評価の観点



活動内容

予想の立て方(カード利用)



ゴミ調べ

発表の方法



派遣現職教員活動データベース 環境教育分野活動報告

最終更新日: 2008/08/20

このデータベースについて 環境教育のサポート 環境教育実践事例データベース
青年海外協力隊員の環境教育分野の活動報告(H15以降)をもとに、海外での環境教育活動に関する情報を収録しています。活動報告における学習研修や派遣地における教育活動の参考資料としてご利用下さい。

地域別検索	アジア	アフリカ	大洋州	中近東	中米・カリブ
インドネシア	カンボジア	スリランカ	タイ	マレーシア	
ウガンダ	ケニア	セネガル	タンザニア	モロッコ	
パラオ	フィジー	マーシャル群島	ミクロネシア		
ヨルダン					
エクアドル	エルサルバドル	グアテマラ	コスタリカ	コロンビア	セントビン
ドミニカ共和国	ニカラガ	パナマ	パラグアイ	ホンジュラス	

活動内容別検索
 教育活動 ● 巡回授業・指導 ● プロジェクトの企画・推進 ● 教科書・指導書・テキストの作成 ● 教育プログラムの作成
 調査活動 ● フィールドワーク ● 生物学的調査 ● 動物の飼育 ● 地域の管理・巡回 ● 地域の環境整備
 ● 実習調査(情報収集) ● アンケート調査

実践活動 [選択] [検索] [リセット]

実践活動情報 環境教育の実施、留意事項・諸課題、その他、環境教育の協力内容に関すること

課題別検索
 環境教育課題 ● ゴミ問題 ● コンポスト ● リサイクル ● 環境美化・清掃活動 ● 自然環境保全 ● 緑化 ● その他

キーワード検索
 キーワード [検索] [リセット]
 AND検索 OR検索 最大5つの語句まで(語句の間を空白(全角)で区切る)

隊員報告書からの抜粋
 隊員報告 ● 隊員報告書一覧、業務計画および教育報告
 活動課題・指導 ● 隊員活動上の課題、指導(抜粋)

海外からの要請 ● 地域別検索 [選択] [検索] [リセット]

拠点システムからの情報提供
 海外の要請 ● 環境教育分野における海外からの要請内容の分析結果(H15以降-H18以降)
 教材関係 ● 開発途上の環境問題を題材とした環境教育教材作成の視点
 ● 環境教育のより広い大きな見取りをもつ海外教育協力のための環境教育の基盤的考え方
 ● 派遣現職に対する課題の教員支援
 プロジェクト報告 ● 海外教育協力センターに対する環境教育実践指導と教育マテリアルの支援(H18年度報告)

- 海外調査報告
- 日本の環境教育・環境教育実践事例データベース(宮城教育大学拠点システムプロジェクト作成)
- 環境教育関連用語データベース(武蔵工業大学佐藤真久氏作成)

制作者 文部科学省拠点システム事業国際教育協力イニシアチブ 青年海外協力隊派遣現職教員サポート(2006)
 環境教育分野事務局 宮城教育大学拠点システムプロジェクトチーム
 〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉140 宮城教育大学附属環境教育実践研究センター

ICT 研修

- ICT 研修
- ICT 活用の意義

ICT 研修

茅野 公穂、矢原 弘樹



使用機材・ソフト一覧

ウェブカメラ・ヘッドセット： いろいろな商品が市販されています。

研修で使用したものは以下の商品です。

社名: Logicool, 品番: QVP-6 1 HSSV, 商品名: Qcam Connect with Headset

社名: Logicool, 品番: QV-6 1 HS, 商品名: Qcam Instant Messenger with Headset

Skype (スカイプ) : フリーウェアソフト

<http://www.skype.com/intl/ja/>

Windows ムービーメーカー: Windows マシンにはたいてい付いています。

ブログ作成: いろいろなブログ開設サイトがあります。

Excite ブログ <http://www.exblog.jp/>

livedoor ブログ <http://blog.livedoor.com/>

Yahoo! ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/>

Windows Live Spaces <http://spaces.live.com/>

ココログフリー <http://www.nifty.com/pleasy/cocolog/index.htm>

.....

参考

Windows Live メッセンジャー: フリーウェアソフト

<http://messenger.live.jp/>

Yahoo メッセンジャー: フリーウェアソフト

<http://messenger.yahoo.co.jp/>



Skype (スカイプ) は、インターネットを使った IP 電話ソフト (ソフト代無料) です。利用者同士なら通話料無料で世界中の相手と通話ができます。派遣隊員同士や帰国隊員との情報交換・連絡をはじめ、ご家族との連絡にも使えます。また、最後に紹介するネットミーティングを使えば、派遣先の教室と日本の教室をつないで、インターネットライブ授業も行えます。

Skype を手に入れよう (ダウンロードしましょう)

1. 「<http://www.skype.com/intl/ja/>」にアクセスし、「Skype のダウンロード」をクリック



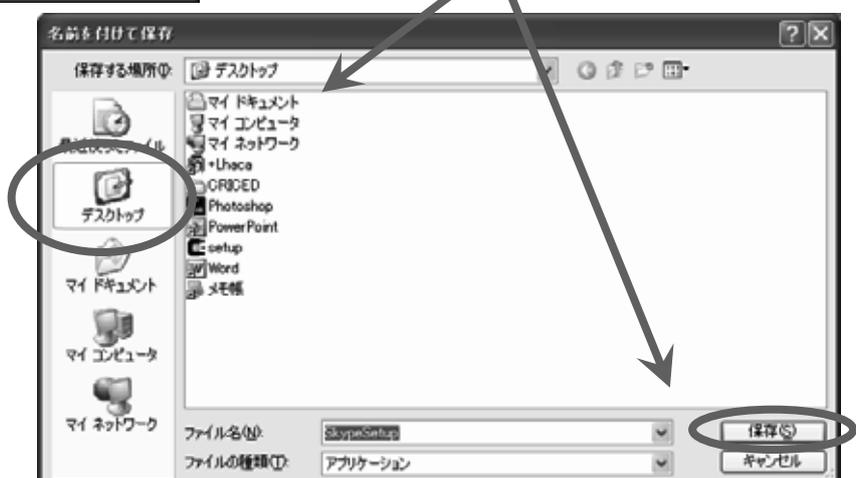
2. 「ダウンロード」をクリック



3. 「ファイルのダウンロード—セキュリティの警告」画面で「保存」をクリック



4. 「保存する場所」をデスクトップなどに指定し、「保存」をクリック

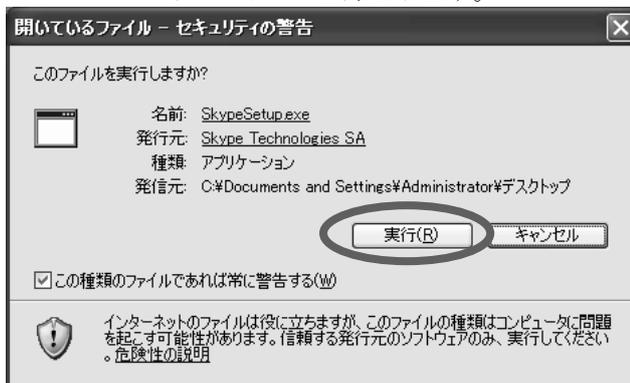


Skype をインストールしよう

1. (ファイルのダウンロードが完了したら)
「SkypeSetup」 ファイルをダブルクリックする。



2. 「実行」をクリック。スカイプのインストールが始まります。



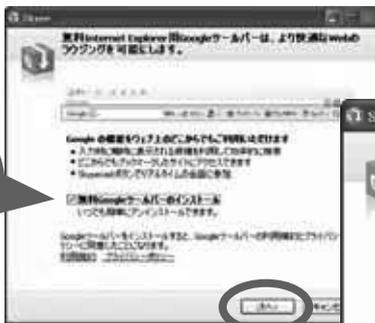
3. 使う言語として①「日本語」を選択,
②「利用規約とプライバシーポリシーに同意する」をクリックし,
③「インストール」をクリック。



使う言語は「日本語」を選択

利用規約とプライバシーポリシーに同意するをクリック

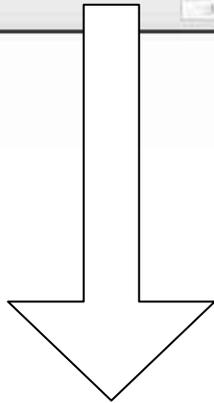
ツールバーをインストールしたくないときはチェックをはずす



4. 途中、Google 「ツールバー」のインストール画面が表示されたときは、必要に応じてチェックを入れたりはずしたりし、「次へ」。※表示されない方もいます。右の画面が表示されれば、インストールは完了です。必要に応じてチェックを入れたりはずしたりし、「Skype を起動させる」をクリック。



5. 自分のアカウント名 (Skype 名) や「パスワード」を設定し、「ライセンス契約書, 使用条件, およびプライバシーポリシーに同意します」をチェックし、「次へ」をクリックします。



※参考

左上の画面は、スカイプをログアウトし、「アカウントを開設」をクリックしても表示できます。



希望する
スカイプ名を入力

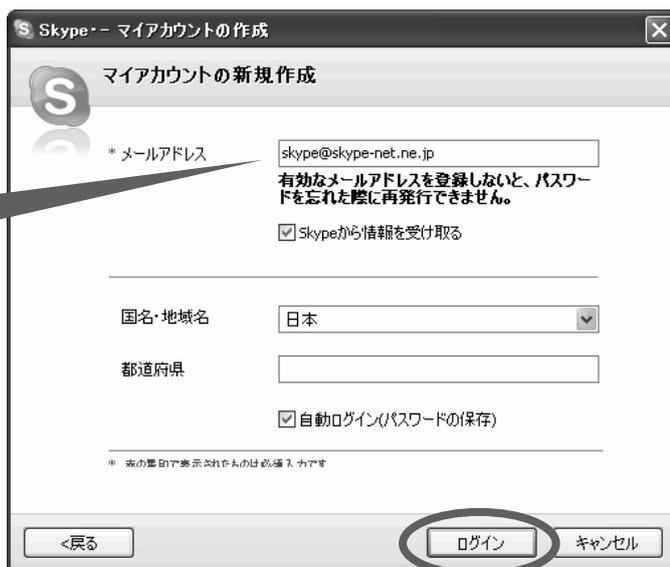
※Skype 名が既登録名と
重複すると、再入力
を求められます。

「パスワード」の
入力

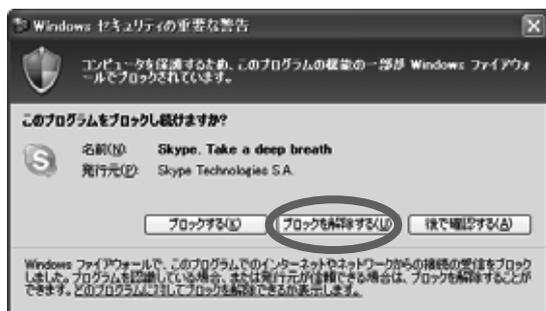
「利用規約に同意
して登録する」に
チェック

6. 次の画面ではメールアドレスを入力し、必要に応じてチェックを入れたりはずしたりし、「ログオン」をクリックします。

メールアドレスを入力



7. Windows セキュリティの重要な警告が表示されたときには、「ブロックを解除」をクリック。



8. 「Skype 開始ウィザード」が表示されますが、今回は使いませんので、閉じます。

「Skype の起動時に開かない」を
チェックしてから閉じると、以後
はこの画面は表示されません



左のような「Skype 開始ウィザード」が表示されたときも、今回は使いませんので、閉じます。

ヘッドセットの設定をしよう

ヘッドセット（マイクとヘッドホン）を用意してください。（店頭では安いもので二千元程度です。）

1. ヘッドセットのプラグを、パソコンのマイク端子とヘッドホン端子に差し込んでください。
2. 音声テストを行います。メニューの中の「ツール」をクリックし、下に表示される「設定」をクリックします。



3. 「オーディオデバイス」をクリックし、「Skype 音声テストサービスに発信」をクリックします。

音声案内にしたがって、声を出してみてください。

正常にセットアップできたら「保存」をクリック。



自分の声が再生されないときには、マイク端子の接続などを確認してみてください。

音声案内が聞こえないときには、音声端子の接続やパソコンのボリューム設定を確認してみてください。

会話したい相手を登録しよう

1. 「コンタクトへ追加」をクリックします。



2. 相手の Skype 名を入力し「検索」ボタンを押します。



相手の Skype 名を入力

3. 一覧の中から相手を選択し、「Skype コンタクトを追加」をクリックします。



Skypeコンタクトを追加

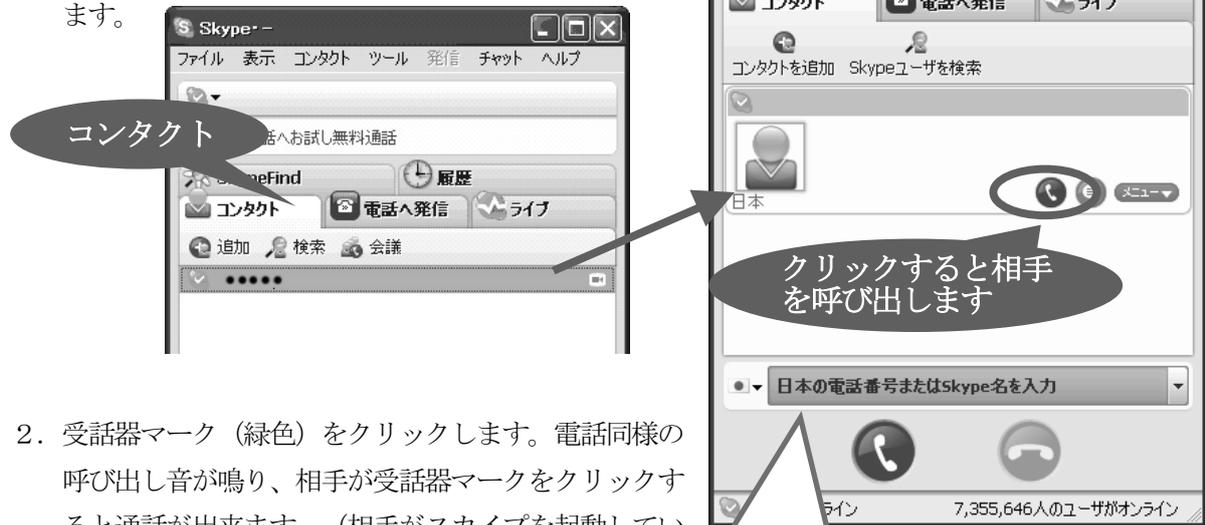


4. 相手に送るメッセージを入力し、「OK」をクリックします。

メッセージを入力

Skype で会話してみよう

1. 「コンタクト」の中に、先ほど登録した相手が表示されているはずです。クリックすると、その行が広がります。



2. 受話器マーク（緑色）をクリックします。電話同様の呼び出し音が鳴り、相手が受話器マークをクリックすると通話ができます。（相手がスカイプを起動していないとつながりません）

※ウインドウの下方左側にある入力画面（日本の電話番号またはSkype名を入力）に直接入力して、受話器マーク（緑色）をクリックしてもつながります。

電話にでる

スカイプを起動してあれば、電話同様の呼び出し音が鳴ります。受話器マーク（緑）をクリックすると通話ができます。

電話をきる

右側の受話器マーク（赤）をクリック。

註1： 各種設定は、「ツール」から「設定」を選択し行います。

註2： SkypeOut（スカイプアウト）という機能を使えば、固定電話や携帯電話にも電話をかけることができます。ただし有料ですので、「スカイプアウトクレジット」を購入する必要があります。一般の固定電話から国際電話をかけるよりは安くなることが多いです。

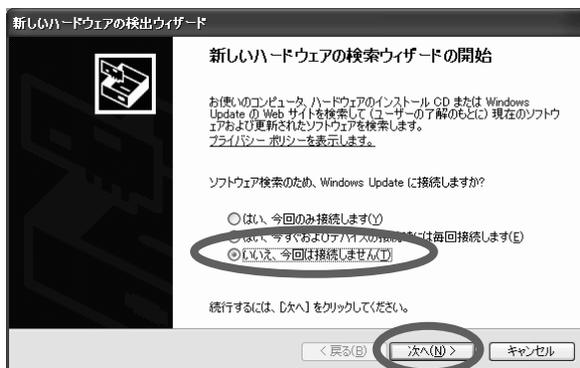
註3： 複数の人と会話することもできます。

註4： 最新版を利用しましょう。

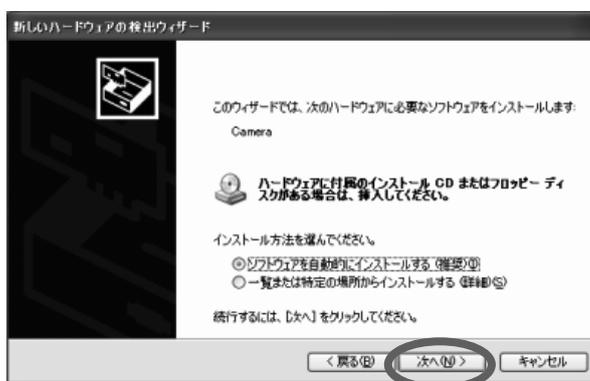
Skype でネットミーティングしてみよう

1. カメラの設定を行います。カメラをパソコンの上に乗せ、USB ポートにケーブルを差し込んでください。

2. Windows Update への接続について聞かれたら、「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックします。



3. 右の画面が出たら、手元にある Logitech の CD を挿入します。指示に従ってインストールを行います。



4. 右の画面が表示されたら「閉じる」。



5. Skype でカメラ設定を行います。先ほどと同じように、「ツール」から「設定」を選択します。今回は、「ビデオ」を選択し、「Webカメラのテスト」をクリックします。

6. 画面に映し出された映像を見ながら、カメラの角度やピントなどを調整し、Webカメラのテストページを「閉じる」。その後、設定画面で「保存」をクリック。

7. 相手との通話中に、「ビデオを開始」をクリックします。
(相手にあなたの映像が届きます)

相手の映像

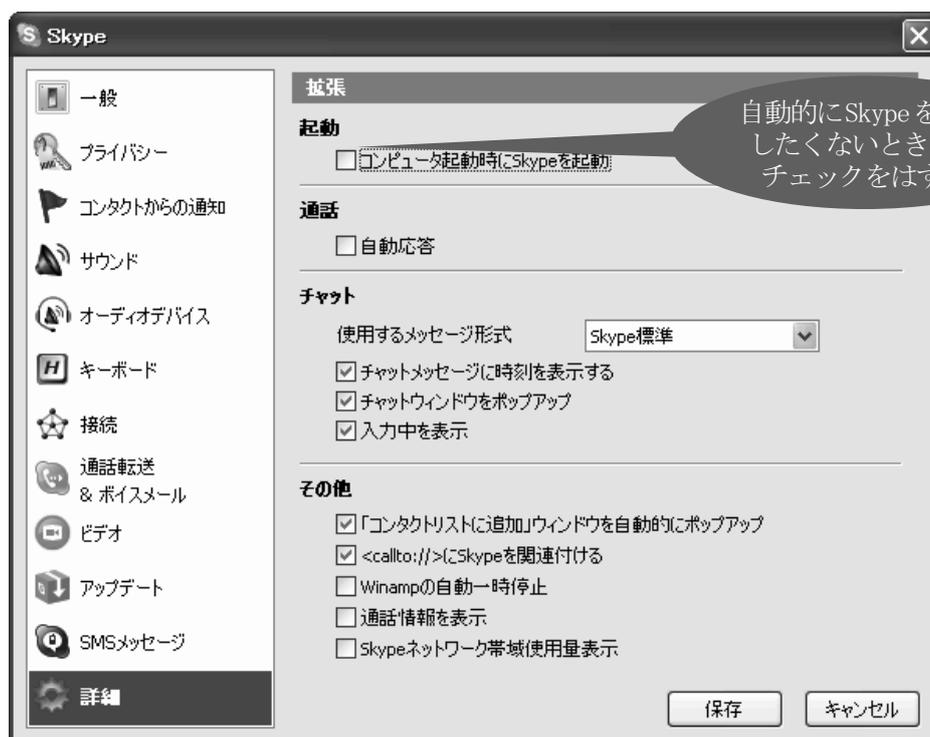
ビデオの開始をクリックすると、自分の映像がここに表示されます

8. 相手も同じように選択すると、お互いの映像を見ながら話すことができます。
(相手の映像があなたにも届きます)



註5：ネットミーティングは、「Yahoo! メッセンジャー」や「Windows Live メッセンジャー」でもできます。

註6：コンピュータ起動時に自動的に Skype を起動したくないときは、「ツール」から「設定」を選択し、さらに「詳細」を選択します。そして「コンピュータ起動時に Skype を起動」のチェックをはずす。





Windows ムービーメーカーは、パソコンにビデオ映像（及び静止画）を取り込み、さらに取り込んだ映像（及び静止画）をつなぎ合わせて1本の映像に編集・保存できます。任地において映像教材を作成したり、任地での活動を映像でまとめたりすることに使えます。

Windows ムービーメーカーを起動しよう

パソコンの画面左下の、①「スタート」をクリックし、②「すべてのプログラム(P)」にカーソルを移動し、③「Windows ムービーメーカー」をクリックします。

①「スタート」をクリックし、②「すべてのプログラム(P)」にカーソルを移動し、③「Windows ムービーメーカー」をクリックします。

③「Windows ムービーメーカー」をクリック

②「すべてのプログラム(P)」へカーソルを移動

【Windows ムービーメーカーが起動した画面】

Windows ムービーメーカーの起動画面には、以下のメニューと機能が表示されます。

- ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツール(T) クリップ(C) 再生(P) ヘルプ(H)
- 作業 コレクション
- ムービー作成
 - 1. ビデオの取り込み
 - 2. ムービーの編集
 - 3. ムービーの完了
- ムービー作成のヒント
 - ビデオを取り込む方法
 - クリップを編集する方法
 - タイトル、特殊効果、切り替え効果の追加方法
 - ムービーを保存して共有する方法

コレクション: コレクション
クリップを下のストーリーボードにドラッグアンドドロップしてください。

タイムラインの表示

ムービーの作成を開始するには、メディアをストーリーボードまでドラッグしてください。

準備完了

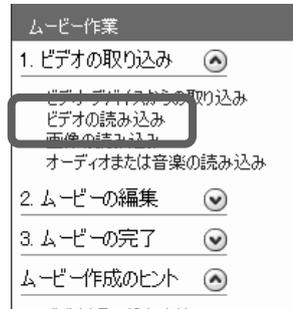
ビデオ映像をつなぎ合わせて編集しよう

1. パソコンに保存されているビデオ映像を、ムービーメーカーに取り込みます。

① 「ビデオの取り込み」の右横のボタンをクリック



② 「ビデオの読み込み」をクリック



③ ファイルの場所を「デスクトップ」にし、「鯉のぼり」をクリック



注：「鯉のぼり」を選んで、右下の「読み込み」をクリックしてもかまいません

再生ボタンをクリックすると、取り込んだ映像が再生されます。

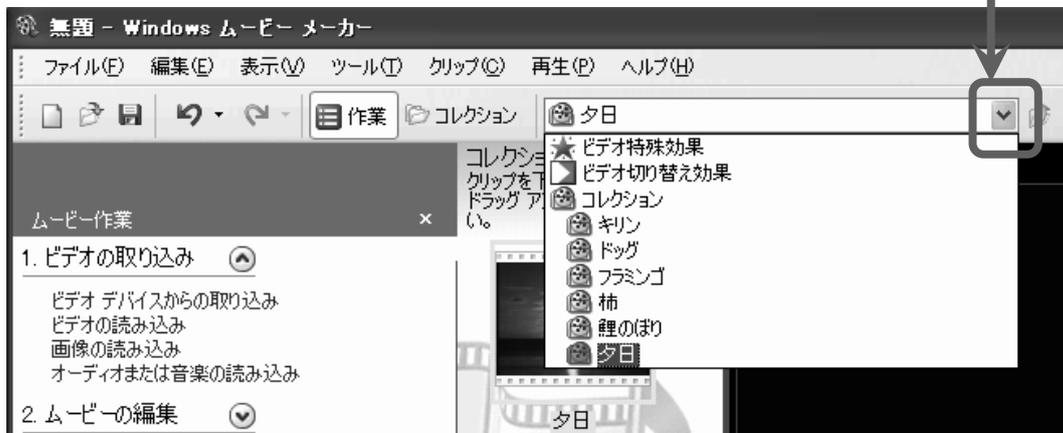
※再生画面に映像が表示されていないときには、画面中央の「鯉のぼり」をクリックしてください



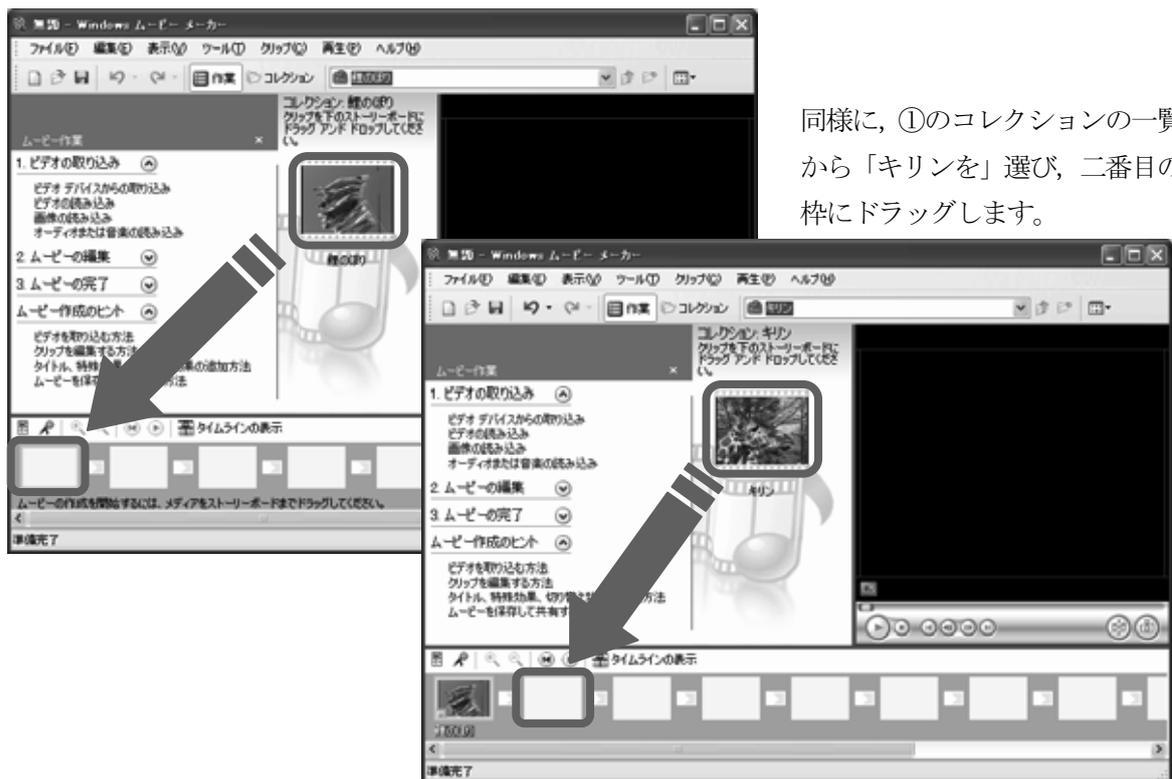
④同様に、②と③を繰り返して「キリン」、「ドッグ」、「フラミンゴ」、「柿」、「夕日」を読み込みます。

2. ビデオ映像をつなぎ合わせます。

- ①ムービーメーカーに取り込まれた映像等の一覧は、「コレクション」右横のボタンをクリックすると表示されます。



- ②「鯉のぼり」、「キリン」、「ドッグ」、「フラミンゴ」、「柿」、「夕日」の順につなぎ合わせるとします。まず、①のコレクションの一覧から「鯉のぼり」を選びます。次に、画面中央の「鯉のぼり」を画面左下の枠にドラッグします。



「ドッグ」、「フラミンゴ」、「柿」、「夕日」についても同様に枠にドラッグします。

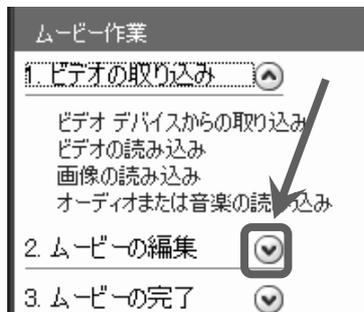


※③ビデオをつなぐ順序を、「ドッグ」、「フラミンゴ」から「フラミンゴ」、「ドッグ」へ変えたいときは、画面下に表示されている「ドッグ」を「柿」の左横へドラッグします。

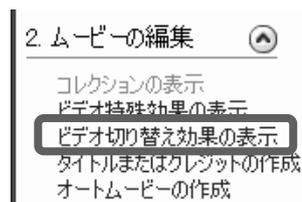


3. ビデオ映像を切り替えるときの効果をつけます。

①「ビデオの取り込み」の右横のボタンをクリック



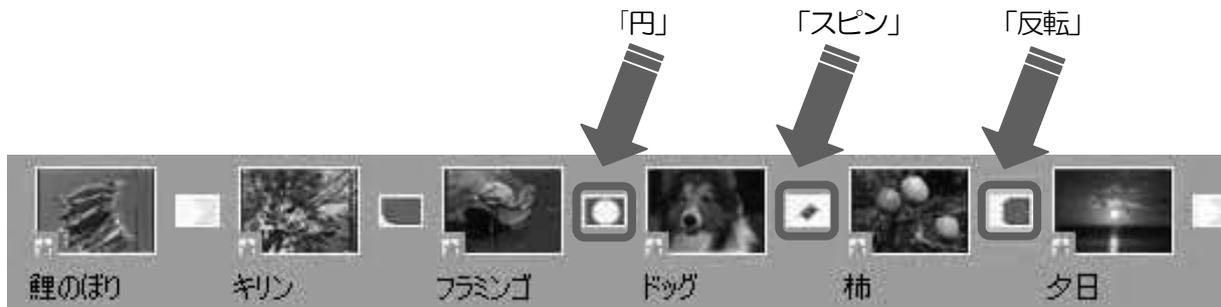
②「ビデオ切り替え効果の表示」をクリック



③「キリン」の映像を、ページを右上へめくるようにしながら「フラミンゴ」の映像へと切り替えます。画面中央に表示される「ビデオ切り替え効果」一覧の中にある、「ページカール」を画面下の「キリン」と「フラミンゴ」の間の枠にドラッグします。



- ④同様に、ビデオ切替え効果「円」を「フラミンゴ」と「ドッグ」の間、
ビデオ切替え効果「スピン」を「ドッグ」と「柿」の間、
ビデオ切替え効果「反転」を「柿」と「夕日」の間、の枠にそれぞれドラッグします。



4. ビデオ映像に特殊効果をつけます。

「鯉のぼり」の映像に、「イーズイン」及び「フェードアウト(黒へ)」をつけます。

- ①まず、画面下の「鯉のぼり」を右クリック。



- ②次に、「ビデオ特殊効果」をクリック。

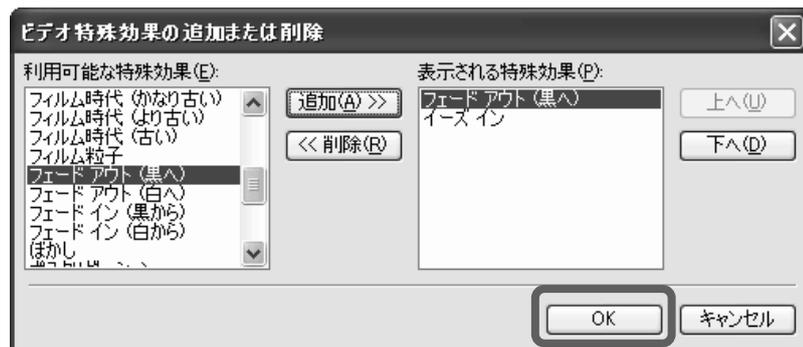


- ③「イーズイン」をクリックし、「追加」をクリック。



- ④同様に、「フェードアウト(黒へ)」をクリックし、「追加」をクリック。

- ⑤「OK」をクリック。



「麒麟」についても、同様に、ビデオ特殊効果「フェードイン(黒から)」をつけます。



5. ファイルの保存 (Windows ムービーメーカーでは「プロジェクトの保存」と呼びます)



「ファイル」から「名前を付けてプロジェクトを保存」をクリックし、Word 文書や一太郎文書のように Windows ムービーメーカーのファイルとして保存します。



6. 映像ファイルとして保存



- ムービー作業
1. ビデオの取り込み
 - ビデオ デバイスからの取り込み
 - ビデオの読み込み
 - 画像の読み込み
 - オーディオまたは音楽の読み込み
 2. ムービーの編集
 - コレクションの表示
 - ビデオ特殊効果の表示
 - ビデオ切り替え効果の表示
 - タイトルまたはクレジットの作成
 - オートムービーの作成
 3. ムービーの完了

- ・「ムービーの完了」から「コンピュータに保存」をクリック。
- ・「コンピュータの最高の品質で再生(推奨)」を選択し、「次へ」。
- ・ファイル名を入力し、保存場所を指定し、「次へ」。
- ・「[完了]をクリックしたときに、ムービーを再生する」にチェックし「完了」。

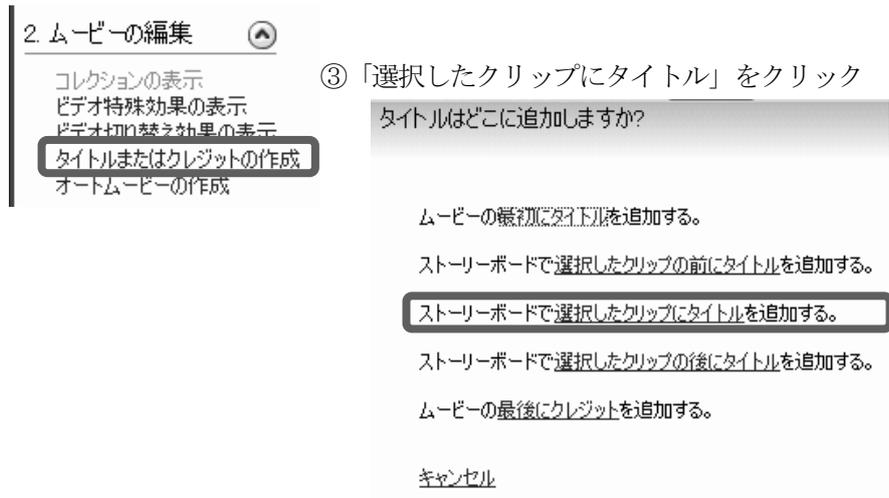
7. タイトルとクレジットをつけます。

「鯉のぼり」の映像に重ねてタイトルをつけてみましょう。

①画面下の「鯉のぼり」をクリック



②「ムービーの編集」から「タイトルまたはクレジットの作成」をクリック



④タイトルを入力します

タイトルのテキストを入力
タイトルをムービーに追加するには、[終了]をクリックしてください。



終了、タイトルをムービーに追加する

キャンセル

詳細オプション:

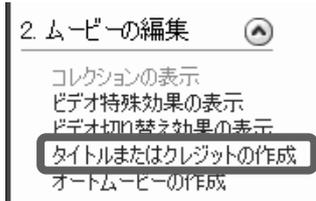
タイトルアニメーションを変更する

フォントと色を変更する

⑤「終了、タイトルをムービーに追加する」をクリック。

クレジットをつけてみましょう。

- ① 「ムービーの編集」から「タイトルまたはクレジットの作成」をクリック



2.ムービーの編集 ▲

- コレクションの表示
- ビデオ特殊効果の表示
- ビデオ切り替え効果の表示
- タイトルまたはクレジットの作成**
- オートムービーの作成

② 「最後にクレジット」をクリック

タイトルはどこに追加しますか？

- ムービーの最後にクレジットを追加する。
- ストーリーボードで選択したクリップの前にタイトルを追加する。
- ストーリーボードで選択したクリップにタイトルを追加する。
- ストーリーボードで選択したクリップの後にタイトルを追加する。
- ムービーの最後にクレジットを追加する。**

キャンセル

- ③ クレジットを入力します

タイトルのテキストを入力
タイトルをムービーに追加するには、[終了]をクリックしてください。

Windows ムービーメーカーをつかってみよう	
使用OS	Microsoft Windows HP Home Edition
ビデオ編集ソフト	Microsoft Windows ムービーメーカー Ver. ...
ビデオ再生ソフト	Microsoft Windows Media Player 9 Series

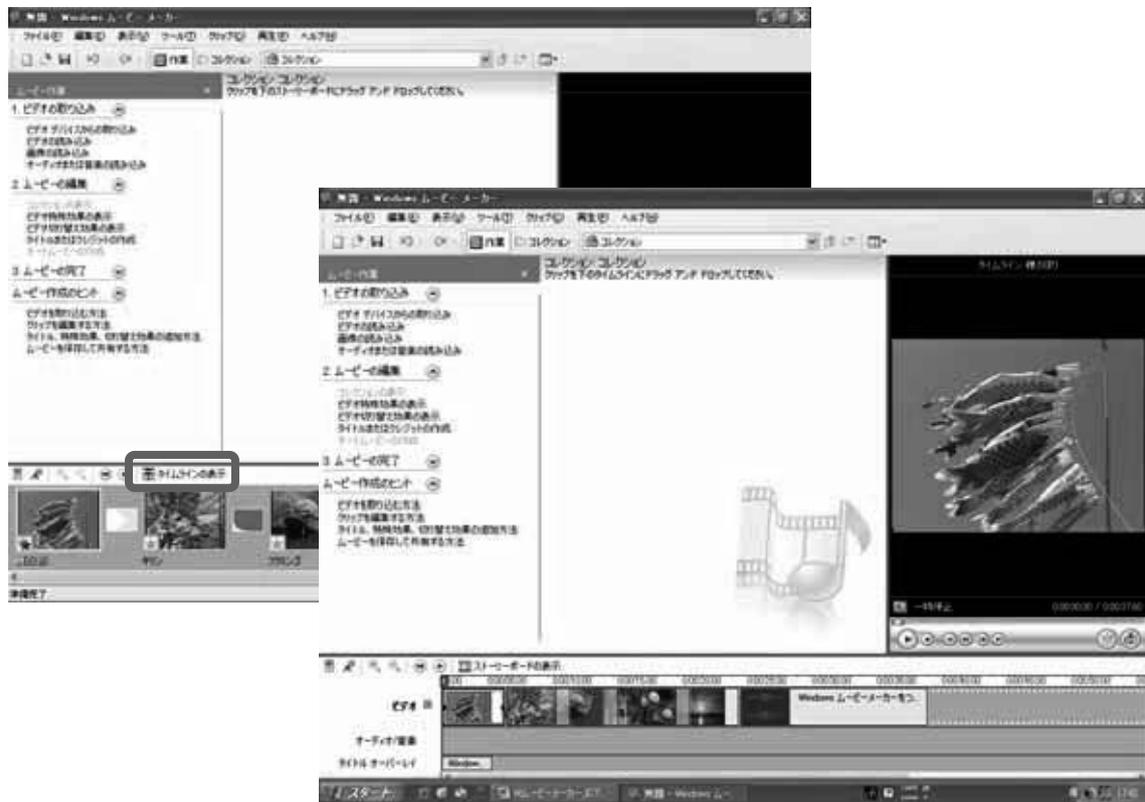
終了 キャンセル

詳細オプション:
タイトルアニメーションを変更する
フォントと色を変更する

- ④ 「終了」をクリック。

8. 全体の微調整をします。

①「タイムラインの表示」をクリック。画面下の表示がタイムラインに切り替わる。



②タイトルを表示する時間帯を変更する

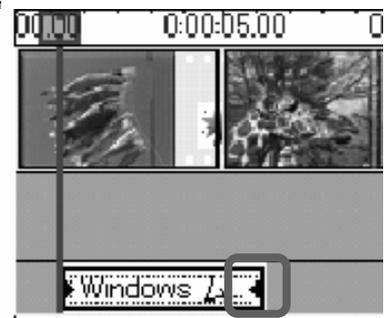
「タイトルオーバーレイ」のタイトル部分をクリック



左端をドラッグして「鯉のぼり」の途中から開始に変更



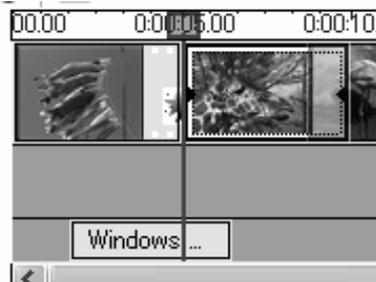
右端もドラッグして
「麒麟」の途中で終了に変更



③映像の中から必要な箇所だけを採用する（トリミング）

「キリン」の先頭部分を削除してみましょう。

映像を選択して、再生します。



再生しながら、「クリップ」から「開始トリミングポイントの設定」をクリック。

（再生しながら、「Ctrl+Shift+I」の方が素早くポイントを設定できます）



これで、開始トリミングポイント設定位置以前の「キリン」部分は編集画面上から消去されました。

※ 同様に、映像を再生しながら「終了トリミングポイントの設定」または「Ctrl+Shift+0」を行うと、設定ポイント位置以降の「キリン」部分は編集画面上から消去されます。

「5. ファイルの保存」「6. 映像ファイルとして保存」を再度しましょう。完成です!!

動画をムービーメーカーに取り込もう (参考)

1. デジタルビデオカメラの IEEE1394 端子とパソコンの IEEE1394 端子を、IEEE1394 用のケーブルで接続します。
2. **Windows** ムービーメーカーを起動し、画面左のムービー作業の「1. ビデオの取り込み」の中から「ビデオデバイスからの取り込み」をクリック。
3. 取り込んだビデオファイルにつける名前と保存先を指定し、「次へ」をクリック。
4. 「コンピュータの最高の品質で再生 (推奨)」を選択し、「次へ」をクリック。
※目的に応じて画面に表示される指示に従って選択してください。
5. 取り込み方法 (テープ全体を自動 or テープの一部を手動) を選択し、「取り込み中にプレビューを表示する」にチェックを入れ、「次へ」をクリック。
6. プレビュー表示しながら取り込みが始まる。
7. 画面中央のコレクションに、いくつかの映像 (「クリップ」とムービーメーカーでは呼びます) が並びます。

以降は、**ビデオ映像をつなぎ合わせて編集しよう**を参照ください。

補足: **Windows** ムービーメーカーは、音声についてアフレコが可能です。テロップを入れることもできますが、表示位置や大きさの調節には制限があります。また、画面を分割したりすることはできません。本格的なビデオ編集ツールとして、「Adobe Premiere Pro」があります。このソフトでは、もっと詳細な編集を行うことができます。

ブログを作ろう！！

ブログ (Weblog) は、インターネット上で構築できる日記形式のWeb サイトです
 Web ページを作成するために必要なHTML 言語の知識がなくても簡単に作成できます
 多くのポータルサイト(Yahoo! Japan, MSN Japan, Livedoor, etc.)では無料で作成できます

国際協力・NGO 情報ブログ
<http://globalcitizen.jp/>



ブログ作成に必要なもの:
 インターネット接続

平成17年度1次隊小川建治先生(ミクロネシア)のブログ
<http://kyap.exblog.jp/> (エキサイトを使っています)



Google ではブログのみの検索エンジンも
 開発されています
<http://blogsearch.google.com/>

ポータルサイトにログイン(excite の場合)

http://www.excite.co.jp/



1. http://www.excite.co.jp/ にアクセスし、「ブログ」をクリック

2. 「エキサイトブログ」をクリック



3. ログインします。ID を持っていない場合は「新規登録(無料)」を選択

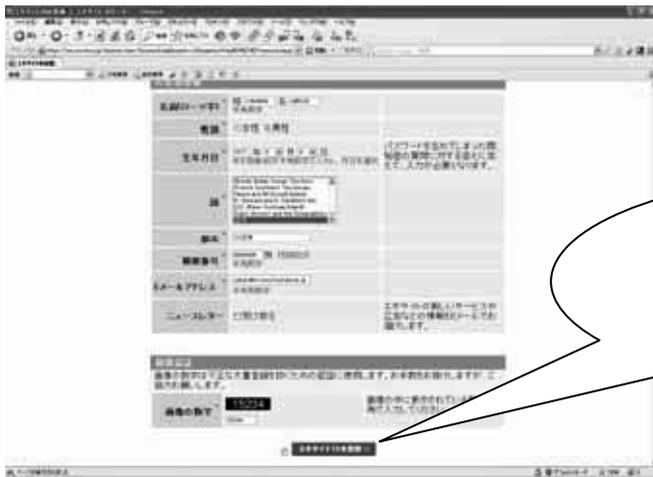


エキサイトID の取得

1. 規約に同意します



2. 必要事項を記入します
必須項目だけでOKです。
できたら「エキサイトIDを登録」
をクリック



3. この画面ができればID登録OK
IDがすでに利用されている場合は、
別のIDを再度入力してください



ブログを開設しよう

1. まずログインします

2. 「ブログの新規作成」
をクリック

3. ブログのアドレス、タイトル、説明等を記入します

完成！

記事を投稿しよう

1. 「投稿」をクリック

2. 投稿内容を書き込みます

3. 必要に応じて画像を貼り付けます

4. 送信！

5. できあがり

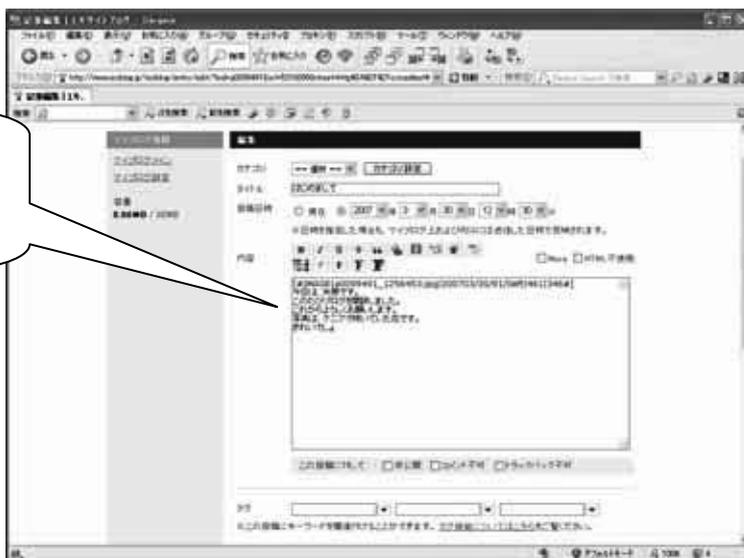
記事を編集・修正しよう

希望例: 表示される画像が大きすぎる。もっと小さくしたい!



1. 「編集」をクリック

2. 最後の数字“640|480”が画像の縦と横の長さです
ここでは“160|120”に変更します
必要に応じて文章も修正します



3. できあがり

ブログをカッコよくしよう(ブログの設定)

希望例:もっとサファリっぽくしたい!



1. 「設定」をクリック



2. カレンダーをつける
ロゴをはずす



3. スキンの変更
「大木」へ

スキンはより細かくカスタマイズできます。興味のある方は「編集」からカスタマイズしてみてください。
要HTML, CSS 知識。

完成！



参考

エキサイト以外のポータルサイトでも無料でブログを作成できます。サイトによってデザイン等、設定できるものが異なりますので、色々試してみてください。以下、参考ブログサイトです。

- <http://www.excite.co.jp/>
- <http://blog.livedoor.jp/>
- <http://blog.goo.ne.jp/>
- <http://blogs.yahoo.co.jp/>

ICT 研修 参考資料

Yahoo! メッセンジャーを利用したネットミーティング

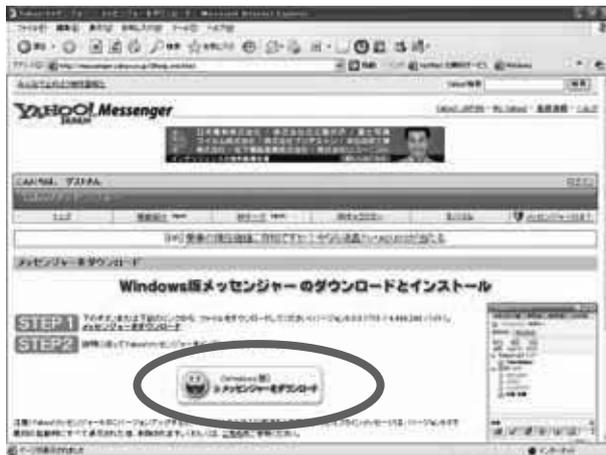
Windows Live メッセンジャーを利用したネットミーティング
(旧 MSN メッセンジャー)

YAHOO! Messenger JAPAN

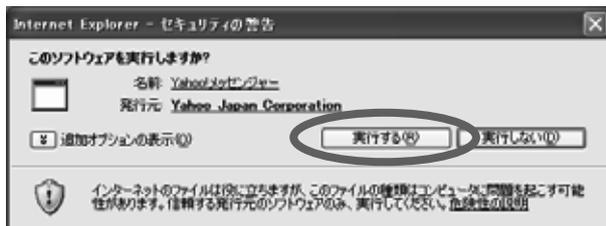
Messenger では、テレビ電話のように話をする事ができます。派遣隊員同士での情報交換や、帰国隊員との連絡、さらには派遣先の教室と勤務校とをつないでインターネットライブ授業等も行えます。

Yahoo! メッセンジャーを使えるようにしよう

1. <http://messenger.yahoo.co.jp/> にアクセスし、「いつでもどこでもメッセンジャーから Windows 版」をクリックします。



3. 「実行する」をクリックします。



4. 「次へ」をクリックします。



2. STEP1, STEP2 の指示に従い、「(Windows 版) メッセンジャーをダウンロード」をクリック。





5. サービス利用規約について、「同意」をクリックします。

6. インストール先フォルダの選択が表示されたら、「次へ」をクリックします。
(※フォルダを変更することもできます)



7. 「インストールを開始します。」と表示されたら「次へ」をクリックします。



8. 「インストールが完了しました。」と表示されたら、「完了」をクリックします。



9. 「Yahoo! JAPAN ID」をお持ちの方は、ID とパスワードを入力。(次頁へお進み下さい)
 「Yahoo! JAPAN ID」をお持ちでない方は、「Yahoo! JAPAN ID を取得」をクリック。
 < 「Yahoo! JAPAN ID」あり> < 「Yahoo! JAPAN ID」なし>

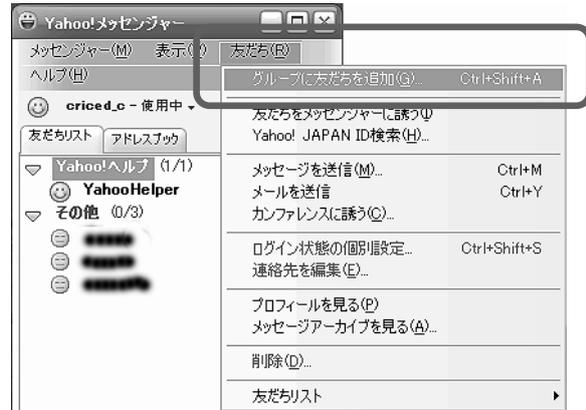
(次頁へお進み下さい)

10. 必要事項を入力し、「利用規約に同意して登録する」をクリックします(「Yahoo! JAPAN ID を取得」
 する方の手続きです)。

11. Yahoo! JAPAN ID 登録完了の画面で、情報を確認したら、画面右上の「× (赤地に白字)」をクリックして画面を閉じます。10の画面でID とパスワードを入力します。(次頁へお進み下さい)

Yahoo! メッセンジャーのメンバを追加しよう

1. 「友だち」メニューから「グループに友だちを追加」をクリックします。



2. 相手の「Yahoo! JAPAN ID」または「E-mail アドレス」を入力し、「次へ」をクリックします。



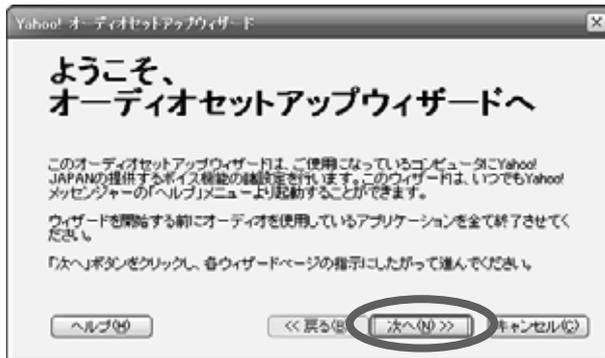
3. 相手に、あなたを紹介するメッセージを入力することもできます。「次へ」をクリックしてください。



4. 「完了」をクリックします。(友だちを複数追加するとき、「次へ」をクリックし、最後に「完了」をクリックします。)

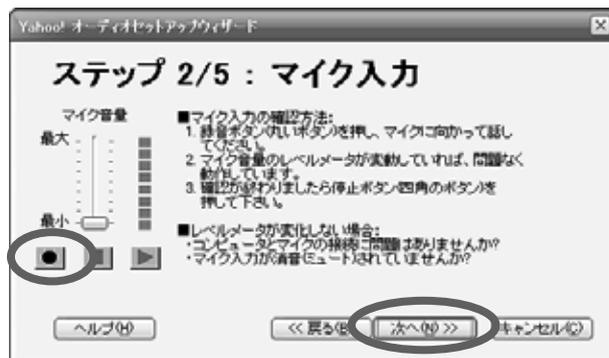
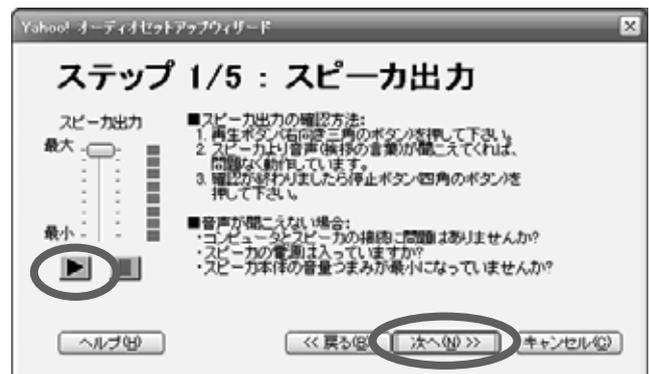
ヘッドセットを設定しよう

- 「ヘルプ」メニューから「オーディオセットアップ」をクリックします。



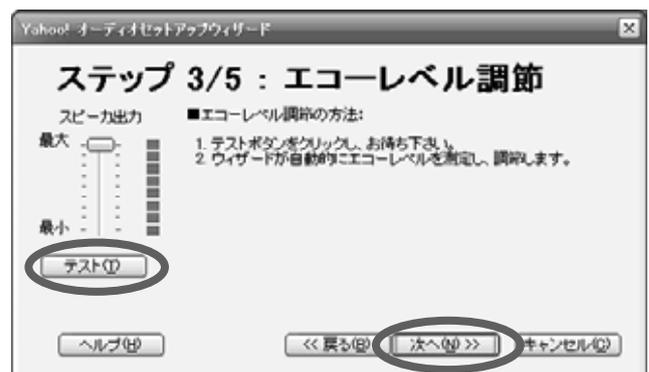
- 「オーディオセットアップウィザード」が表示されたら「次へ」をクリックします。

- スピーカーもしくはヘッドフォンの音声出力について確認します。画面左の「右向き三角ボタン」をクリックしてよければ、「次へ」をクリックします。

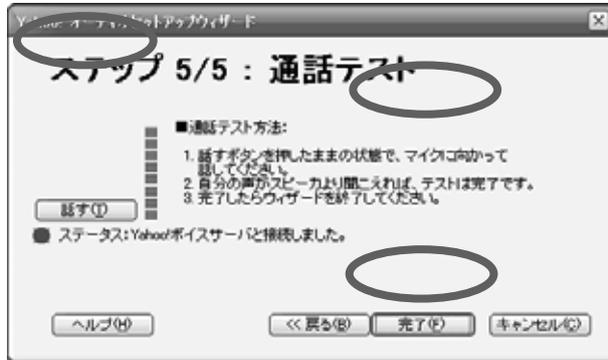
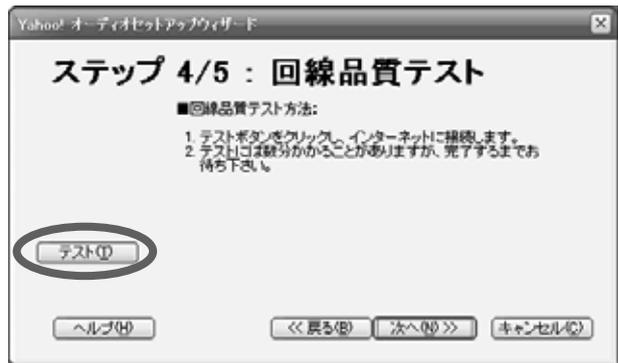


- マイク入力について確認します。よければ画面左の「丸いボタン」をクリックしてよければ、「次へ」をクリックします。「次へ」をクリックします。

- エコーレベルについて確認します。テストボタンを押して、指示を確認し、「次へ」をクリックします。



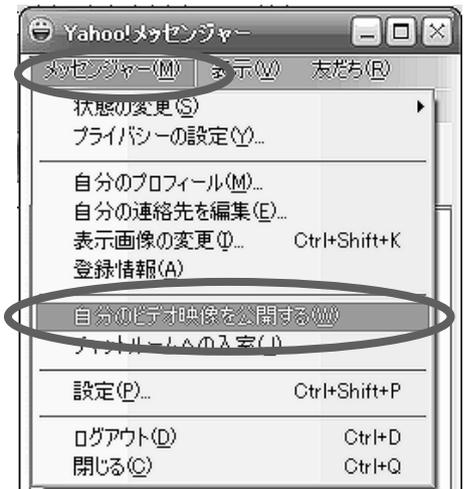
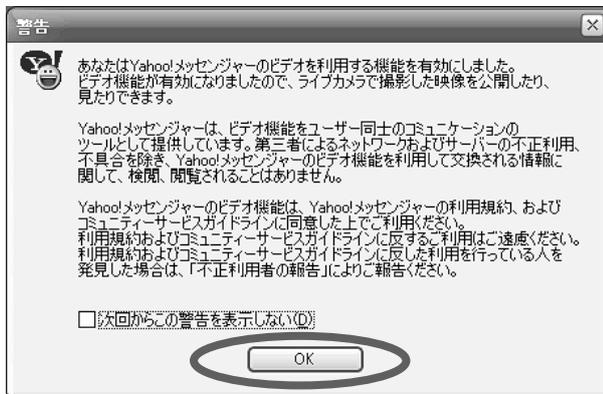
6. 回線の品質について確認します。テストボタンを押して、指示を確認し、「次へ」をクリックします。



7. 通話について確認します。話すボタンを押してよければ、「完了」をクリックします。

Web カメラを設定しよう

8. 「メッセージャー」メニューから「自分のビデオ映像を公開する」をクリックします。警告画面が表示されたら「OK」をクリックします。(画面に自分自身のビデオ映像が表示されます)

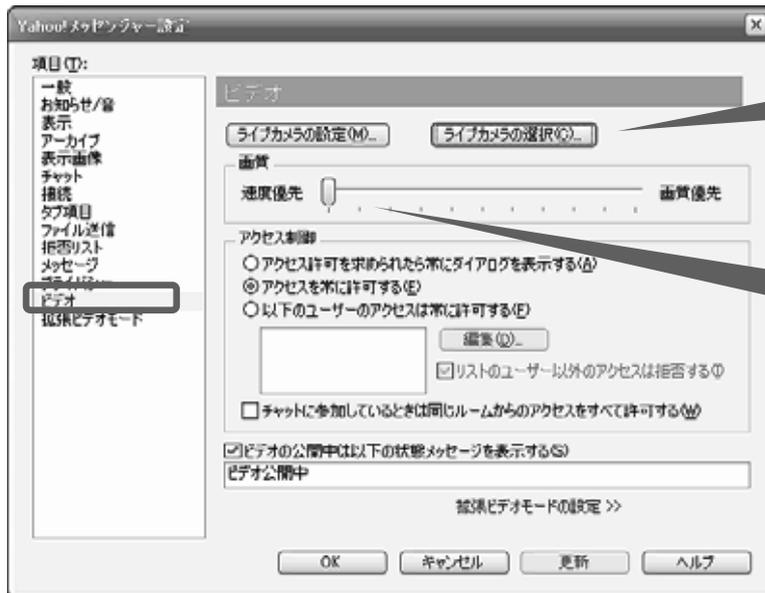


9. 「メッセージャー」メニューから「設定」をクリックします。

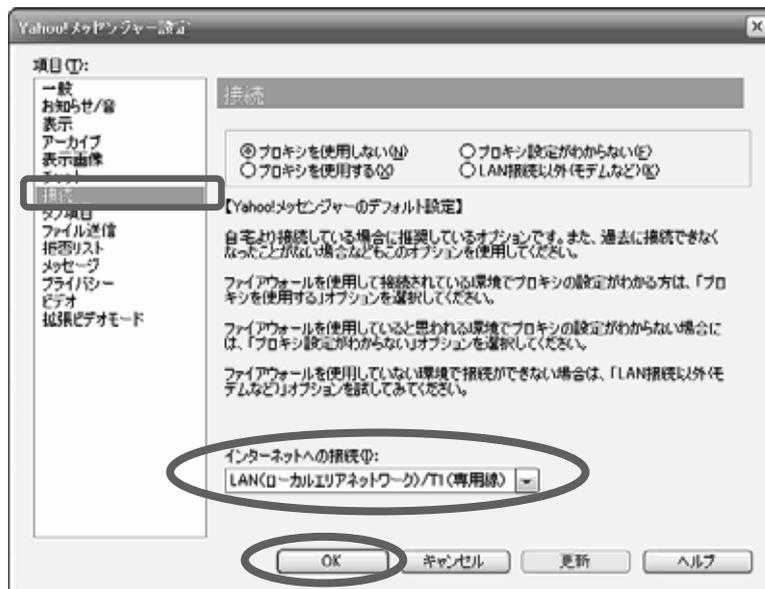


10. 「ビデオ」をクリックし、「ライブカメラの選択」で「Logitech QuickCam Pro 4000」を選択します。

また、速度を優先するか画質を優先するかを指定します。



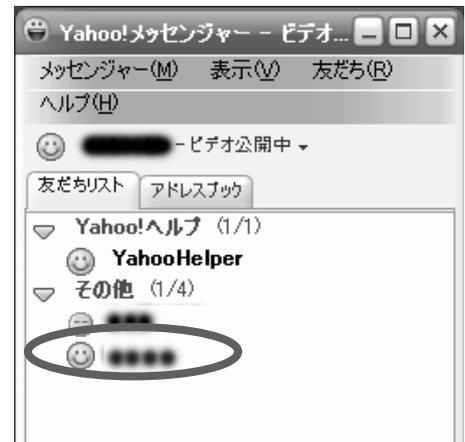
11. 「接続」をクリックし、インターネットへの接続方法を選択します。次に、「OK」をクリックして終了です。



ネットミーティングをしよう

※2人1組で試してもらいます。ネットミーティングは、片方の参加者がもう片方の参加者を招待する形式で行いますので、1人の方はYahoo!メッセージをオンラインにした状態で待機してください。

1. ネットミーティングする相手をクリックします。



2. チャットするときは、新しく開いた画面下の欄に文章を入力し、送信ボタンをクリックします。

文章を入力し、送信ボタンをクリックすることで、チャットできます

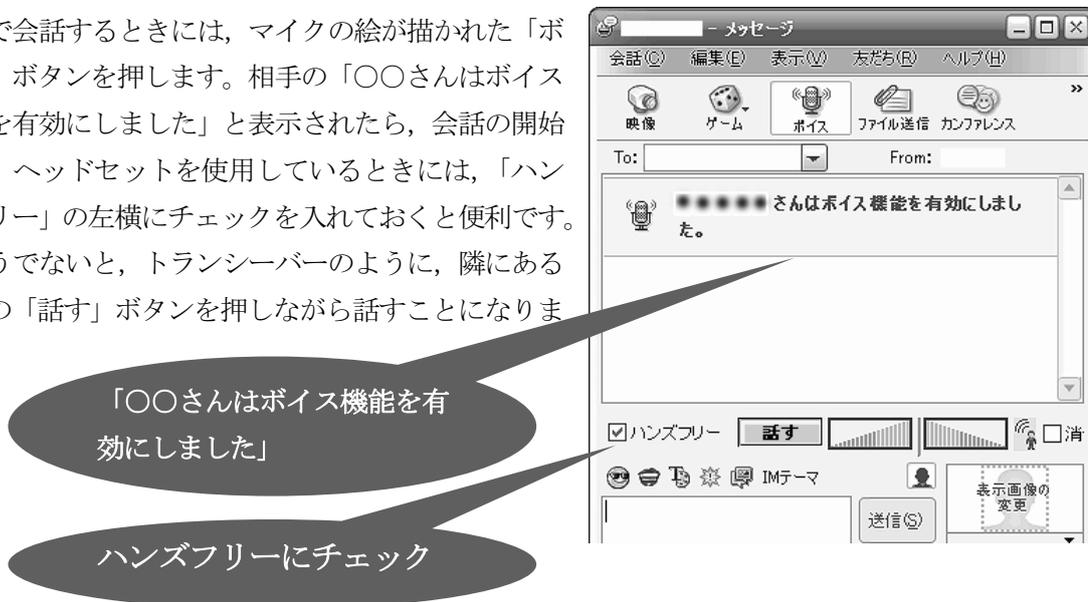
3. 画面に表示される文字のサイズは、「表示」メニューから「書式バー」をクリックします。フォントとポイントを指定すると、以後の表示が変わります。



4. チャット会話の記録をとることができます。「会話」メニューから「会話の保存」を選択し、ファイル名と保存場所を指定します。



5. 音声で会話するときには、マイクの絵が描かれた「ボイス」ボタンを押します。相手の「〇〇さんはボイス機能を有効にしました」と表示されたら、会話の開始です。ヘッドセットを使用しているときには、「ハンズフリー」の左横にチェックを入れておくと便利です。(そうでないと、トランシーバーのように、隣にある緑色の「話す」ボタンを押しながら話すこととなります。)

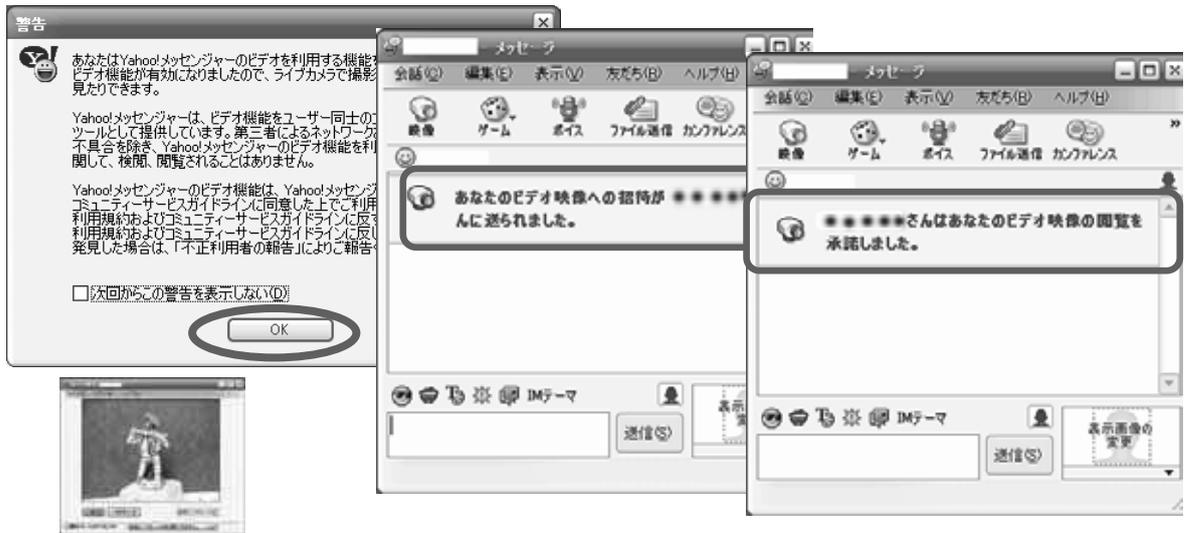


※<相手の画面>もしくは、<相手から音声会話を求められたときの画面>



6. 相手に映像を送るには、カメラの絵が描かれた「映像」ボタンを押します。警告画面がでますが、

「OK」をクリックします。「あなたのビデオ映像への招待が〇〇さんに送られました」との表示から、「〇〇さんはあなたのビデオ映像の閲覧を承諾しました」との表示になれば、映像の送信完了。



※<相手の画面>もしくは、<相手から映像閲覧を求められたときの画面>



「受諾」をクリック

- 相手の映像の表示サイズを変えるには、「ビデオ」メニューから「ズーム」を選び、「200%」などを選択します。



(PC画面の構成例 (左上に自分の映像, 右上に相手の

映像 200%, 左下にチャット)



ネットミーティング上では次のようなことができます。

- ・ファイルの送受信
- など



註1：ネットミーティングを行うためには、ファイアーウォールとの関連から、TCP のポートを設定する必要がある場合があります。

註2：最新版を利用しましょう。

<http://messenger.yahoo.co.jp/>



Messenger では、テレビ電話のように話をするができます。派遣隊員同士での情報交換や、帰国隊員との連絡、さらには派遣先の教室と勤務校とをつないでインターネットライブ授業等も行えます。

Windows Live メッセンジャー

をえるようにしよう

1. <http://messenger.live.jp/> にアクセスし、「MSN メッセンジャー7.0 ダウンロードする」をクリック



2. 「実行」をクリックします。以降、Yahoo!メッセンジャー同様にインストールを行います。

3. インストールが終わったらアカウントを作成して使ってみよう。



ログイン画面



チャット画面

ICT 活用の意義

jica

JICA-Net説明会

- JICA-Net って? -

2007年 4月
社会開発部 JICA-Netチーム

jica

本日の内容

1. JICA-Netは何ができる？
□ テレビ会議だけじゃない！
2. JICA-Netはどこで利用できる？
□ 現地でも、国内の小学校でも、どこでも！
3. JICA-Netはどうやって利用する？
□ すべてはJICA-Net HPから！

- 1 -

jica

1. JICA-Netで何ができる？

～JICA-Netが行っている業務～

- ① 遠隔技術協力に係る業務
テレビ会議装置・ネットワークを利用した
「遠隔講義・セミナー」の実施
- ② 課題対応力強化に係る業務
「マルチメディア教材」の作成・利用促進
- ③ その他：JICA-Net利用に係る支援
テレビ会議の運用支援など

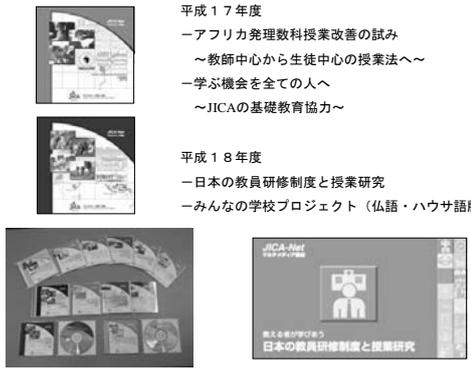
- 2 -

jica

JICA-Net マルチメディア教材

平成17年度
- アフリカ発理数科授業改善の試み
～教師中心から生徒中心の授業法へ～
- 学ぶ機会を全ての人へ
～JICAの基礎教育協力～

平成18年度
- 日本の教員研修制度と授業研究
- みんなの学校プロジェクト（仏語・ハウサ語版）



- 3 -

jica

事例紹介(1)

協力隊40周年記念式典 JICAボランティアフェスタ

実施日：2005年10月29日(土)

接続地点：代々木公園内イベント広場
⇔ 青森県ビーパークマラソン会場
⇔ ベトナム事務所



- 4 -

jica

事例紹介(2)

青年海外協力隊員・技術顧問によるテレビ会議 (インドネシア、フィリピン 他)

JICA-Netを使ったテレビ会議で技術顧問に直接相談する機会が開催されました。

事例紹介(3)

ライブで語ろう！ 隊員活動

現在活動中の青年海外協力隊員と説明会会場をライブ中継で結びました。

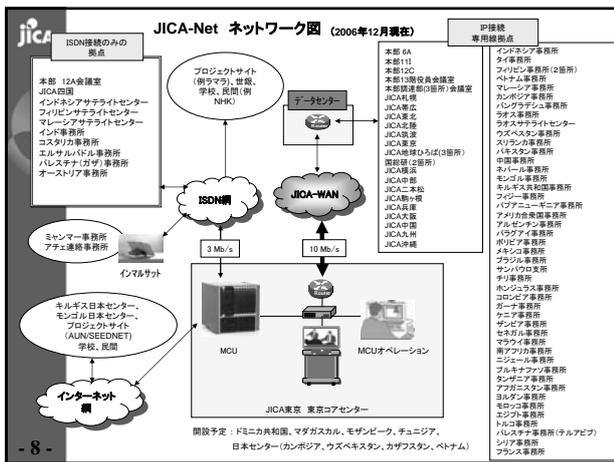
※写真はイメージです



- 5 -

JICA-Netの接続範囲

利用方法	拠点	回線種類
① JICA-Net拠点	JICA本部 在外事務所 国内機関	専用線or ISDN回線 (インターネット)
② 途上国の現場	アフガニスタン、 アチェ、スリランカ、 他	インマルサット ISDN回線 インターネット
③ 他機関	世銀GDLN 文科省SCS 民間レンタル施設	ISDN回線or 衛星 インターネット
④ 日本国内	小・中学校、他	ISDN回線 インターネット



3. JICA-Netはどうやって利用する？
予約・申請はJICA-NetHPにて
<http://www.jica-net.com>

JICA-Netコンテンツ
(遠隔講義セミナー・マルチメディア教材)

1. 教育	54件	13. 自然環境保全	45件
2. 保健医療	25件	14. 水産	2件
3. 水資源	17件	15. ジェンダー主流化	12件
4. ガバナンス	44件	16. 都市開発・地域開発	51件
5. 平和構築	2件	17. 貧困削減	4件
6. 社会保障	13件	18. 環境管理	30件
7. 運輸交通	15件	19. 援助アプローチ/戦略	19件
8. 情報通信技術	76件	20. 評価	7件
9. エネルギー・鉱業	32件	21. 南南協力	4件
10. 経済政策	46件	22. 市民参加	19件
11. 民間セクター開発	133件	23. 日本語教育	7件
12. 農業開発/農村開発	22件		

JICA-Net利用の方法
よくある質問

Q. 現地で直接予約等を行ってよいのか？

A. 原則現地事務所や担当 部署とご相談いただき、職員を通して予約をしてください。

平成 19 年度「青年海外協力隊現職教員特別研修」(派遣前研修) のアンケートの集計

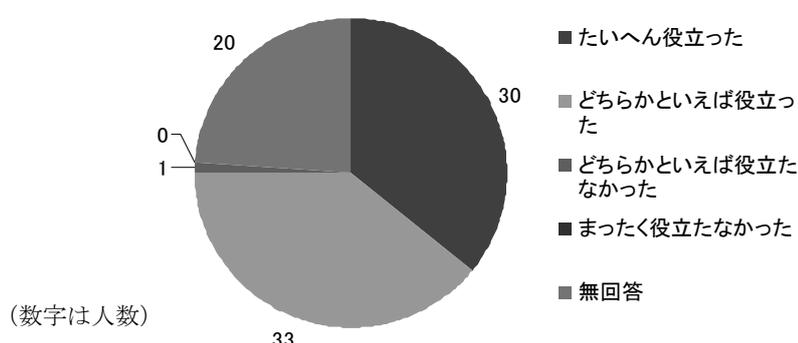
筑波大学教育開発国際協力研究センター (CRICED)

派遣現職教員のサポート 代表者 佐藤 真理子

担当者 鎌田 亮一

【講座全体の感想】

1- (1) 今回の研修の全体的な評価を次の中から選択してください。



「たいへん役立った」「どちらかというと役立った」という感想が 84 名中 63 名で、逆に「役立たなかった」のは 1 名で概ね参加者は満足していると考えられる。1-(1)の結果と 3-自由記述をあわせると参加者が評価している点は、情報・サポート・ネットワーク・技術の 4 つに集約できる。

(現地での活動に関する) 情報

- ・派遣後の取り組み、派遣中の様子などよくわかりました。
- ・帰国隊員による報告会は具体的であり、大変分かりやすかった。派遣前、派遣中にもサポートがあると知り、活用していきたいと思う。
- ・たくさんの情報がいただきました。訓練所に行って更に情報を集め具体的に準備物を作成したいと思います。
- ・体験談などもきき、派遣先での活動がさらにイメージできました。

(日本からの) サポート

- ・様々なサポートがあることを知ることができよかった。現地に行っても活用していきたいと思います。
- ・隊員への支援体制が整ってきていることがよくわかって、たのもしく感じた。今後ますますの進歩を期待するし、自分にできることは貢献したい。
- ・たくさんの人がこの制度を支えてくれているのだということを初めて知りました。現

地に行ってから日本とのつながりを活用して仕事ができるようにしたいなと思いました。

(隊員同士の) ネットワーク

- とってもありがたかったです。たくさんの知り合いができたこと、情報交換ができたことが何よりもうれしかったです。
- 現職参加のこの研修で訓練への不安が軽くなりました。また他の先生方とお会いできてうれしく思います。このような機会を頂きましてありがとうございました。

(ICT 研修などの) 技術指導

- 現地での活動の様子が見れて大変よかったです。また ICT 研修は現地でもかなり役立つ内容ですごく満足しました。

派遣前の現職教員が十分な情報が得ていないという状況があり情報自体が求められている。(日本からの) サポートでは現職教員の活動に多くの人に関わり協力体制を維持しようとしていることやそれらの人々のいる日本とつながっているという後ろから支えられている安心感を示している。(隊員同士の) ネットワークでは日本を離れそれぞれ一人で活動しているという現職教員同士、共通の環境を感じて励みとする横の連帯感を示している。(ICT 研修などの) 技術指導は通信上の障害の軽減だけでなく、現地での有効な活動ツールとして理解されていることが ICT 研修に関するアンケートから分かる。

3-自由記述では多くの改善の意見が寄せられています。

ー実施時期ー

- 年度末の業務、引っ越しを終えてすぐなので、もう少し日程に余裕が欲しい。
- 時期をもう少し遅くしてほしいです (してほしかった)。
- …県から東京へ移動するのも時間がかかり、初日はかなり疲れました。
- 学級や学校の仕事が忙しい中 (3月)、荷物の整理等をして4/1に出てくるのは日程が大変厳しい。入所日ははやまっているようだが、せめて、4/3 出発ぐらいであれば参加しやすい。

ー期間ー

- JICA の研修との関係もあるが、3日間ぐらいで行った方がよいと思う。
- 短期間に様々なことを行うため、知識は多少たくわえられたが、応用したり考え直す (自分のものにする) 時間が足りなかった。
- すばらしいが、疲労がたまる。

ー内容・方法ー

- 拠点システム構築事業については、課題によって分けられていたが、内容が重複している部分が多くある。グループに分かれて、個別に話してもらえる時間がとれるとよいと思う。
- 職種ごとに分かれて研修を行えると、より内容に迫ったものになるように思いました。
- 拠点システム構築事業の発表では、もう少し質疑応答の時間の余裕がほしかった。

- ・内容が重複しているところが多い。もっと事前にできていればと思う内容が多い。
- ・初日の前半の講座は実際のこれまでの自分の仕事、これからの任務に結びつけることが難しく、そのせいもあって理解につなげることも困難だった。(私の意識も低かったのかもしれない。すみません。)
- ・現職教員で教育職種が多い中、それ以外の職種で情報収集をしたり、サポートなどはどうなっているのでしょうか。

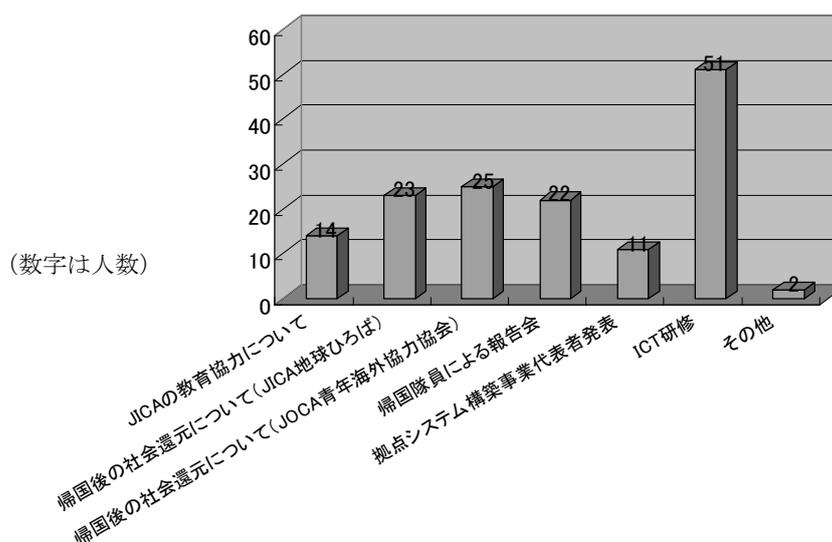
【その他】

ー帰国後の活動についてー

- ・現職参加ということで、帰国後を見通して、子どもたちに還元していく視点を失わずに、派遣国で活動していくことが重要だと感じた。
- ・自分の『責任』を初めて自覚しました。
- ・「帰国後、派遣中を見据えて・・・」という話が多かった印象があります。でも今は派遣先の情報をもっと知りたい時期です。その質問・疑問に十分答えていただいた後に、この研修を受けるとさらに、意欲が高まったように思います。

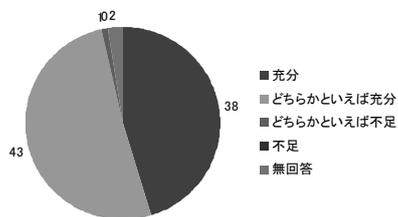
1-(2) 一層深めたいプログラムは次のどれですか

(複数選択可)

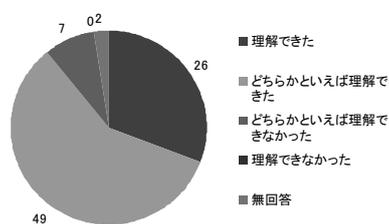


1-(3) 文科省の教育協力について

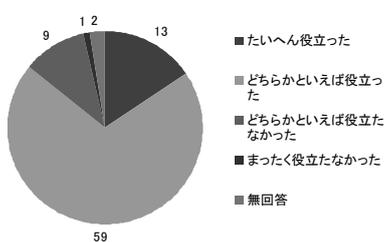
講義時間は



ねらいは



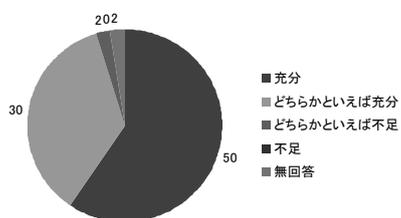
内容は



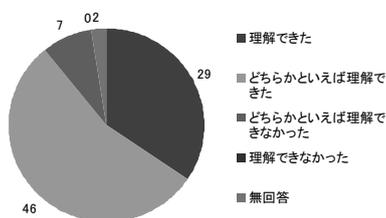
(数字は人数)

1-(4) JICA の教育協力について

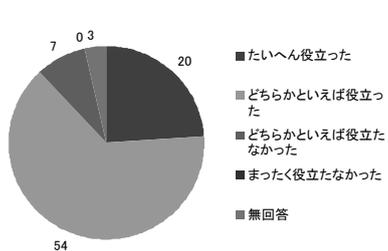
講義時間は



ねらいは



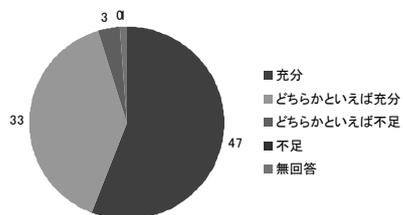
内容は



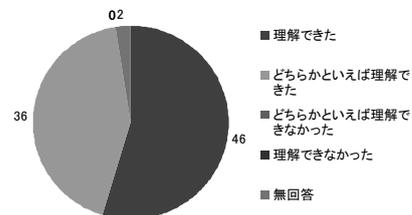
(数字は人数)

1-(5) 帰国後の社会還元について (JICA 地球ひろば)

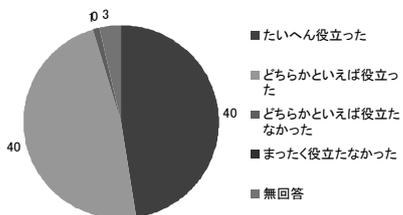
講義時間は



ねらいは



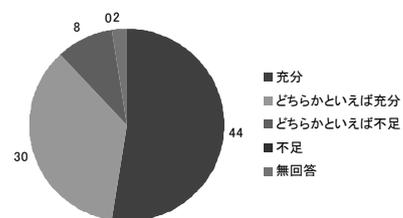
内容は



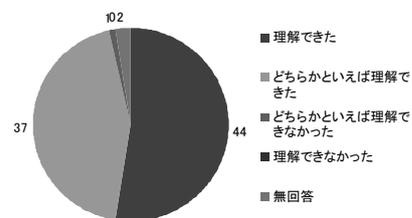
(数字は人数)

1-(6) 帰国後の社会還元について (JOCA 青年海外協力境界)

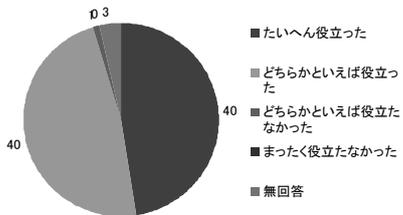
講義時間は



ねらいは



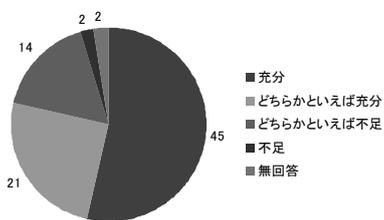
内容は



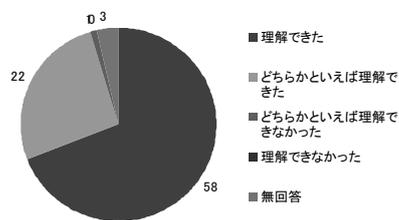
(数字は人数)

1-(7) 帰国隊員による報告会

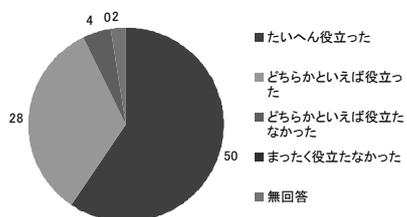
講義時間は



ねらいは



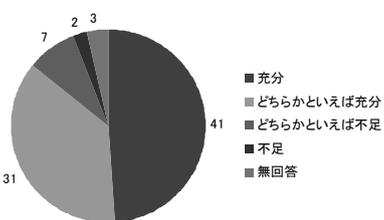
内容は



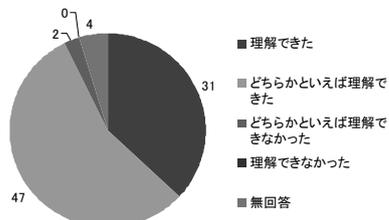
(数字は人数)

1-(8) 派遣現職教員のサポート活動

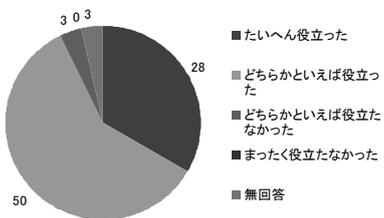
講義時間は



ねらいは



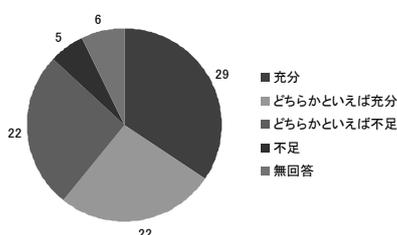
内容は



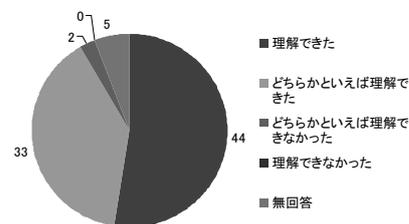
(数字は人数)

1-(9) ICT 研修

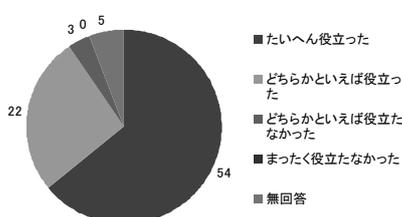
講義時間は



ねらいは



内容は



(数字は人数)

2 ICT 研修について

(自由記述より抜粋)

—事前案内—

- ・事前指示でかなりできる部分もありました。もっと内容が深くても良いと思いました。

—時期—

- ・この 2 日間の研修を夏ごろもしくは 12 月ごろまでに受けたかったです。そうすれば、必要なものをそろえたり、データベースで資料を集めたり、必要なビデオをとったりできるので。

—内容—

- ・ブログ作りやスカイプなど現地ですぐに役立つスキルを身につけさせていただいたことがよかったです。
- ・楽しかったです。教材づくりに生かします。(デジタルコンテンツ等)
- ・とても勉強になりました。特にスカイプは、驚きで、任地へ行っても活用していこうと思いました。
- ・ブログ・DV ともに研修を受けられるとよかったです。
- ・ホームページ作成。ブログだけでなく DV も受けたかった。パワーポイントの作成方法など。
- ・今まであまりやってこなかったもので、ついていくのが難しかったです。
- ・日頃使わない PC 関係の勉強ができてとてもよかったです！
- ・具体的に操作しながらの研修だったので成果 (ブログ立ち上げ) も十分に実感できて

良かったです。

- ・実際に使う必要のある即効性のあるものなので、もっとたくさんのごこと（プレゼンテーションなど）も教えて頂ければうれしかったです。

－方法－

- ・実際にビデオ撮影をして動画をパソコンに取り込むところからできるとより実際に使えと思いました。
- ・もう少し時間がほしかった。
- ・レベルにわけて研修をしてほしい。

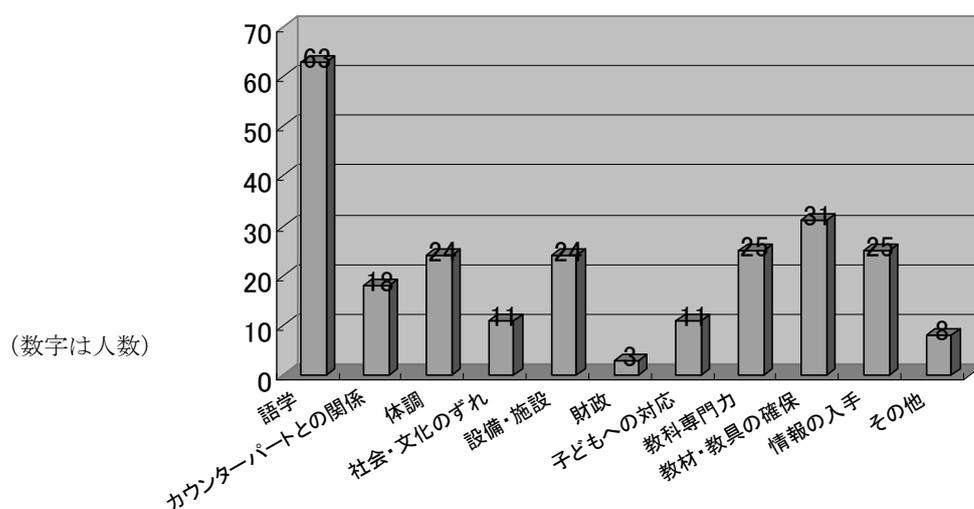
－設備－

- ・接続に手間がかかりました。教室数を増し、午後にしていただけたらと思いました。
- ・研修中 LAN 環境がうまくいかずオンラインにならなかったの、できたらもう少し広さと LAN 環境が事前に整備された状態で研修に臨めたらよかったです。

－その他－

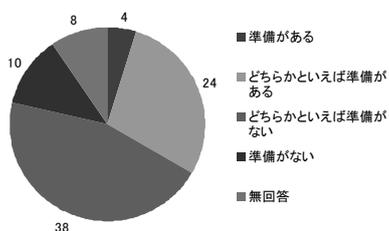
- ・日本の環境では十分にできることも、現地ではできない場合が・・・。そのあたりを考慮してもらえると。
- ・ICT 研修は情報発信として使えると感じた。これで勤務校（日本の）にも国際教育のお手伝いができる（恩返しができる）。
- ・持ち込み PC で研修できたことに大きな意義があったと思います。
- ・接続に予想以上の時間がかかり能率的でなかった。もう少し少数グループにして、初日にも実施するのもよいのでは。

4-(a) 教育系の職種で派遣される隊員



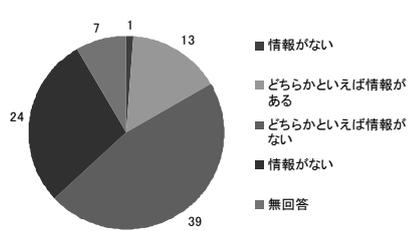
「教育系の職種で派遣される隊員」への質問

派遣先で教育活動を進めるにおいて
今までの経験から、派遣先で使える教材などの

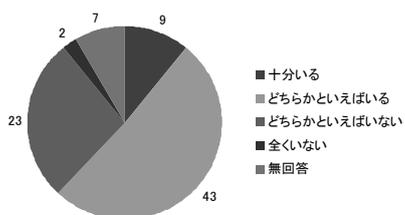


(数字は人数)

派遣先で教育活動を進めるにおいて
派遣先で教育活動を進める上での

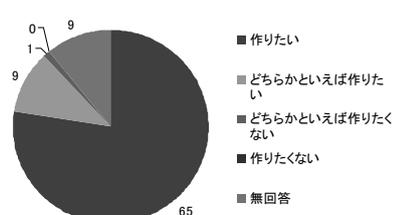


派遣先で教育活動を進めるにおいて
派遣先での問題を相談でき、支援してくれる仲間が日本に

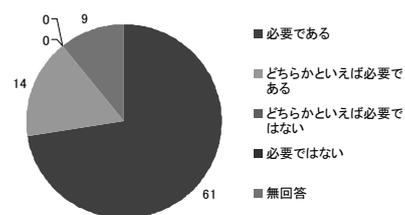


(数字は人数)

派遣先で教育活動を進めるにおいて
派遣先での隊員間や日本の関係者との間にネットワークを

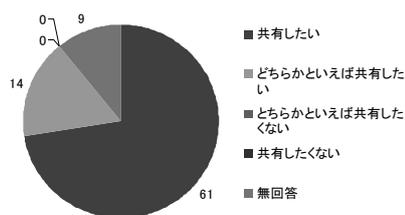


派遣先で教育活動を進めるにおいて
日本や派遣先での教育活動を相互支援する体制は



(数字は人数)

派遣先で教育活動を進めるにおいて
自分が派遣先で得た情報や教訓などは、多くの関係者と



4-(b)「教育系の職種以外で派遣される隊員」の方にお尋ねします

本講座の内容は、あなたの派遣先での活動にどのように役に立ちそうですか？

- ・分野相互の協力や情報交換のしかたについて、勉強になった。自分の情報収集や所属校との情報交換、発信についても具体的にわかったのでよかった。
- ・現段階においての任地の環境についての情報がないため、これから徐々に学んで行きたい。
- ・困った時（仕事面・生活面ともに）に、何か役立ちそうな情報がたくさんあった。今は、どんな困った状況になるかは、ばく然としているが、赴任した際、利用していきたい。
- ・帰国後のことを考えながら、現地での任務を行っていくことの重要性を意識しておくこと。
- ・教材研究の時間が確保されているので、たくさん提供されている情報を有効に使えることが分かったこと。
- ・ICT研修が良かった。村松先生の環境のお話とデータベースがこれからとても役に立ちそうです。
- ・分科会などで具体的な（派遣される国ではなく要請として）報告もきけたらなお心強かったろうと思いました。
- ・まずは、行った国の文化や習慣をしっかり受け入れるところから入らなければならないということが再認識できました。
- ・青少年対象になるので、参考になる（なりそう）なるものはあったと思います。帰国隊員の報告で、同じ職種の方の報告がきけてありがたかったです。

文部科学省国際協カイニシアティブ教育協力拠点形成事業報告書

平成 19 年度青年海外協力隊 現職教員特別研修報告書

発行：平成 19 年 10 月

発行者：佐藤 眞理子 (CRICED)

筑波大学教育開発国際協力研究センター (CRICED)

文部科学省国際協カイニシアティブ教育協力拠点形成事業
青年海外協力隊 派遣現職教員の支援

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

電話 029-853-7287 FAX 029-853-7288

E-mail: jocv@criced.tsukuba.ac.jp

<http://initiative.criced.tsukuba.ac.jp/index.html>

編集：鎌田 亮一 (CRICED)

印刷：前田印刷株式会社 筑波支店